塚山西古墳
塚山南古墳

平成15年３月

宇都宮市教育委員会

塚山古墳群全景

塚山南古墳出土須恵器

序　　文

塚山古墳群内に所在します塚山西古墳、塚山南古墳は、昭和48年４月に県指定史跡として指定された古墳です。昭和41年に、両古墳の間を宇都宮環状道路がとおる計画があがり、栃木県教育委員会で調査した結果、塚山西古墳の前方部と塚山南古墳の周堀が道路敷設内にかかることがわかり、その遺構並びに歴史的景観を保全するために、この部分がトンネル化されることとなりました。工事内容を変更し遺跡を守ったという点において、当時としては画期的な判断であったと思われます。

このように先人が苦労して守った古墳群を、歴史的位置付けをはっきりした形で後世に伝え、さらには、今後の史跡整備の基礎資料を得ることを目的とし平成７年から平成10年にかけて発掘調査を実施してまいりました。本報告書は、その成果をまとめたものです。

最後になりましたが、調査に関し色々とご指導、ご協力を賜りました諸先生並びに関係諸機関、そして特に調査の中心となって頂いた石部正志・中村紀男両先生並びに宇都宮大学考古学研究会、文星短期大学の皆様方に厚く御礼申し上げます。

平成15年３月

宇都宮市教育委員会
教育長　高　梨　眞　佐　岐

例　　言

1．本書は、栃木県宇都宮市西川田町西原1663番地ほかに所在する塚山西古墳（塚山２号墳）および塚山南古墳（塚山３号墳）の史跡整備のための発掘調査報告書である。

2．発掘調査期間は、次のとおりである。

塚山西古墳：３次調査1995年７月23日～９月６日（491㎡）
　　４次調査1996年３月４日～３月22日（ 71㎡）
塚山南古墳：２次調査1996年７月21日～８月24日（208㎡）
　　３次調査1997年３月４日～４月４日（154㎡）
　　４次調査1997年７月21日～８月29日（132㎡）
　　５次調査1998年２月22日～４月３日（200㎡）

なお、両古墳の１次調査は、1976年６月１日～７月８日に栃木県教育委員会により実施された。塚山西古墳の２次調査は1990年２月23日～４月３日に宇都宮大学考古学研究会が実施した。

3．調査対象面積は、塚山西古墳が570㎡、塚山南古墳が、600㎡である。

4．調査は宇都宮市教育委員会が主体者となり、これにあたった。

5．発掘調査は石部正志と中村紀男が担当して、これにあたった。

6．本書の執筆並びに編集は、石部正志の指導の下、宇都宮大学考古学研究会会員がこれを行い、それぞれの文末に氏名を記しその責任を明らかにした。

7．本書に掲載した地図は、国土地理院発行１／50,000「宇都宮」「壬生」である。

8．遺物の注記記号は、塚山西古墳がＴＫＮ（TsuKayama Nishi）、塚山南古墳がＴＫＭ（TsuKayama Minami）である。

9．遺物及び図面類は一括して宇都宮市教育委員会文化課が保管している。

10．発掘調査及び報告書作成の関係者は、次のとおりである。

主体者　宇都宮市教育委員会

担当者　石部正志（宇都宮大学）、中村紀男（文星短期大学）

宇都宮大学

飯田光央、井上左恵子、渡邊聰志、川原友美、神部悦子、木村牧子、篠原真理、佐藤嘉一、土屋竜太、粒良江美、中村一也、西巻さなえ、林　昌章、半澤雄作、平山健一郎、阿部智之、坂本勝志、篠崎容子、浦田謙一、刈部亜希子、末廣明久、高田勝廣、竹山　誠、仲沢　隼、山中恵美、結城早苗、新井祐介、伊藤明日香、内田裕也、大塚寛子、加藤伸子、菊地宣史、小林美佐、小松佳史、須長剛生、関口敦彦、大塚伸子、鈴木宣孝、鈴木奈保子、栃本さや、川嶋ルリ子、増田瑠美子、祐川幸子、黒須祐子

文星短期大学

大島孝則、上岡和樹、河村奈央子、栗原智美、諸江　泉、吉本一樹、川原小百合、中山須奈雄、渡辺有紀、川上元子、岡田　瞳、岩崎由記子、山村奈美、小沼典子、柿村雅代

専修大学

久保直之、（故）松浦雅之、大西琢也、原ひろみ、矢萩慶太、大野哲二、本田祐次、石井　亮、小林千鶴、作山智彦、三船亜紀、渡辺和成、渡邊友彦、西原崇之

新潟大学

小黒智久

古代史を学ぶ会

石川志う、大出雪夫、玉生紀子、中澤智子、南木芳子、野村芳枝

11. 発掘調査及び報告書作成に関しては、次の諸機関、諸氏のご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略)

阿久津純、秋元陽光、阿部知己、稲垣圭子、今泉　淳、江原　英、大金宣亮、大澤伸啓、鏑木理広、君島利行、國井弘紀、黒崎　淳、小森哲也、齋藤恒夫、篠原祐一、下谷　淳、高野義昭、田熊清彦、田代　隆、常川秀夫、津布樂一樹、冨　祐次、(故) 中山良雄、橋本澄朗、橋本博文、土生田純之、藤田典夫、細谷秀夫、森嶋秀一、山崎三郎、渡辺みどり

栃木県立博物館

なお、本報告書を作成するにあたり、臼玉については、㈶とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センターの篠原祐一氏に、縄文土器・弥生土器については同センターの江原英氏に、それぞれご指導を賜わった。重ねて謝意を表する。

凡　　例

1. 縮尺は、周辺測量図1／1,000、墳丘測量図1／600、トレンチ配置図1／600、トレンチ平面図1／200、トレンチ断面図1／100とした。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
3. 土層の説明においては、次の略号を使用した。

鹿沼軽石…K.P.、榛名二ツ岳渋川テフラ…Hr－FA、浅間B軽石…As－B

4. 遺物実測図の縮尺率は原則として埴輪を1／4、土器を1／3とし、その他は適宜これを与えた。
5. 遺物実測図は、中軸線から左半面に外面の状態を、右半分に断面形および内面の状態を図示することを原則とした。
6. 土器実測図の断面は、土師器を白抜き、須恵器を黒塗りにして表現した。
7. 遺物の番号は、本文・挿図・表・写真図版と一致する。
8. 墳丘測量図及びトレンチ配置図に示した塚山西古墳前方部、塚山南古墳後円部北側周堀外縁は、1976年の栃木県教育委員会による発掘調査結果(常川秀夫ほか　1979『塚山古墳群』栃木県教育委員会)に基づく。ただし、これと本報告の各平面図との正確な位置関係を把握できないため、最も整合性が高いと考えられる位置に挿入した。

目　　次

序　文
例　言
凡　例
目　次
序　章　経緯と環境
第1節　調査の経緯 …… 1
第2節　塚山古墳群の位置と環境 …… 1
1　位置と地理的環境 …… 1
2　歴史的環境 …… 2
3　塚山古墳群の概要 …… 8
第1章　塚山西古墳
第1節　調査の経過 …… 12
第2節　調査の概要 …… 12
1　測量調査 …… 12
2　発掘調査 …… 14
(1)　前方部の調査 …… 14
(2)　後円部の調査 …… 14
(3)　くびれ部の調査 …… 20
(4)　埋葬施設の調査 …… 25
(5)　塚山西古墳周辺の調査 …… 25
第3節　出土遺物 …… 26
1　塚山西古墳出土遺物 …… 26
(1)　埴輪 …… 26
(2)　須恵器 …… 34
2　塚山西古墳外出土遺物 …… 34
(1)　縄文土器 …… 34
(2)　弥生土器 …… 36
(3)　埴輪 …… 36
第4節　まとめ …… 37
第2章　塚山南古墳
第1節　調査の経過 …… 38
第2節　調査の概要 …… 39
1　測量調査 …… 39
2　発掘調査 …… 42
(1)　前方部の調査 …… 42
(2)　後円部の調査 …… 43
(3)　くびれ部の調査 …… 48
(4)　塚山南古墳周辺の調査 …… 48
(5)　遺物出土状態 …… 54
第3節　出土遺物 …… 59
1　塚山南古墳出土遺物 …… 59
(1)　埴輪 …… 59
(2)　土師器 …… 79
(3)　須恵器 …… 86
(4)　臼玉 …… 91
2　塚山南古墳外出土遺物 …… 92
第4節　まとめ …… 93
1　遺構 …… 93
2　遺物 …… 94

挿図目次

第1図　基本層序概念図 …… 3
第2図　塚山古墳群周辺遺跡分布図 …… 5
第3図　塚山古墳群周辺測量図 …… 9・10
第4図　塚山西古墳墳丘測量図 …… 13
第5図　塚山西古墳トレンチ配置図 …… 15
第6図　塚山西古墳トレンチ平面図(1) …… 16
第7図　塚山西古墳トレンチ平面図(2) …… 17
第8図　塚山西古墳トレンチ平面図(3) …… 18
第9図　塚山西古墳トレンチ平面図(4) …… 19
第10図　塚山西古墳トレンチ断面図(1) …… 21・22
第11図　塚山西古墳トレンチ断面図(2) …… 23
第12図　塚山西古墳トレンチ平面図・断面図（埋葬施設） …… 24
第13図　塚山西古墳前方部出土埴輪実測図 …… 27
第14図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(1) …… 28
第15図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(2) …… 29
第16図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(3) …… 30
第17図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(4) …… 31
第18図　塚山西古墳くびれ部出土埴輪実測図 …… 32
第19図　塚山西古墳出土須恵器実測図 …… 35
第20図　塚山西古墳外出土遺物実測図 …… 36
第21図　塚山南古墳墳丘測量図（1979年） …… 39
第22図　塚山南古墳墳丘測量図（1996年） …… 40
第23図　塚山南古墳トレンチ配置図 …… 41
第24図　塚山南古墳トレンチ平面図(1) …… 44
第25図　塚山南古墳トレンチ平面図(2) …… 45
第26図　塚山南古墳トレンチ平面図(3) …… 46
第27図　塚山南古墳トレンチ平面図(4) …… 47
第28図　塚山南古墳トレンチ断面図(1) …… 49・50
第29図　塚山南古墳トレンチ断面図(2) …… 51・52
第30図　塚山南古墳トレンチ断面図(3) …… 53
第31図　塚山南古墳T－1土師器・須恵器出土状態 …… 55
第32図　塚山南古墳T－6土師器出土状態 …… 56
第33図　塚山南古墳T－6須恵器出土状態(1) …… 56
第34図　塚山南古墳T－6須恵器出土状態(2) …… 57
第35図　塚山南古墳T－6須恵器出土状態(3) …… 58
第36図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(1) …… 61
第37図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(2) …… 62
第38図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(3) …… 63
第39図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(4) …… 64
第40図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(5) …… 65
第41図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(6) …… 66
第42図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(7) …… 67
第43図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(8) …… 68
第44図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(9) …… 69
第45図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(10) …… 70
第46図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(1) …… 71
第47図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(2) …… 72
第48図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(3) …… 73
第49図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(4) …… 74
第50図　塚山南古墳出土線刻埴輪実測図 …… 74
第51図　塚山南古墳出土形象埴輪実測図 …… 75
第52図　塚山南古墳土師器器形分類図 …… 80
第53図　塚山南古墳出土土師器実測図(1) …… 82
第54図　塚山南古墳出土土師器実測図(2) …… 83
第55図　塚山南古墳出土土師器実測図(3) …… 84
第56図　塚山南古墳出土須恵器実測図(1) …… 87
第57図　塚山南古墳出土須恵器実測図(2) …… 89
第58図　塚山南古墳出土須恵器実測図(3) …… 90
第59図　塚山南古墳出土臼玉実測図 …… 91
第60図　塚山南古墳外出土遺物実測図 …… 92
第61図　塚山南古墳出土円筒埴輪分類図 …… 94
第62図　塚山古墳出土線刻埴輪 …… 94
第63図　全国二重亀集成図 …… 96

表目次

第1表　調査年次 …… 1
第2表　塚山古墳群周辺古墳一覧表 …… 6
第3表　塚山古墳群周辺遺跡一覧表 …… 7
第4表　塚山西古墳新旧トレンチ対応表 …… 12
第5表　塚山西古墳出土埴輪観察表 …… 33・34
第6表　塚山西古墳出土須恵器観察表 …… 34
第7表　塚山6号墳・遺構外出土遺物観察表 …… 37
第8表　塚山南古墳新旧トレンチ対応表 …… 38
第9表　塚山南古墳出土円筒埴輪観察表 …… 75～77
第10表　塚山南古墳出土朝顔形埴輪観察表 …… 78
第11表　塚山南古墳出土形象埴輪観察表 …… 78
第12表　塚山南古墳出土土師器観察表 …… 81・85・86
第13表　塚山南古墳出土須恵器観察表 …… 90・91
第14表　塚山南古墳出土臼玉観察表 …… 91
第15表　塚山南古墳外出土遺物観察表 …… 92
第16表　全国二重亀集成表 …… 97

写 真 図 版 目 次

[塚山西古墳]

図版1

(1) 全景（北から）

(2) 全景（南から）

図版2

(1) T－1：後円部北側（南から）

(2) T－2：後円部北側（南から）

(3) T－3：後円部北側遺物出土状態（北から）

(4) T－3：後円部北側遺物出土状態（北から）

(5) T－4：後円部北側（南から）

(6) T－6：東側くびれ部（東から）

(7) T－7：前方部南側（南から）

(8) 作業風景

図版3

(1) T－9北：墳頂南壁土層断面（北から）

(2) T－9北：墳頂東壁土層断面（西から）

図版4 出土埴輪①

図版5 出土埴輪②

図版6 出土埴輪③

図版7 出土埴輪④

図版8 出土埴輪⑤

図版9

(1) 出土埴輪⑥

(2) 出土須恵器

[塚山南古墳]

図版10

(1) 全景（西から 1998年春）

(2) 作業風景（西から 1996年夏）

図版11

(1) T－1：前方部前面完掘状態（南から）

(2) T－7：前方部東側コーナー完掘状態（南から）

(3) T－2：前方部西側面完掘状態（西から）

(4) T－2：前方部西側周堀内遺物出土状態（北から）

(5) T－6：東側くびれ部盛土状態（東から）

(6) T－6：東側くびれ部周堀外縁完掘状態（北から）

(7) T－6：東側くびれ部遺物出土状態（北西から）

(8) T－6：東側くびれ部作業風景（1998年）

図版12

(1) T－1：前方部周堀内遺物出土状態（東から）

(2) T－6：東側くびれ部完掘状態（東から）

図版13

(1) T－3：後円部西側面完掘状態（西から）

(2) T－3：後円部西側遺物出土状態（西から）

(3) T－4：後円部北側面完掘状態（北から）

(4) T－5：後円部東側面完掘状態（東から）

(5) T－9：東側溝完掘状態（北西から）

(6) T－8：西側溝完掘状態（南から）

(7) 作業風景（1997年）

(8) 現地説明会風景（東から 1997年夏）

図版14 出土埴輪①

図版15 出土埴輪②

図版16 出土埴輪③

図版17 出土土師器①

図版18 出土土師器②

図版19 出土須恵器①

図版20 出土須恵器②

図版21 出土須恵器③

図版22 出土須恵器④

図版23 出土須恵器⑤

図版24

(1) 出土須恵器⑥

(2) 出土臼玉

序　章　経緯と環境

第１節　調査の経緯

塚山古墳群のうち、塚山古墳は1953年に県史跡の指定を受けた。1973年には塚山西・塚山南の両古墳の墳丘部分も史跡に指定されたが、周辺は未指定のままであった。しかし、塚山西古墳と塚山南古墳の間に新設道路（現宇都宮環状道路）が敷設される計画に伴い、1976年に道路で切断される塚山西古墳の前方部と塚山南古墳の後円部の一部が、県の文化課によって発掘調査された。この調査結果から、古墳群の重要性が認識され、道路のトンネル化によって、３基の古墳の歴史的な景観が保全された。

この保全された景観を後世に残すために、両古墳の周辺一帯（細谷秀夫氏所有地）が1994年に県史跡に追加指定された。そこで、この機会に塚山古墳群の残されている全域の史跡整備に先立つ確認調査を実施することが宇都宮市教育委員会から石部正志（宇都宮大学教授）に委ねられた。

調査は石部指導のもと、中村紀男（文星短期大学助教授）、土生田純之（専修大学助教授）の協力を得て、宇都宮大学考古学研究会、文星短期大学考古学研究会、専修大学学生などがその調査にあたった。以下に、塚山古墳群の一連の調査年次表を記す。

（阿部智之）

第１表　調査年次

	塚　山　古　墳	塚　山　西　古　墳	塚　山　南　古　墳
1976年		第１次測量調査 ６／１～７／８　第１次発掘調査	第１次測量調査 ６／１～７／８　第１次発掘調査
1989年	３月～　５月　測量調査 ８／２～８／21　第１次発掘調査		
1990年	２／23～４／３　第２次発掘調査 ７／21～８／31　第３次発掘調査	２／23～４／３　第２次発掘調査	
1991年	７／11～７／23　第４次発掘調査		
1995年		２／19～３／15　第２次測量調査 ７／23～９／６　第３次発掘調査	
1996年		３／４～３／22　第４次発掘調査	２／20～３／３　第２次測量調査 ７／21～８／24　第２次発掘調査
1997年			３／４～４／４　第３次発掘調査 ７／21～８／29　第４次発掘調査
1998年			２／22～４／３　第５次測量調査

第２節　塚山古墳群の位置と環境

１　位置と地理的環境

塚山古墳群は宇都宮市中心街から南へ約6.5kmの地点の宇都宮市西川田町に所在する。

宇都宮市南部の地形を見ると、東から鬼怒川・田川・姿川という南流する３つ河川によって開かれた沖積低地とその間を南北に連なる数条の洪積台地からなっている。これらはそれぞれ清原・岡本・田原・宝木・鹿沼台地と呼称されている。このうち、塚山古墳群は田川と姿川に挟まれた宝木台地のうちの舌状台地南端

部に位置する。この舌状台地の標高は約90m、沖積低地との比高は約3mである。舌状台地の東西は小支谷であり、戦後間もなくまで低湿地帯であったが、現在では埋め立てられ宅地化が進んでいる。北側についても県総合運動公園の駐車場などになっており、旧地形を臨むことは難しい状況である。(篠崎容子・山中惠美)

基本層序（第1図）

塚山西古墳及び塚山南古墳における基本層序を以下に示す。

第Ⅰ層：表土層。層厚は10cm程度で、色調は黒色。

第Ⅱ層：旧表土層。層厚は10cm程度で、色調は黒色。一部を除き、周堀外縁より外側では整地もしくは削平により確認できなかった。

第Ⅲ層：褐色土層。ローム層と旧表土層の漸移層である。色調は褐色。旧表土層と同様に、一部を除き、周堀の外側では整地もしくは削平により確認できなかった。

第Ⅳ層：ローム層。色調は明褐色。非常に堅緻である。

第Ⅴ層：K.P.層。色調は明るい橙褐色。0.5cm程の粒子で構成され、通水性に富む。

第Ⅵ層：ローム層。色調は明褐色。非常に堅緻である。

第Ⅶ層：白色粘土層。色調は灰白色。非常に堅緻である。

註）塚山南古墳の南東側では第Ⅲ層、第Ⅳ層、第Ⅴ層及び第Ⅵ層がなくなり、第Ⅶ層の上に直接第Ⅱ層が堆積している。（坂本勝志）

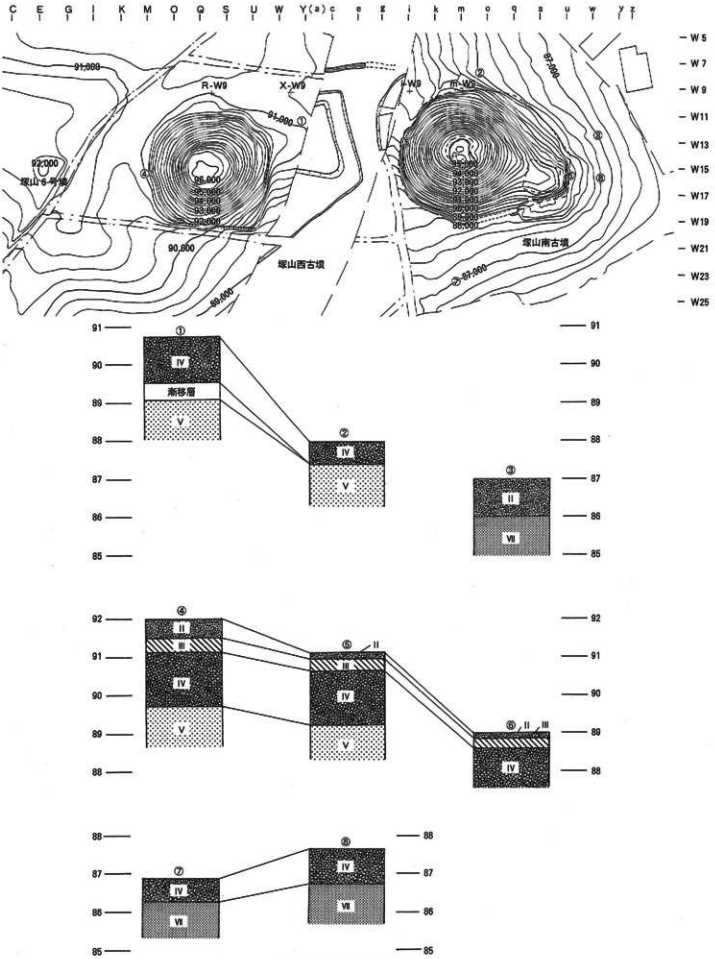
2　歴史的環境

塚山古墳群の周辺の遺跡について時代ごとに見てみる。(第2図、第2表・第3表を参照)

旧石器・縄文時代　塚山古墳群周辺における旧石器時代の遺跡としては、陸上自衛隊宇都宮駐屯地敷地の西側に存在する雀宮遺跡（26）がある。西方に田川が流れる低台地の南斜面に位置し、尖頭器などが採集されている。縄文時代の遺跡としては、二軒屋遺跡（中期）（4）、石川坪遺跡（中・後・晩期）(25) 等が挙げられる。二軒屋遺跡では下野考古学研究会の調査により、中期の袋状土壙が確認されている。石川坪遺跡では縄文中期の加曽利E式・後期の称名寺式・堀之内式（Ⅰ、Ⅱ）・晩期の安行式などの土器が出土している。

弥生時代　宇都宮市域に分布する弥生時代の遺跡は、野沢遺跡等の中期の遺跡を除いて市南部に多く見られ、先に挙げた二軒屋遺跡（後期）（4）、西原遺跡（後期）、そして天狗原遺跡（後期）(22) や、本村遺跡(13) などが挙げられる。中でも二軒屋遺跡は、栃木県における弥生時代後期として位置付けられている「二軒屋式」の標式遺跡であるが、二軒屋式土器の分布の中心は鬼怒川中流両岸域・茨城県西北部に求められることが確実となってきており、宇都宮市域はその北端に当たる。

古墳時代　前期の遺跡としては、田川右岸に茂原古墳群がある。北側から権現山古墳（28）、大日塚古墳(29)、愛宕塚古墳（30）と3基の前方後方墳から構成されている。大日塚古墳は主体部が木棺直葬で、副葬品は、青銅製素文鏡が1面出土している。愛宕塚古墳の主体部は舟形木棺で、小型倣製鏡・櫛・玉類などの副葬品が出土している。また、周堀くびれ部からは底部を穿孔された有段口縁壺と、広口壺が出土している。権現山古墳は墳丘測量調査しか行われていないが、一回り大形の前方後方墳である。3古墳ともその墳形・出土遺物などから、前期の古墳であることが分かり、この付近の古墳編年を考える上での重要な古墳である。築造順序は、内容・規模などから大日塚古墳→愛宕塚古墳→権現山古墳と考えられている。田川右岸の台地上には、径54mの大型円墳の上神主浅間神社古墳（34）があり、1992年の発掘調査の結果、底部穿孔壺形土器が出土した。このことから前期末から中期初頭にかけての築造と考えられる。


C E G I K M O Q S U W Y(a) c e g i k m o q s u w y z
W 5
W 7
W 9
W 11
W 13
W 15
W 17
W 19
W 21
W 23
W 25
91.000
R-W9
X-W9
91.000
92.000
塚山６号墳
96.000
90.000
塚山西古墳
89.000
97.000
R-W9
塚山南古墳
87.000
IV
南移層
V
II
VII
III
VI

第１図　基本層序概念図

集落遺跡としては、権現山古墳の北側に権現山北遺跡（27）がある。竪穴住居跡15軒（古墳時代前期１軒・中期８軒・後期６軒）などが確認された。塚山古墳群の約２㎞西、姿川の左岸には花の木町遺跡（17）があり、前期後半の良好な土器を有する住居跡群が確認されている。

中期の遺跡としては、まず田川左岸の徹高地上にある東谷古墳群が挙げられる。東谷古墳群は、全長100ｍの笹塚古墳（39）、削平によって後円部のみが残る双子塚古墳（40）などの前方後円墳、鶴舞塚古墳（38）・松の塚古墳（41）といった大型円墳、その他いくつかの小円墳で構成されている。笹塚古墳は未発掘であるが、墳形および採取される埴輪の特徴から５世紀前～中葉に築造されたと考えられている。笹塚古墳の南に隣接する鶴舞塚古墳は、1983年に宅地化に伴う発掘調査が行われた。発掘調査の結果、鶴舞塚古墳の周堀が笹塚古墳の周堀を切っていることが分かり、鶴舞塚古墳の築造が、笹塚古墳以降であることが明らかになり、笹塚古墳の築造時期を考える上で注目すべきところである。また、この一帯は、北関東自動車道建設や宇都宮テクノポリス事業による開発により、杉村遺跡（45）や東谷・中島地区遺跡群など多くの遺跡の発掘がなされている。

スケート場建設に伴う発掘調査が行われた城南３丁目遺跡（10）では、小型の円墳と方墳が１基ずつ確認されている。円墳の主体部は木棺直葬で、獣帯鏡・刀子などが出土している。

本村遺跡の２号墳（13）は、周囲を礫で舟形に組んだ箱式石棺の主体部をもち、乳文鏡、弓、直刀など豊富な副葬品が確認されている。塚山古墳群と同時期の築造と考えられ、塚山古墳群を盟主とする体制の中の重要な位置にあった者の墓であることが考えられる。

塚山古墳群と前後した時期には、帆立貝形前方後円墳の雀宮牛塚古墳（23）が存在した。過去３回（1824、1877、1969年）にわたって発掘調査されており、中でも1824年には、画文帯神獣鏡等の鏡類や、豊富な馬具などが出土している。画文帯神獣鏡は熊本県江田船山古墳等と同笵である。

塚山古墳群の東方約400ｍに位置する北若松原遺跡（５）は、塚山古墳群と同時期に当たる古墳時代中期から後期にかけての集落であり、竪穴住居跡約30軒などが確認されている。出土遺物には土師器・須恵器及び、鉄鏃等が見られ、塚山古墳群との関連が考えられる。

後期の遺跡としては、針ケ谷新田古墳群（20）が挙げられる。現在は４基の円墳が知られ、うち１・３号墳は発掘調査が行われた。埋葬施設は全て横穴式石室である。既に消滅してしまった古墳も何基かあったようであるが、その内容も現存する４基と同じ様相を持つ小円墳のみで構成されていたと推定される。１号墳からは土師器・鉄鏃・直刀が、３号墳からは須恵器長頸瓶が出土している。針ケ谷新田古墳群からは約１㎞西に位置する幕田古墳群（19）も、円墳10基から構成されており、広域的に群集墳が形成されていた地帯と考えることもできる。綾女塚古墳（７）は、1910年の東北線複線化工事により消滅してしまったが、前方後円墳であったとされる。出土遺物として国指定重要文化財の女子人物埴輪像が有名である。十里木古墳（６）は、墳形・規模は不明で、現在は切石の石室が露出しているのみである。塚山古墳群の約2.5㎞西を流れる姿川流域には、安塚坂下古墳群（18）や上原古墳群など、後期に属する古墳が多くなる。

奈良・平安時代　宇都宮市茂原地区内では、北原東・下谷田遺跡（32）がある。飛鳥時代の方形区画施設は、東西108ｍ・南北150ｍの規模で八脚門が確認されており、遺跡の性格が注目される。また、北原東・下谷田遺跡より北西1.2㎞にある上神主・茂原遺跡（33）は、以前から人名瓦を含む古瓦が出土することで有名であり、廃寺跡と考えられていたが、1995年からの発掘調査により、当時の行政施設である「郡衙正倉」の可能性が高くなった。

第2図　塚山古墳群周辺遺跡分布図

第２表　塚山古墳群周辺古墳一覧表

No.	古　墳　名	墳　形	規　　模	埋葬施設	遺　　物　　等	所　　在
1	塚山古墳	前方後円墳	98m		埴輪、須恵器、土師器	宇都宮市西川田町
2	塚山西古墳	帆立貝形	63.1m		今回調査、埴輪、須恵器、土師器	西川田町
3	塚山南古墳	帆立貝形	58m		今回調査、埴輪、須恵器、土師器、臼玉	西川田町
6	十里木古墳	不明		横穴式石室		雀宮町
7	綾女塚古墳	前方後円墳			女子人物埴輪	雀宮町
10	城南３丁目１号墳	円墳	12m	２基の主体部	鏡、直刀、鹿角装刀子、土師器	城南３丁目
13	本村２号墳	円墳	24m	組合せ式箱形石棺	鏡、直刀、弓、漆製品、鉄鏃、臼玉、埴輪	川田町
16	下欠亀塚古墳	前方後円墳	50m		馬具、埴輪、須恵器	下欠町
18	安塚板下古墳群	前方後円墳1他	55m（亀塚古墳）			壬生町　安塚
19	幕田古墳群	円墳				宇都宮市幕田町
20	針ヶ谷新田古墳群	円墳4基		1･3号横穴式石室	1号…直刀、土師器、鉄鏃　3号…須恵器	針ヶ谷町
21	針ヶ谷二子塚古墳	帆立貝形	27m		須恵器	針ヶ谷町
23	雀宮牛塚古墳	帆立貝形	56.7m	木棺直葬	埴輪、鏡、馬具、式具、武器、装身具	新宮町
28	茂原権現山古墳	前方後方墳	63m			茂原町字五領
29	茂原大日塚古墳	前方後方墳	36m	木棺直葬	青銅製崇文鏡、土師器	茂原町字御馬
30	茂原愛宕塚古墳	前方後方墳	48m	木棺直葬	小形倣製鏡、櫛、玉類、土師器	茂原町字御馬
34	上神主浅間神社古墳	円墳	54m		壺形埴輪	上三川町上神主字富士山台
35	上神主狐塚古墳	帆立貝形	41m		埴輪	上神主字後志部
36	後志部古墳	前方後円墳	46m		埴輪	上神主字後志部
38	鶴舞塚古墳	円墳	43m		土師器、鉄鏃、鉄器	宇都宮市東谷町
39	笠塚古墳	前方後円墳	100m		埴輪	東谷町
40	双子塚古墳	前方後円墳	60m			東谷町
41	松の塚古墳	円墳	50m			東谷町
46	琴平塚古墳	前方後円墳	52m		埴輪	東谷町
55	下桑島西原古墳群	円墳2基		馬淵内埋葬施設有り	埴輪、須恵器	平塚町
57	さるやま城古墳群	前方後円墳2他	47m（本郷山）		本郷山古墳は埴輪も持つ	西刑部町
58	東原古墳群	前方後円墳2他	30m（東原古墳）			下栗町
61	屋敷東浦愛宕塚古墳	前方後円墳	36m			上三川町西汗字屋敷東浦
62	西赤堀狐塚古墳	帆立貝形	約25.4m	横穴式石室	埴輪、刀子、鉄鏃	西汗字西赤堀
65	文珠山古墳	方墳	26m		鏡、剣、鋼鏃、管玉	石橋町　上古山大木

第３表　塚山古墳群周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	主な遺構	主な出土遺物	所在
4	二軒屋遺跡	縄文～古墳	「二軒屋式」の標式遺跡	弥生土器	宇都宮市西川田町中原
5	北若松原遺跡	古墳	住居址28軒	土師器、須恵器、鉄鏃	北若松原
8	宮の内Ａ・Ｂ遺跡	奈良・平安	住居址24軒、掘立柱建物15軒	鉄製品、土師器	宮の内
9	宮の内１丁目遺跡	縄文･奈良･平安	住居址約120軒、掘立柱建物5軒	石製丸鞆、銅製巡方	宮の内１丁目
10	城南３丁目遺跡	古墳～奈良	古墳(円墳1、方墳1)　住居址10軒	土師器、須恵器	城南３丁目
11	関道遺跡	古墳～平安	住居址約20軒	土師器、須恵器	江曽島町
12	雷電山遺跡	古墳	住居址	土師器、須恵器	江曽島町
13	木村遺跡	弥生～古墳	弥生後期住居址	弥生土器、紡錘車	川田町
14	柿の内遺跡	古墳～平安	住居址14軒	土師器、須恵器、内耳土器、金属器	西川田町
15	辻の内遺跡	古墳	住居址約110軒	土師器、滑石製勾玉、紡錘車、金属器	西川田町
17	花の木町遺跡	古墳	住居址8軒、土坑3基	土師器、土製勾玉、被甎土器	西川田町－花の木町
22	天狗原遺跡	弥生～古墳	住居址14軒	弥生土器、土師器、須恵器	さつき１丁目
24	牛塚東遺跡	古墳・奈良	住居址1軒、方形周溝墓2基	土師器	新富町
25	石川坪遺跡	縄文・奈良	住居址、袋状土坑	縄文土器	針ヶ谷町
26	雀宮遺跡	旧石器		尖頭器、石核	雀宮町
27	権現山北遺跡	古墳～平安	住居址18軒、掘立柱建物15軒	土師器、須恵器、石製模造品	茂原町
31	西下谷田遺跡	奈良・平安	住居址約70軒、鍛冶遺構、八脚門付方形区画施設	土師器、須恵器	茂原町
32	北原東・下谷田遺跡	飛鳥・奈良	住居址90軒	土師器、須恵器	茂原町～石橋町下古山
33	上神主・茂原遺跡	奈良・平安	東西250ｍ×南北350ｍ以上の区画溝、倉庫群	人名瓦	茂原町～上三川上神主
37	殿山遺跡	弥生～平安	住居址約600軒	弥生土器、土師器、須恵器、石製模造品	上三川町上神主
42	東谷遺跡群杉村遺跡	縄文～古墳	豪族居館を含む住居址約100軒、推定東山道	土師器、須恵器	宇都宮市東谷町
43	東谷遺跡群権現山遺跡	弥生･古墳･奈良	住居址約10軒	弥生土器、土師器、須恵器	砂田町
44	立野遺跡	旧石器～中世	住居址73軒	土師器、須恵器	東谷町
45	杉村遺跡	古墳	住居址約60軒	土師器、須恵器	東谷町
47	中島笹塚遺跡	古墳～平安	住居址100軒以上、古墳5基	土師器、須恵器	中島町
48	西刑部西原遺跡	古墳～平安	住居址約70軒	土師器、須恵器	西刑部町
49	砂田純沼遺跡	古墳～平安	住居址約20軒	土師器、須恵器	砂田町
50	砂田滝遺跡	古墳・奈良		遺物散布地	砂田町
51	砂田遺跡	古墳～平安	住居址約100軒	土師器、須恵器	砂田町
52	砂田Ａ遺跡	古墳～平安	住居址34軒	土師器、須恵器、鉄製品	砂田町
53	砂田東遺跡	古墳	住居址18軒	土師器、須恵器、石製模造品	砂田町
54	上横田遺跡	奈良・平安	住居址11軒、掘立柱建物1軒、大型土坑	土師器、須恵器、石製模造品	西刑部町
56	瑞穂野団地遺跡	旧石器～奈良	住居址35軒	剥片、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器	瑞穂野町
59	磯岡遺跡	縄文・古墳	住居址68軒、掘立柱建物18軒	土師器、須恵器、玉類	上三川町大字磯岡
60	西赤堀遺跡	古墳～奈良	推定･郡倉跡址、古墳(前方後円墳2、円墳2)	土師器、須恵器、瓦	西汗字西赤堀
63	大野遺跡	古墳	住居址7軒	土師器	上蒲生
64	仏沼遺跡	縄文～古墳		弥生土器	上蒲生
65	文殊山遺跡	古墳	方墳、方形周溝墓2基		石橋町　上古山

また上神主・茂原遺跡から東谷遺跡群、西刑部西原遺跡（48）にかけて推定東山道が確認されており、当時この一帯が、東山道を中心に古代下野の中心地の１つであったことが窺える。

塚山古墳周辺では、東方1.5kmの宮の内Ａ・Ｂ遺跡（８）、宮の内１丁目遺跡（９）などが存在する。

（阿部智之）

3　塚山古墳群の概要

塚山古墳群は、塚山古墳・塚山西古墳・塚山南古墳の３基とわずかな高まりとして残る塚山６号墳の計４基を現状で確認することができる。

主墳の塚山古墳は、墳丘長約98ｍの大型前方後円墳で、宇都宮市域においては笹塚古墳に次ぐ２番目の規模をもつ古墳である。内部主体の調査は行われていないが、外形確認調査が行われている。墳丘は３段築成で、後円部及び前方部正面中段以上に葺石を伴い、前方部南側側面に造出を持つことが明らかになった。主な出土遺物には円筒埴輪・朝顔形埴輪・土師器・須恵器がある。

塚山西古墳は帆立貝形前方後円墳であり、1976年の第１次調査では前方部から西側くびれ部一帯にかけて調査が行われた。出土遺物は円筒埴輪・朝顔形埴輪を中心に、土師器・須恵器が出土している。

塚山南古墳は、1976年の第１次調査では後円部周堀の一部に限って調査が行われた。この時の出土遺物は円筒埴輪・朝顔形埴輪に限られている。

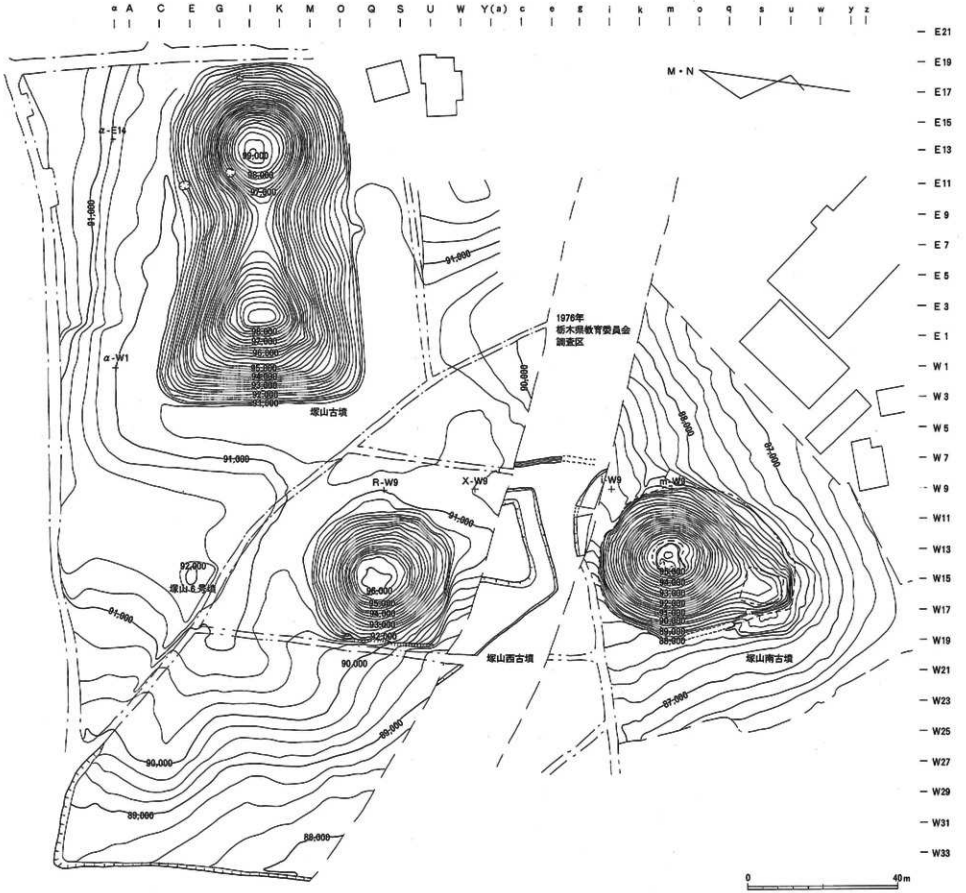
塚山６号墳は、塚山古墳調査の際に確認された直径約20ｍの円墳である。出土遺物は円筒埴輪・朝顔形埴輪・土師器・須恵器が出土している。また、周堀内からは円筒埴輪棺が１基確認されている。

現在はこのような状況の塚山古墳群であるが、以前は塚山古墳北側の県総合運動公園駐車場に３～４基の円墳（旧射撃場内古墳）が存在していた。周堀内からは動物埴輪の水鳥形埴輪、器財埴輪の短甲形埴輪などが出土している。また、塚山古墳調査の時には墳丘北側に円墳（塚山４・５号墳）が確認され、運動公園駐車場と県史跡指定地とを区分して走る市道の拡張工事の際にも、円墳（塚山７・８号墳）が確認されている。これらの他にも塚山古墳の後円部北東には、柄鏡形古墳、塚山西古墳北西には帆立貝形前方後円墳などがあったとされる指摘もあり、既に開墾などによって湮滅してしまった古墳が多数あったようである。これらのいくつかは過去の航空写真などに古墳の痕跡を見ることができ、その存在を窺うことができる。

この他、塚山古墳群を構成する要素として埴輪棺群が挙げられる。埴輪棺は旧射撃場内古墳周辺も含め、全部で11基が確認されている。特に塚山古墳南側の畑地から出土した３号埴輪棺は鹿の線刻が施されていることでよく知られている。

以上、現在までの確認状況からすると、本来の塚山古墳群は十数基の古墳と埴輪棺群から構成されていたものと考えられる。

（阿部智之）



第３図　塚山古墳群周辺測量図（Ｓ＝１／1,000）

主な参考文献

石部正志・秋元陽光ほか 1994『上神主浅間神社古墳・多功大塚山古墳』 上三川町教育委員会

石部正志・秋元陽光ほか 1995『上神主狐塚古墳』 上三川町教育委員会

宇都宮市史編纂委員会 1979『宇都宮市史』第七巻 原始古代編 宇都宮市

里見英司ほか 1989「宇都宮市下栗町本郷山古墳墳丘測量調査報告」『峰考古』第7号 宇都宮大学考古学研究会

大島和子ほか 1979『権現山北遺跡』 宇都宮市教育委員会

大和久震平 1969『牛塚古墳』 宇都宮市教育委員会

上三川町史編纂委員会 1979『上三川町史』資料編 原始・古代・中世 上三川町

神野安伸 1994『天狗原遺跡』 宇都宮市教育委員会

久保哲三 1990『下野茂原古墳群』 宇都宮市教育委員会

今平利幸 1996『城南3丁目遺跡』 宇都宮市教育委員会

常川秀夫ほか 1979『塚山古墳群』 栃木県教育委員会

栃木県史編纂委員会 1976『栃木県史』資料編 考古一 栃木県

中山 晋ほか 1992「宮の内A・B遺跡」『宇都宮市文化財年報』第8号 宇都宮市教育委員会

藤田典夫ほか 2000『杉村・磯岡・磯岡北遺跡』 栃木県埋蔵文化センター

壬生町史編纂委員会 1987『壬生町史』資料編 原始古代・中世 壬生町

梁木 誠 1983『針ケ谷新田古墳群』 宇都宮市教育委員会

梁木 誠 1984『鶴舞塚古墳』 宇都宮市教育委員会

梁木 誠 1992「北岩松原遺跡」『宇都宮市文化財年報』第8号 宇都宮市教育委員会

※ 東谷・中島遺跡群に関しては『埋蔵文化財センター年報』第6～10号、『宇都宮市文化財年報』第14号を参照した。

第1章　塚山西古墳

第1節　調査の経過

第2次測量調査　(1995年2月19日～3月15日)

本調査は、精緻な測量図を作成するために行った。調査範囲は、本古墳の墳丘及び周辺と、墳丘西側に広がる傾斜地である。

第3次発掘調査　(1995年7月23日～9月6日)

本調査は、前方部及び後円部の墳丘・周堀の調査により、古墳の外形を確認すると共に、埋葬施設の保存状況を確認する目的で行った。トレンチは、前方部の主軸推定線上、及び後円部の中心から放射状に配置した。また、墳丘西側の傾斜地において遺構の有無を確認するために、3本のトレンチを設定した。

調査の結果、後円部はほぼ正円を描くことを確認した。また、後円部墳頂下の埋葬施設は未盗掘で、保存状態が良いことを確認した。墳丘西側の傾斜地には遺構は確認できなかった。

第4次発掘調査　(1996年3月4日～3月22日)

本調査は、墳丘東側を対象にし、くびれ部の位置を確認する目的で行った。また、第2次発掘調査時に周堀外側で確認された溝の時期と性格を明らかにするためのトレンチも設定した。

調査の結果、くびれ部の位置を推定することができた。溝の時期と性格は明らかにならなかった。

本報告にあたり、新たにトレンチ番号を付した。発掘調査時のトレンチ番号との対応関係は、下記のとおりである。

(篠原真理)

第4表　塚山西古墳新旧トレンチ対応表

新(本書掲載)	T－1	T－2	T－3	T－4	T－5	T－6	T－7
旧(調査時)	T－1	T－2	T－10	T－3	T－5	T－7	T－6

新(本書掲載)	T－8	T－9北	T－9南	T－10	T－11	T－12	T－13
旧(調査時)	T－9	T－11北	T－10南	T－A	T－B	T－C	T－D

第2節　調査の概要

1　測量調査

塚山西古墳は墳丘が桜や栗・桐などの落葉広葉樹で覆われており、四季ごとに違った姿を見せる。測量調査の行われた2月は木の葉が落ち、墳丘全体が見通しのよい恰好の時期であった。その代わり風当たりが強く、関東名物からっ風や、夕方の底冷えにはずいぶん苦労した。

調査時は、墳丘東側くびれ部の周堀上と思われるあたりが畑として利用されていた。前方部は宇都宮環状道路敷設に伴い大部分が削平された後、復元されている。また戦後、塚山西古墳は墳丘全体が畑として使用されていたという経緯があり、墳丘面は荒らされていることが予想された。しかし、前方部と後円部の一部

第４図　塚山西古墳墳丘測量図（Ｓ＝1／600）

が削平されている以外は、概ね原形をとどめている。墳丘西側は台地の縁辺に当たるため緩やかに傾斜していて、現在は桐の植林地となっている。

塚山西古墳の墳丘およびその周辺の測量調査は、以下の基準に基づいて行った。

① 原図縮尺は、100分の1とする。

② 等高線は標高にしたがって25cmごとに記入する。

③ 測量方法は、墳丘上およびその周辺に閉合トラバースを設定し、その基準点および補助基準点から平板測量を実施する。

④ 座標は1989～1991年の塚山古墳調査時のものを用いる。

測量調査の結果、墳丘長はおよそ67m、後円部径44m・同高6.5m、前方部長20m・同高1.5mの帆立貝形前方後円墳であることが分かった。後円部の周りは北西部を除き、形状は不明であるが幅8m前後の周堀の痕跡が見られた。北側の周堀跡の窪みは、はっきりと認められなかったが、1976年の調査結果から全体の周堀形は馬蹄形であったものと推定できた。周堀跡の外側は平坦な地形が続いており、外堤のような造構の痕跡は確認できなかった。墳丘は墳頂付近の斜面で等高線が密であったが、中腹で等高線が粗になり平坦面の存在を予想させた。後円部墳頂平坦面の広さは12m×10mであり、ほぼ正円である。この広さから竪穴系の主体部を想定できる。

測量調査中に、埴輪片を数片表面採集することができた。しかし、いずれも基底部や胴部の小破片で、器種や器形は復元できなかった。

また、今回の測量調査では墳丘西側の測量も行った。この測量は1940年代の航空写真に古墳の周堀跡と思われるソイルマークが見られたため、その造構の有無を確認することが目的である。現状は桐の植林された草地で、西へ向かって緩やかに傾斜する地形である。測量調査の結果、直径約20mの不自然な地形の高まりを確認し、古墳である可能性が考えられる。（半澤雄作）

2 発掘調査

(1) 前方部の調査

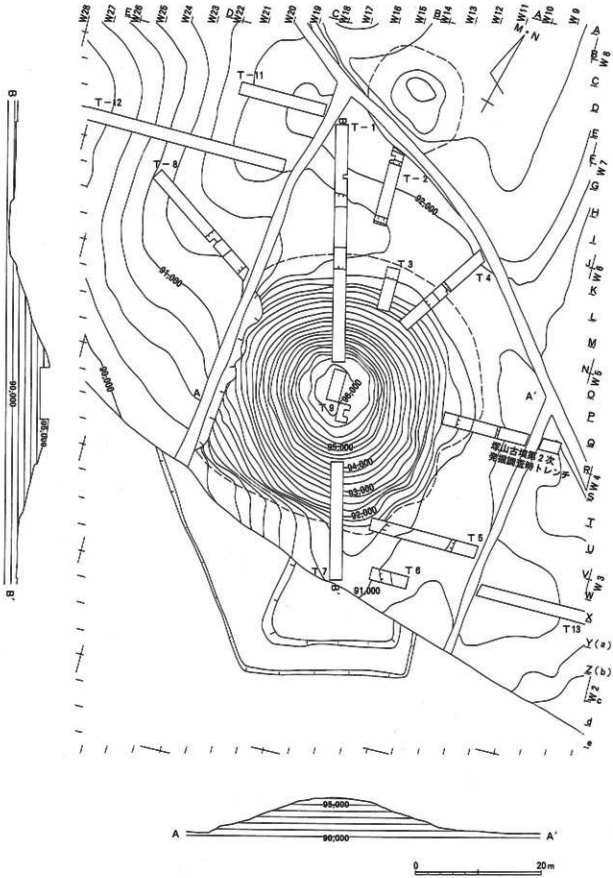
T－7 本トレンチはグリッドS－W14、W－W13を結び、その直線を基準とした。北西に長く主軸推定線上に設定し、葺石等の有無の確認を目的とした。調査前は篠竹の群生があり、かなりの攪乱が予想された。

調査の結果、本トレンチにおいて葺石は確認できなかった。墳丘側では10～70cmの厚さで攪乱が見られた。特にグリッドVライン上、標高91.8～92.4mの地点で集中して埴輪片が出土した。また、トレンチ南側の第Ⅱ層中から弥生土器の破片と考えられる遺物が出土した。（神部悦子）

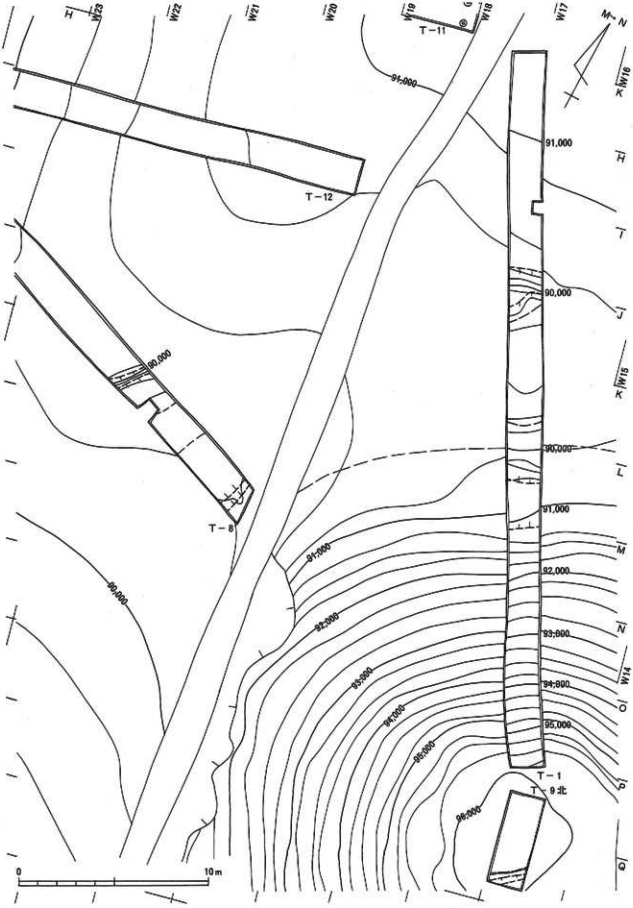
(2) 後円部の調査

T－1 本トレンチは、後円部の葺石の有無と後円部墳丘裾部・周堀の外形を確認するために設定した。墳丘を断ち割って調査した結果、第Ⅳ層上面（標高91.0m）にそって、幅約2mの第1段平坦面が造り出されていることが確認できた。また、そこからさらに約0.6m立ち上がった第Ⅱ層上面（標高91.6m）に暗黄褐色土（第10図～10c層）が見られ、これは盛土の流失を防ぐためのものと考えられる。

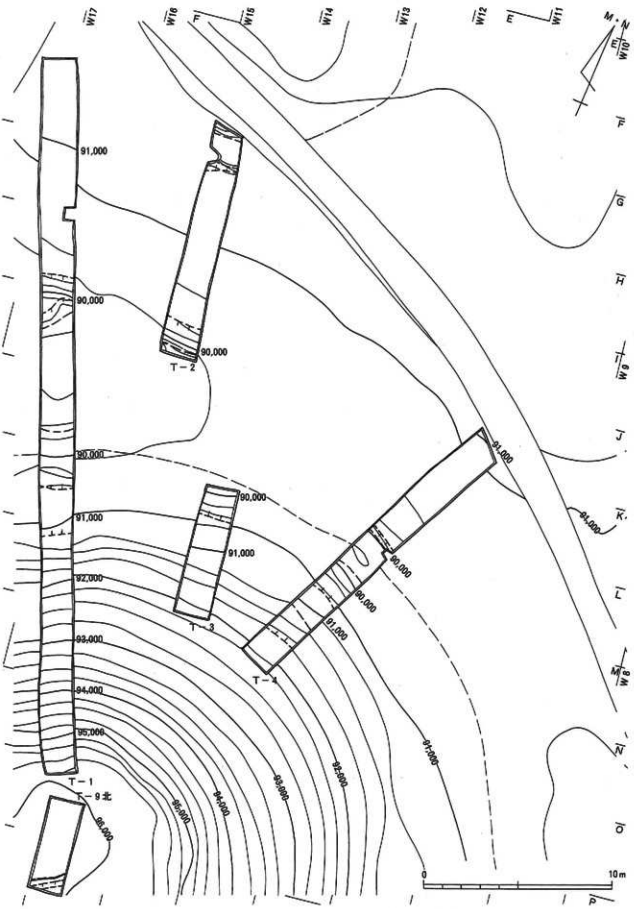
覆土中からは、特に周堀底の黒褐色土層（第10図5c層）と、墳丘裾部付近の暗褐色土層（第10図4b層）に集中して、約250片の埴輪片が出土しており、この中には口縁部に鹿の角を線刻したもの（第14図12）も見られる。また、土師器片も若干出土している。（平山健一郎）



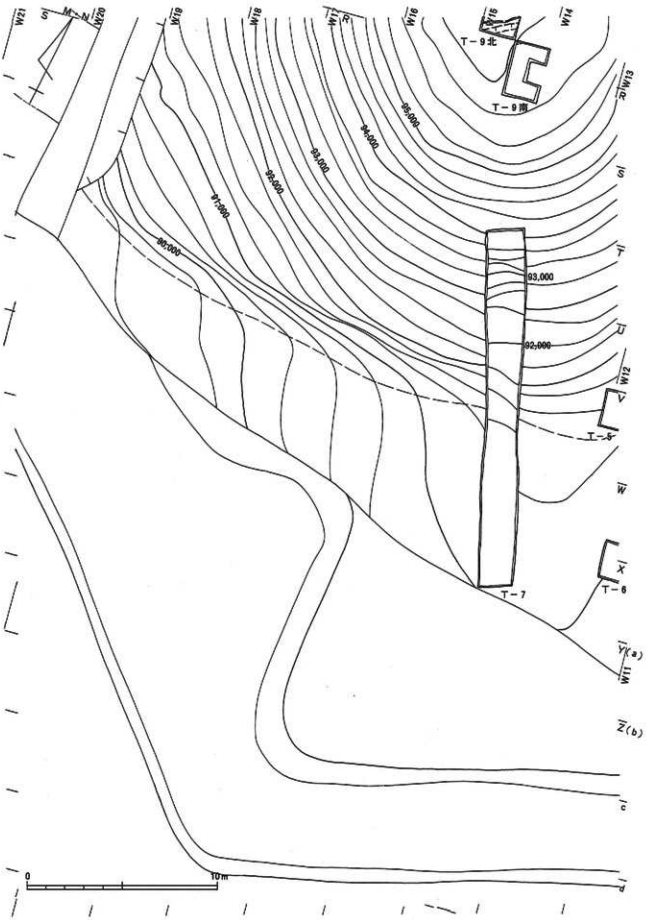
第5図　塚山西古墳トレンチ配置図（S＝1／600）



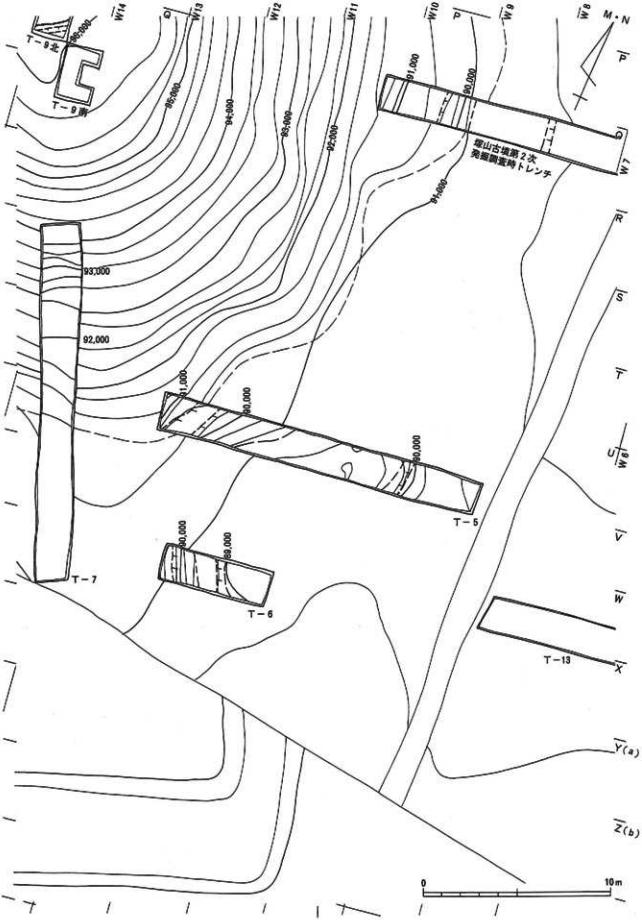
第６図　塚山西古墳トレンチ平面図(1)（Ｓ＝1／200）



第７図　塚山西古墳トレンチ平面図(2)（Ｓ＝1／200）



第8図　塚山西古墳トレンチ平面図(3)（S＝1／200）



第9図　塚山西古墳トレンチ平面図(4)（S＝1／200）

Ｔ－２　本トレンチは、塚山西古墳と塚山６号墳との切り合いを確認するために設定した。調査の結果、両古墳の間の距離は8.3ｍあり、周堀が切り合っていないことを確認した。そのため、両古墳の時期的前後関係は確定することができなかった。

６号墳の覆土中からは、墳丘裾部付近の黒褐色土層（第10図５ｂ層）から約10片の埴輪片が出土している。また塚山西古墳の周堀覆土中からは、周堀外側斜面付近の標高90.0～90.6ｍ（現地表から約60㎝）と、高い位置から約20片の埴輪が出土している。このことは、周堀外の埴輪が周堀内に流れ込んだ可能性を示唆する。（平山健一郎）

Ｔ－４　本トレンチは、後円部北側周堀の周堀外側斜面を確認するために設定した。本トレンチでは、盛土の状況を明確にするためにグリッドＮ－W13から西壁に沿って0.5ｍ×２ｍの断ち割りを入れた。また、第２段平坦面確認のためにグリッドＮ－W13から南西方向へトレンチを７ｍ拡張し、さらに拡張部の西壁から１ｍ幅で拡張部南端まで断ち割りを入れた。断ち割りの結果、後円部は第Ⅱ層を削りだして第Ⅳ層上面による第１段平坦面を造っていたことが分かった。さらに第２段平坦面は、第Ⅱ層上に厚さ２ｍ程盛土をして平坦面を造っていたと考えられる。

周堀の西壁から約１ｍ、南壁から約6.5ｍに、径20㎝×深さ40㎝のピットを確認したが、時期や性格は不明である。

遺物は周堀の覆土と、グリッドＮ－W13付近の覆土から埴輪片が出土した。（粒良江美）

Ｔ－８　本トレンチは後円部北西側に設定した。設定の目的は、後円部墳丘裾部と周堀の外側、及び周堀幅を確認することにある。周堀の幅は底面幅８ｍ、上端幅９ｍ以上であり、Ｔ－１の周堀よりも狭くなっているのが確認できた。他には、周堀外側の立ち上がり付近では周堀掘削時に生じたと考えられる段差が確認でき、墳丘裾部付近の表土には攪乱が見られた。

出土遺物としては、墳丘裾部側の周堀覆土中から多数の円筒埴輪の破片が出土した。中には透孔の周りに線刻を施した破片も見られた。（土屋竜太）

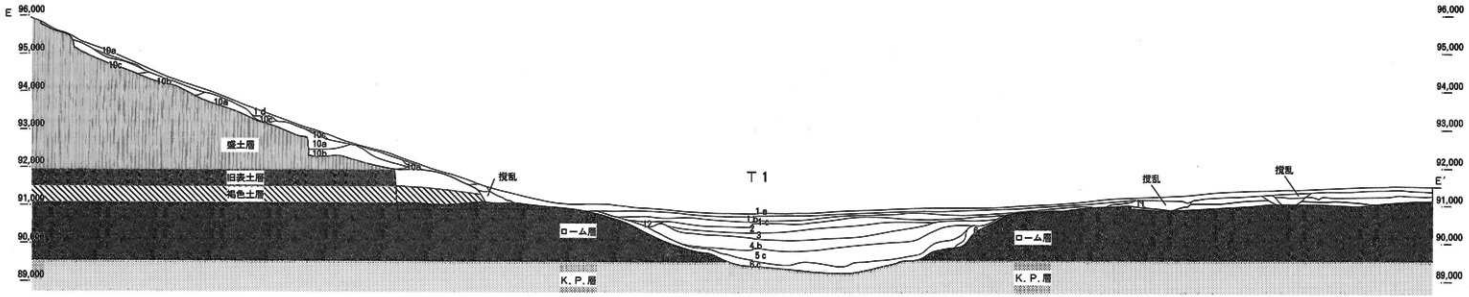
Ｔ－３　本トレンチはグリッドＬ－W14に北西の角を合わせ設定した。後円部墳丘裾部を確認することが目的である。調査の結果、後円部墳丘裾部を確認した。

遺物はトレンチ南壁の黒褐色土層（第10図７ａ層）から埴輪が集中して出土している。朝顔形埴輪の口縁部の破片も確認できた。（木村牧子）

(3)　くびれ部の調査

塚山西古墳のくびれ部については、畑の休耕期間を利用して春季にトレンチを設定し、東側くびれ部の外形確認調査を行った。まず前方部側と後円部側の２か所で試掘し、そこで捉えられたラインを基にくびれ部を確認する予定であったが、試掘は２か所にとどめ、くびれ部そのものを発掘することはしなかった。発掘調査の結果は以下のとおりである。

Ｔ－５　本トレンチは、塚山西古墳東側くびれ部の位置を明らかにするために設定した。調査の結果、トレンチ西端で後円部の第１段平坦面と墳丘盛土を、東端で周堀外側を確認した。墳丘盛土は第Ⅱ層の上に盛られている。幅約４ｍの第１段平坦面は第Ⅱ層を第Ⅳ層上面まで掘り込むことによって造られている。第１段平坦面から周堀へなだらかな角度で傾斜し、周堀底面は第Ⅴ層付近まで掘り込まれている。第１段平坦面と周堀底の比高は約１ｍである。周堀外側は第Ⅳ層によって造られ、急な角度で立ち上がる。遺物は、周堀覆土中から約150片の埴輪片と約20片の須恵器片が出土した。埴輪の中には周堀外側付近で出土したものがあり、周堀外側に樹立していた埴輪が流れ込んだ可能性が考えられる。



(表土)

1 a	黒褐色土	ローム粒少量混入、炭化物・白色粒・鹿沼軽石粒若干混入、非常に硬
1 b	黒褐色土	ローム粒多量混入、白色粒少量混入、炭化物・鹿沼軽石粒若干混入、やや軟
1 c	黒褐色土	ローム粒多量混入、白色粒・鹿沼軽石粒少量混入、炭化物若干混入、やや軟
1 d	明褐色土	ローム粒多量混入、鹿沼軽石粒少量混入、白色粒・黒色粒若干混入、軟
1 e	黒色土	ローム粒・七本桜軽石粒少量混入、炭化物若干混入、やや軟

(埋土)

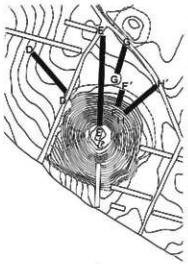
2	褐色土	ローム粒少量混入、炭化物・黒色粒・今市軽石粒若干混入、やや軟
3	暗褐色土	ローム粒少量混入、白色粒・今市軽石粒・七本桜軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、非常に硬
4 a	明褐色土	ローム粒若干混入、やや硬
4 b	暗褐色土	ローム・今市軽石粒・七本桜軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、硬
5 a	黒褐色土	ローム粒・鹿沼軽石粒少量混入、白色粒・今市軽石粒若干混入、やや軟
5 b	明黒褐色土	鹿沼軽石粒多量混入、ローム粒少量混入、白色粒・今市軽石粒・鹿沼軽石ブロック若干混入、やや軟
5 c	黒褐色土	ローム粒少量混入、白色粒・七本桜軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、軟
6 a	淡褐色土	ローム粒・黒色粒多量混入、ロームブロック・黒色ブロック若干混入、軟
6 b	明黒褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック・黒色ブロック・黒色粒少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
6 c	黒黒褐色土	ローム粒多量混入、鹿沼軽石粒・ローム層と鹿沼軽石層の崩移層ブロック少量混入、軟
7 a	黒褐色土	ローム粒少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
8 a	明褐色土	ローム粒少量混入、七本桜軽石粒少量混入、ロームブロック・今市軽石粒若干混入、軟
8 b	暗褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック少量混入、黒色粒・鹿沼軽石粒・今市軽石粒若干混入、やや硬
8 c	暗黄褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック・炭化物・今市軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、やや硬

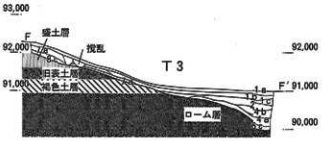
(盛土)

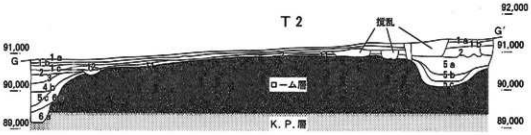
10 a	明褐色土	ローム粒多量・ロームブロック・鹿沼軽石ブロック多量混入、鹿沼軽石粒・ローム層と鹿沼軽石層の崩移層ブロック・黒色土ブロック少量混入、炭化物・黒色土粒若干混入、やや軟
10 b	明黒褐色土	黒色粒多量混入、ローム粒・ロームブロック少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
10 c	暗黄褐色土	ローム粒・ロームブロック多量混入、黒色粒若干混入、やや軟

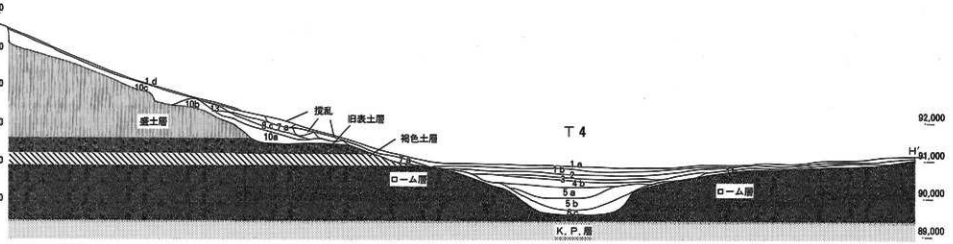
(埋土)

11	明褐色土	ローム粒・ロームブロック多量混入、白色粒少量混入、やや軟
12	明褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック少量混入、白色粒・鹿沼軽石粒・炭化物若干混入、軟
13	褐色土	ローム粒多量混入、鹿沼軽石粒・炭化物・黒色粒若干混入、軟

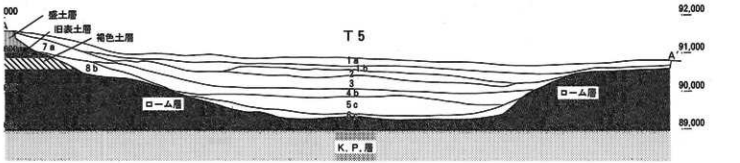


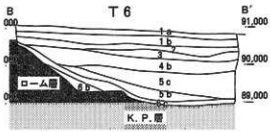


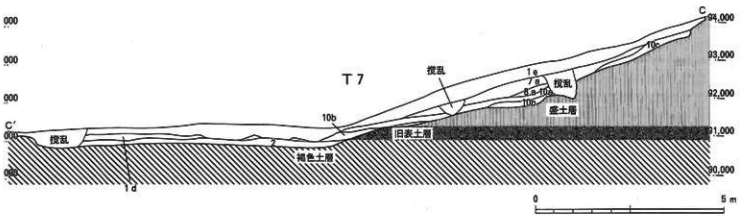


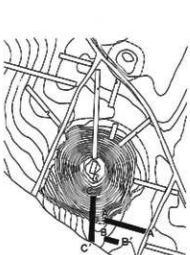


第10図　塚山西古墳トレンチ断面図(1)（S＝1／100）









(表土)

1 a	黒褐色土	ローム粒少量混入、炭化物・白色粒・鹿沼軽石粒若干混入、非常に硬
1 b	黒褐色土	ローム粒多量混入、白色粒少量混入、炭化物・鹿沼軽石粒若干混入、やや軟
1 c	黒褐色土	ローム粒多量混入、白色粒・鹿沼軽石粒少量混入、炭化物若干混入、やや軟
1 d	明褐色土	ローム粒多量混入、鹿沼軽石粒少量混入、白色粒・黒色粒若干混入、軟
1 e	黒色土	ローム粒・七本桜軽石粒少量混入、炭化物若干混入、やや軟

(盛土)

10 a	明褐色土	ローム粒多量・ロームブロック・鹿沼軽石ブロック多量混入、鹿沼軽石粒・ローム層と鹿沼軽石層の割整理ブロック・黒色土ブロック少量混入、炭化物・黒色土粒若干混入、やや軟
10 b	明黒褐色土	黒色粒多量混入、ローム粒・ロームブロック少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
10 c	暗黄褐色土	ローム粒・ロームブロック多量混入、黒色粒若干混入、やや軟

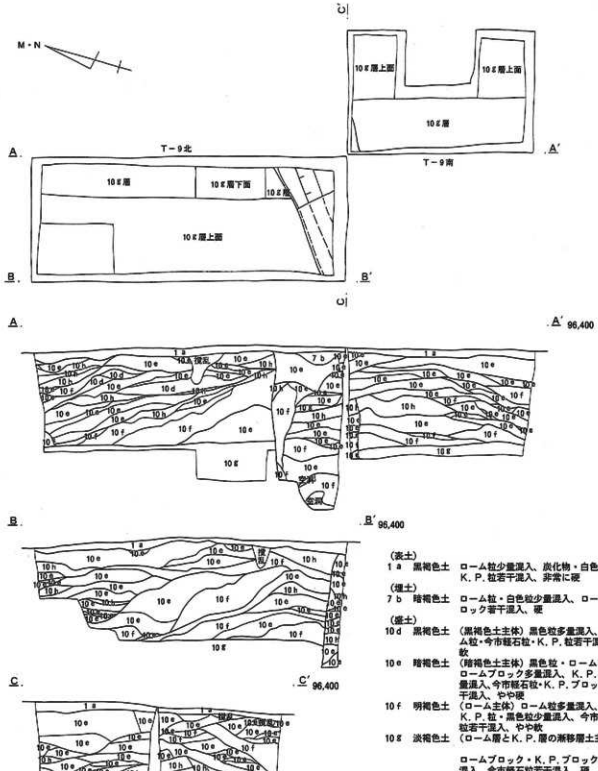
(埋土)

11	明褐色土	ローム粒・ロームブロック多量混入、白色粒少量混入、やや軟
12	明褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック少量混入、白色粒・鹿沼軽石粒・炭化物若干混入、軟
13	褐色土	ローム粒多量混入、鹿沼軽石粒・炭化物・黒色粒若干混入、軟

(埋土)

2	褐色土	ローム粒少量混入、炭化物・黒色粒・今市軽石粒若干混入、やや軟
3	暗褐色土	ローム粒少量混入、白色粒・今市軽石粒・七本桜軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、非常に硬
4 a	明褐色土	ローム粒若干混入、やや硬
4 b	暗褐色土	ローム・今市軽石粒・七本桜軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、硬
5 a	黒褐色土	ローム粒・鹿沼軽石粒少量混入、白色粒・今市軽石粒若干混入、やや軟
5 b	明黒褐色土	鹿沼軽石粒多量混入、ローム粒少量混入、白色粒・今市軽石粒・鹿沼軽石ブロック若干混入、やや軟
5 c	黒褐色土	ローム粒少量混入、白色粒・七本桜軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、軟
6 a	淡褐色土	ローム粒・黒色粒多量混入、ロームブロック・黒色ブロック若干混入、軟
6 b	明黒褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック・黒色ブロック・黒色粒少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
6 c	黄黒褐色土	ローム粒多量混入、鹿沼軽石粒・ローム層と鹿沼軽石層の割整理ブロック少量混入、軟
7 a	黒褐色土	ローム粒少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
8 a	明褐色土	ローム粒多量混入、七本桜軽石粒少量混入、ロームブロック・今市軽石粒若干混入、軟
8 b	暗褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック少量混入、黒色粒・鹿沼軽石粒・今市軽石粒若干混入、やや硬
8 c	暗黄褐色土	ローム粒多量混入、ロームブロック・炭化物・今市軽石粒・鹿沼軽石粒若干混入、やや硬

第11図　塚山西古墳トレンチ断面図(2)（S＝1／100）



（表土）
1 a　黒褐色土　ローム粒少量混入、炭化物・白色粒・K．P．粒若干混入、非常に硬

（埋土）
7 b　暗褐色土　ローム粒・白色粒少量混入、ロームブロック若干混入、硬

（盛土）
10 d　黒褐色土（黒褐色土主体）黒色粒多量混入、ローム粒・今市軽石粒・K．P．粒若干混入、軟
10 e　暗褐色土（暗褐色土主体）黒色粒・ローム粒・ロームブロック多量混入、K．P．粒少量混入、今市軽石粒・K．P．ブロック若干混入、やや硬
10 f　明褐色土（ローム主体）ローム粒多量混入、K．P．粒・黒色粒少量混入、今市軽石粒若干混入、やや軟
10 g　淡褐色土（ローム層とK．P．層の漸移層土主体）ロームブロック・K．P．ブロック少量混入、今市軽石粒若干混入、硬
10 h　黄褐色土（K．P．主体）ローム粒・ロームブロック多量混入、黒色粒少量混入、やや軟

第12図　塚山西古墳トレンチ平面図・断面図（埋葬施設）（S＝1／60）

T－6　本トレンチも、塚山西古墳東側くびれ部の位置を明らかにするために設定した。調査の結果、前方部の墳丘裾部と周堀底を確認した。墳丘は第Ⅳ層で、急な角度で立ち上がる。周堀は第Ⅱ層を1.7m掘り下げ、底面は第Ⅴ層まで達し、ほぼ水平を保っている。ローム削り出しによる第1段平坦面は確認されなかった。遺物は、周堀覆土中から約50片の埴輪片と、約20片の須恵器が出土した。須恵器はいずれも小破片で、器形を復元できるものは少ないが、甕・坏・亀・器台・高坏などが確認できた。　（篠原真理）

(4)　埋葬施設の調査

T－9　本トレンチは埋葬施設の所在確認のために後円部墳頂部に設定した。本トレンチはT－9北とT－9南に分かれている。T－9北は幅2m×長さ5mで西壁をグリッドW15ライン上に取り、T－9南は幅2m×長さ3mで東壁をグリッドW14ライン上に取る。

本トレンチの調査から、埋葬施設は未盗掘で保存状態の良いことが分かった。また、石材・粘土等の出土が無かったことから、本古墳の埋葬施設は木棺直葬と考えられる。

築造過程としては、まず、墳丘盛土の途中で、ローム粒・K.P.ブロック・K.P.とロームとの漸移層のブロックを盛って硬くしまった平坦な作業面を構築する。この層の厚さは60cm、上面は現墳頂から約1.6mの深さにある。その後に墓壙を掘り込み、さらに木棺を安置したものと考えられる。作業面構築後に墓壙を掘り込んでいることは、T－9北の東壁（B－B'）から分かる。木棺のプランはT－9北の南東隅（現地表から2.2m、作業面からの深さ0.7mの地点）で確認でき、木棺の短軸は1.4m、長軸は主軸とほぼ直交するが長さは明らかではない。また、墓壙内にはロームを主体とする暗褐色土（第12図10e層）の堆積が見られるため、木棺の安置後、直上にロームのみによる被覆をしたと考えられる。続いて木棺の周りをドーナツ状に盛土して、さらにその周辺に盛土するという作業を繰り返して墳丘を完成させていることが明らかになった。盛土は主にロームが主体だったが、K.P.、黒色土層のブロックによる層も多く見られた。土の種類による盛土の規則性は確認できなかった。

また、T－9北の東壁・西壁には、盛土の陥没とも思われるような土層のズレが部分的に観察できた。それらは両壁で位置・盛土に含まれる内容物ともに概ね対応していた。さらに、土層のズレは、墓壙のプランとも一致しているのが確認できた。

遺物はT－9南の表土中から縄文土器片・埴輪片が1片ずつ出土したのみである。　（木村牧子）

(5)　塚山西古墳周辺の調査

T－10　本トレンチは、塚山西古墳西側に存在したと考えられた古墳の有無を確認するために設定した。調査の結果、T－10―帯は、重機による大規模な撹乱を受けていることが分かり、遺構は確認できなかった。

また、円筒埴輪が数片出土しているが、いずれも原位置を保っていない。　（中村一也）

T－11　本トレンチはT－10同様、古墳の有無を確認するために設定した。発掘調査の結果、古墳の存在は確認できず、遺物も出土しなかった。

トレンチの東端にピットを2か所確認した。遺物は全く出土しなかった。　（中村一也）

T－12　本トレンチも、古墳の有無を確認するために設定した。発掘調査の結果、古墳の存在は確認できず、遺物も出土しなかった。

一方、本トレンチの西端付近では縄文時代の2基の土壙が確認でき、切り合い関係にあることが分かった。古い土壙は1m×1.5mの楕円形で、深さは60cmである。新しい土壙の全容は明らかではない。遺物は新しい土壙から深鉢型の縄文土器の破片が出土した。また、土壙には伴わない土師器口縁部の小破片も若干出土した。　（佐藤嘉一）

Ｔ－13　本トレンチは塚山西古墳後円部の東側、塚山古墳前方部の南側に設定した。地形的には塚山古墳群が立地する舌状台地の東縁部に当たる。この付近では、塚山古墳第２次調査の際に、塚山古墳周堀外側に沿って東西に横走する性格・時期不明の溝が、また塚山西古墳第１次調査の際にも、塚山西古墳の周堀外側で南北に縦走する同じく性格・時期不明の溝がそれぞれ確認されている。この２つの溝を、塚山古墳前方部周堀の南側隅角部付近で繋がるような同一遺構と考えた場合、Ｔ－13は溝で囲まれた区画内に相当する。

調査の結果、前述の溝につながるような遺構は確認できなかった。台地縁辺に近い所に縄文早期の土壙が１基確認でき、長軸110㎝以上×短軸50㎝×深さ80㎝以上である。断面形はほぼ箱形である。土層はローム・黒色土ブロックを多く含む土で一気に埋められたような形跡があり、遺物は確認できなかった。ただし、土壙の東側で表土中から早期縄文土器が少数出土していることから、該期の遺構と思われる。　（飯田光央）

第３節　出土遺物

１　塚山西古墳出土遺物

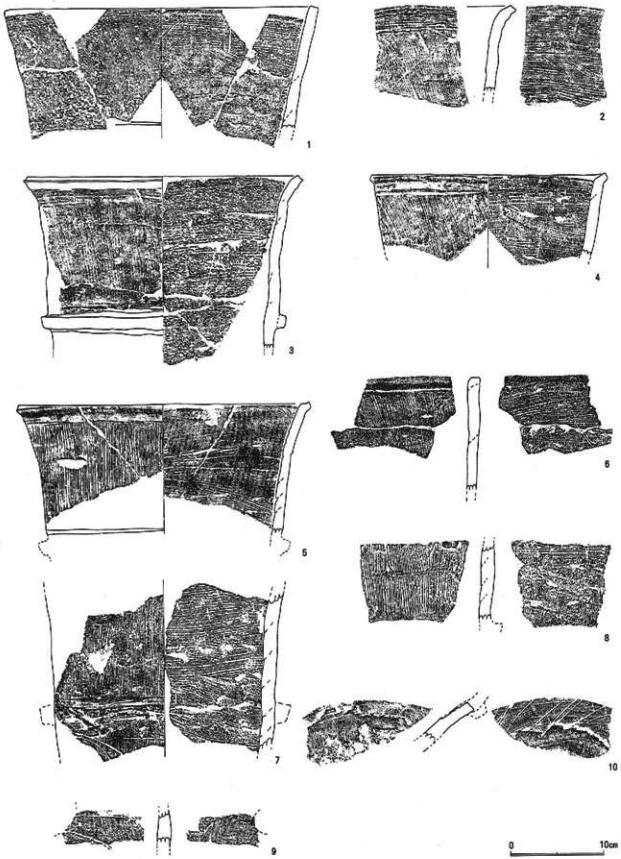
(1)　埴輪（第13～18図）

円筒埴輪は、原位置を離れた状態で出土した。出土した円筒埴輪は、復元可能な資料はわずかで、そのほとんどは破片である。ここでは全体を概観し、個々の特徴は観察表に示す。

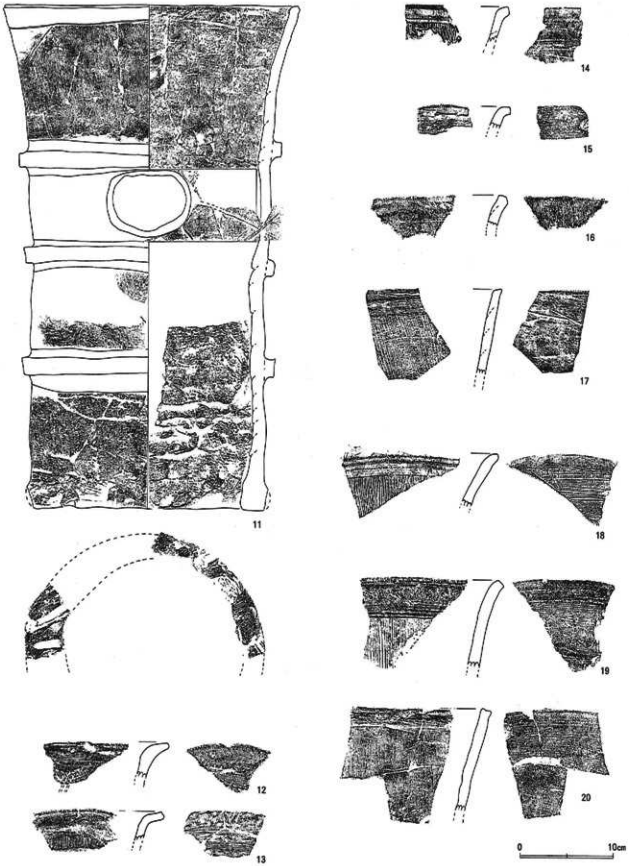
器形は基底部から口縁部に向かってほぼ直立し、筒形である。復元した資料から、突帯が３条のものが確認できる。寸法は、器高が53.3㎝、口径が31.5㎝、底径が24.9㎝である。基部は幅５㎝の粘土板の上に幅２㎝前後の粘土紐を積み上げて成形している。外面は１次調整タテハケがほとんどである。一部にナナメハケ、口唇部にヨコナデが見られる。また、２次調整ヨコハケが施された個体も若干ある。内面は主に指ナデを施しているが一部にハケ調整も見られる。外面、内面の刷毛目は細かいものが多い。突帯の断面形は、台形・崩れた台形・丸みのある台形・Ｍ字形という４種に大別できる。口唇部の断面形は方形が多く、他にＭ字形のものも見られる。顕著な横方向へのつまみ出しはあまり見られないが、少数存在する。透孔は円形のものが確認できる。透孔の径は平均8.4㎝で、刳り貫きは右回りに限られる。線刻は塚山古墳出土の埴輪と類似したものが多い。銀杏葉文や鹿と考えられるものがある。また、ほとんどの線刻は胴部にあり、透孔に近い部位に確認できる。胎土は微細な白色粒子・黒色粒子を含む。また、直径１～4.5㎜程の砂粒を含み、全体的にやや緻密である。焼成は良好である。一部焼きムラの認められる個体もある。色調は乳白色・褐色・茶色の３種に大別できる。乳白色と褐色が多い。

朝顔形埴輪はほとんどのトレンチから出土している。しかし、大半は肩部から口縁部にかけての破片である。以下、全体を概観し、個々の特徴は観察表に示す。

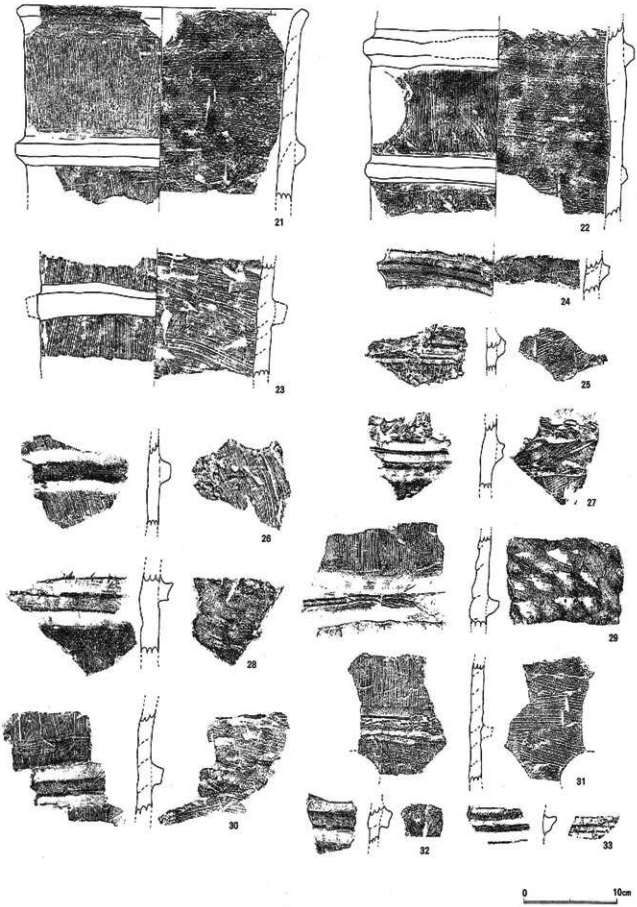
器形は復元可能な資料が無いため、各部位の特徴を知るのみにとどまる。寸法については、口径のみ61.2㎝と推定できるものがあった。全体的な成形法は不明であるが、頸部と口縁部の接合面に刻みを施し、接合しやすくしているものが確認できた。調整は、外面はタテハケを施している。内面はナデまたは、ヨコハケを施す。ただし、ヨコハケは口唇部付近のみに見られる。外面の刷毛目は円筒埴輪よりやや粗い。突帯は台形・Ｍ字形のほか、三角形も確認できる。透孔は確認できる個体が無い。胎土は円筒埴輪とほぼ同様であるが、円筒埴輪よりやや砂質が強い。焼成は良好で、色調は乳白色である。　（神部悦子）



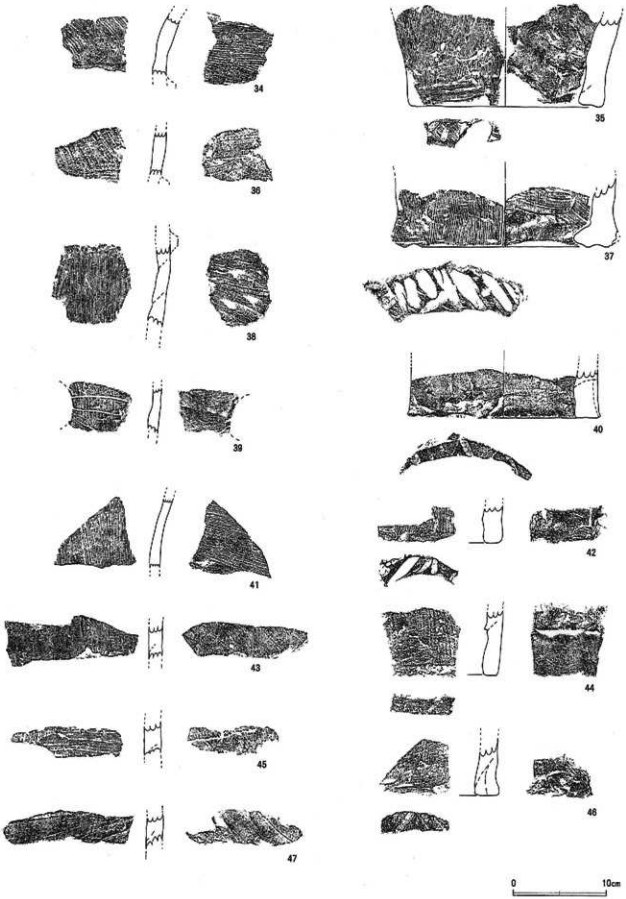
第13図　塚山西古墳前方部出土埴輪実測図（S＝1／4）



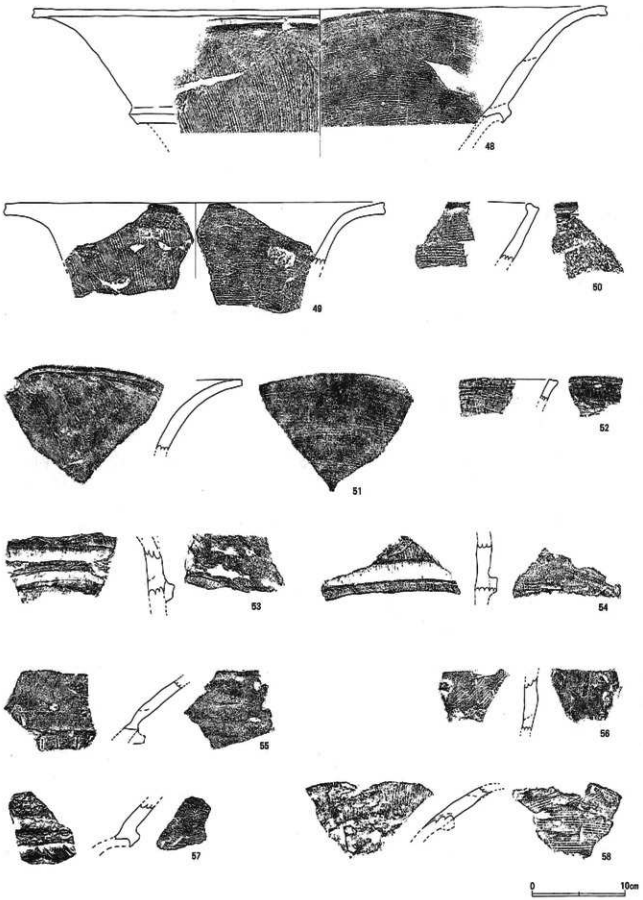
第14図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(1)（S＝1／4）



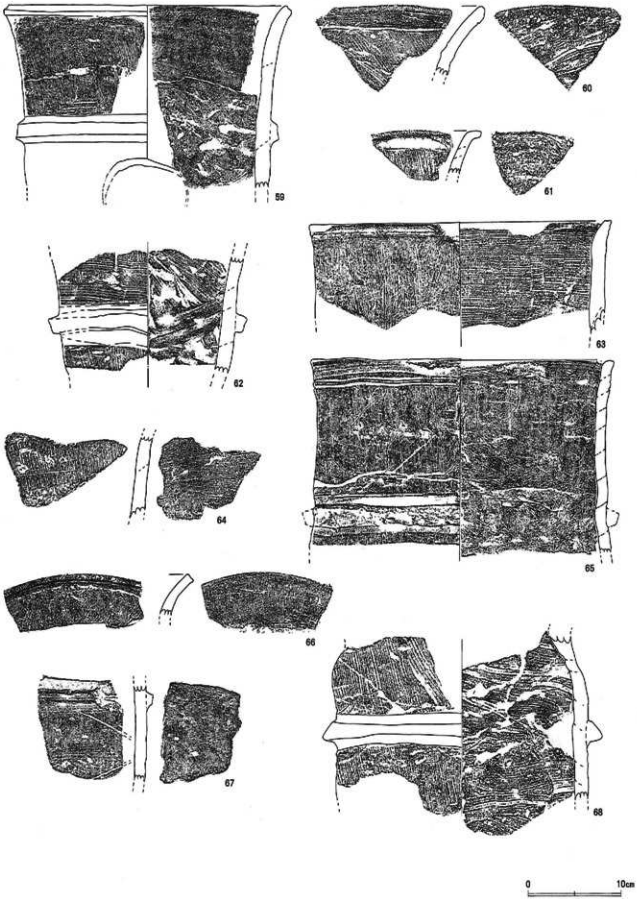
第15図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(2)（S＝1／4）



第16図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(3)（S＝1／4）



第17図　塚山西古墳後円部出土埴輪実測図(4)（S＝1／4）



第18図　塚山西古墳くびれ部出土埴輪実測図（S＝1／4）

第５表　塚山西古墳出土埴輪観察表

No.	部位・寸法 (cm)	形態・製作	調整・胎色 (JIS/Hue)	色調	焼成	胎土	出土位置	備考
1	口縁部　口径 33.3 器厚 1.1	やや低立	外：タテハケ(7本)→回タテナデ→ロ唇部ヨコナデ 内：ナデ、一部ヨコハケ(8本)	明色	不良	黒色砂粒混入 (φ1mm)	T-7	突帯部に斜部 工具の浮出痕
3	口縁部　器厚 1.0	短く外反する	外：ナデ(ハケ(6本))、ロ唇部ヨコナデ 内：ヨコナデ一部ヨコハケ(6本)	明色	不良	黒・白色砂粒 混入	T-7	工具の浮出痕
4	口縁部　口径 35.6 器厚 1.1	短く外反する 台部の突帯	外：タテハケ(8本)、ロ唇部ヨコナデ 内：ヨコハケ(7本)→部ナデ→ナデ	明色	良好	砂粒混入	T-7	内面工具痕 工具の浮出痕
5	口縁部　口径 31.2 器厚 1.2	短く外反する	外：タテハケ(4本)→部ナデ 内：上部ヨコハケ(4本)、下部ナデ	明色	不良	砂粒混入	T-7	内面工具痕 工具の浮出痕
6	口縁部　器厚1.1	短く外反する	外：タテハケ(5本)、ロ唇部ヨコナデ 内：ヨコハケのちヨコナデ	乳白色	中や良	黒色砂粒混入	T-7	内面工具痕 工具の浮出痕
7	胴部　器厚 1.2	緩孔有り	外：タテハケ(7本)→一部ヨコハケ 内：ヨコハケ	乳白色	良好	黒・白色砂粒 混入	T-7	線状有り
8	胴部　器厚 1.3		外：タテハケ(7本)→一部ヨコハケ 内：ナデ→一部ヨコハケ(6本)	明色	中や良	黒・白色砂粒 混入	T-7	
9	胴部　器厚0.8	緩孔有	外：タテハケ 内：ヨコナデ	明色	良好	黒・白色砂粒 混入	T-7	造孔のまわりに線刻有り
10	頸部付補輪 口縁部　器厚 1.1	大きく外反する	外：タテハケ(8本)→一部ヨコナデ 内：ヨコハケ(7本)→部ナデ→ハケ	茶色	不良	黒色砂粒混入 (φ1mm)	T-7	一部赤褐、外面に斜部 内面に接合痕有り
11	脚部　器厚 1.0 口径 31.5 底径 24.9	台部の突帯	外：タテハケ(6本) 内：ヨコハケ(5本)のちヨコナデ	明色	良好	白色砂粒混入	T-1	線状有り
12	口縁部　器厚 1.3	短く外反する	外：タテハケ(7本)→一部ヨコハケ(9本) 内：ヨコハケ(9本)、口唇部ヨコナデ	乳白色	良好	白雲母粒混入	T-1	剥と思われる剥痕有り
13	口縁部　器厚 0.9	大きく外反し、屈平な部分が ある	外：タテハケ(7本)、ロ唇部ヨコナデ 内：ヨコハケ(8本)、口唇部ヨコナデ	明色	良好	砂粒混入	T-8	
14	口縁部　器厚 1.1	短く外反する	外：タテハケ(7本)、ロ唇部ヨコナデ 内：ヨコハケ(8本)	乳白色	良好	黒色砂粒混入	T-8	工具による痕跡
15	口縁部　器厚 1.0	短く外反する	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	茶色	不良	黒・白色砂粒 混入	T-1	
16	口縁部　器厚 1.1	やや低立する	外：ナデ→ハケ 内：ヨコナデ	乳白色	やや良	黒色砂粒混入	T-1	
17	口縁部　器厚 1.0	低立する	外：タテハケ(5本)、ロ唇部ヨコハケ 内：ナデ、ロ唇部ヨコハケ(9本)	乳白色	不良	砂粒混入	T-4	工具痕有り
18	口縁部　器厚 1.0	やや低立する	外：タテハケ(7本)、ロ唇部ヨコナデ 内：ヨコハケ(8本)、口唇部ヨコナデ	乳白色	良好	黒色砂粒混入	T-4	
19	口縁部　器厚 1.1	やや低立する	外：タテハケ(7本)、ロ唇部ヨコハケ 内：ヨコハケ(8本)、口唇部ヨコナデ	茶色	不良	砂子混入 (φ1mm)	T-8	
20	口縁部　器厚 1.0	低立する	外：タテハケ→ナデ→ハケ(8本) ロ唇部ナデのちヨコハケ 内：ヨコハケ(9本)	乳白	良好	黒色砂粒混入	T-1	
21	口縁部　口径 1.4	やや低立する 台部の突帯	外：タテハケ(6本)のち突帯張りつけ 内：ヨコハケ(7本)→部ナデ→ナデ、ロ唇部ヨコナデ	明色	不良	白色砂粒混入	T-8	沙影有り
22	口縁部　径 27.3 器厚 1.2	台部の突帯は高を有する 底孔有り	外：タテハケ(7本)のち、突帯部ナデ付け 内：ヨコハケ(8本)	赤褐色	不良	黒・白色砂粒 混入	T-8	線刻有り
23	口縁部　径 25.0 器厚 1.6	突帯剥離	外：タテハケ 内：ヤナガナデ→ヨコナデ	黒色	不良	砂粒混入	T-8	粘状成有り
24	口縁部　径 21.0 器厚 1.6	下方が張れた台部の突帯	外：タテハケのち、突帯張りナデ付け 内：ナデ→ナデ	明色	不良	黒・白色砂粒 混入	T-1	
25	口縁部　器厚 1.5	弱まった台部の突帯 底孔有り	外：タテハケ(6本) 内：ヨコハケ(7本)	明色	やや良	黒・白色砂粒 混入	T-1	
26	口縁部　器厚 1.1	台部の突帯	外：タテハケ(5本)のち、突帯部ナデ付け 内：ヤナガハケ(4本)	明色	良好		T-1	
27	口縁部　器厚 1.7	張れた3本の突帯	外：タテハケのち、突帯部ナデ付け 内：ナデ→ナデ	明色	不良	砂粒多量混入	T-1	
28	口縁部　器厚 1.4	低平な4本の突帯	外：突帯部ナデ付け 内：ナデ→ナデ	乳白色	良好	黒・白色砂粒 混入	T-1	
29	口縁部　器厚 1.4	下方が丸みを帯びた 張れた台部の突帯	外：タテハケ(7本)、突帯部ヨコナデ 内：ヤナガナデのち、ナナメハケ(3本)(5本)	茶色	不良	黒・白色砂粒 混入	T-2	工具痕有り
30	口縁部　器厚 1.6	台部の突帯	外：タテハケ(7本)→部ヨコハケのち突帯部ナデ付け 内：ヤナガハケのち、ヨコハケ(7本)	乳白色	良好	黒色砂粒混入	T-4	
31	口縁(口縁部付近) 部厚 1.2	低孔有り 突帯剥離	外：タテハケ(5本)→一部ヨコハケ 内：ヨコハケ(7本)	黄褐色	不良	白色砂粒混入	T-9	沙影有り 工具の浮出痕(内面)
32	胴部　器厚 1.1	張れた台部の突帯	外：ナデ 内：ナデ	黄色	不良	黒・白色砂粒 混入	T-9	
33	胴部　器厚 ―	張れた4本の突帯	外：ヨコナデ 内：剥離	乳白色	良好	白色砂粒混入	T-1	
34	胴部　器厚 1.3		外：タテハケ(5本) 内：ヨコハケ(7本)	黄色	やや良	黒色砂粒混入	T-4	
35	基部　基底 20.7 器厚 2.2		外：タテハケ(7本) 内：ナデ→ナデ	明色	不良	白色砂粒混入	T-1	沙影剥離痕有り
36	胴部　器厚 1.2	突帯張り痕有り	外：ナデ→ハケ、一部ヨコナデ(5本) 内：ヨコハケ(5本)	白色		黒・白色砂粒 赤色砂混入	T-1	
37	基部　基底 24.3 器厚 2.3		外：タテハケ(7本) 内：ヨコハケ→ナデ→ハケ(7本)	乳白色	やや良	黒色砂粒混入	T-2	
38	胴部　器厚 1.4	突帯剥離	外：タテハケ(5本) 内：ナデ→ハケ(7本)	明色	不良	白色砂粒混入	T-8	
39	胴部　器厚 1.0	可動あるい は半円形の透孔 を有する	外：タテハケ(6本) 内：ナデ	乳白	やや良	黒・白色砂粒 混入	T-4	線刻有り
40	基部　基底 29.5 器厚 2.8		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	乳白色	良好	白色砂粒混入	T-5	
41	胴部　器厚 1.0		外：タテハケ(7本) 内：ヨコハケ(7本)	明色	良好	黒色砂粒混入	T-4	
42	基部　器厚 2.0		外：タテハケ(7本) 内：ヨコハケ(8本)	乳白色	やや良	黒・白色砂粒 混入	T-9	指押さえの痕跡調整痕有り
43	胴部　器厚 1.5		外：ナデ→ナデ 内：ヤナガナデ	乳白色	不良	白色砂粒多量 混入	T-5	
44	基部　器厚 1.5		外：タテハケ(3本) 内：ヨコナデ	明色	良好	黒・白色砂粒 混入	T-1	
45	胴部　器厚 1.9		外：ナデ→ナデ→一部ヨコハケ(7本) 内：ナデ→ナデ	乳白色	やや良	黒・白色砂粒 混入	T-4	
46	基部　器厚 1.9		外：タテハケ(4本)、のち底部調整のヘラナデ 内：ナデ→ナデ	乳白色	不良	1～5mmの白 色砂粒など	T-4	底部に調整痕有り
47	胴部　器厚 1.5		外：ヨコナデ、一部ヨコハケ 内：ナデ→ハケ(13本)	乳白色	やや良	黒・白色砂粒 混入	T-3	
48	脚部付補輪 口縁部　口径 41.2 器厚 1.0～1.4	大きく外反する 台部の突帯	外：タテハケ、一部ナナメハケ(8本)ロ唇部ヨコハケ 内：ヨコハケ(7本)	乳白色	やや良	白色砂粒混入	T-3	工具浮出痕有り(内)
49	脚部付補輪 口縁部　器厚 1.6	大きく外反しやや小手形	外：タテナデ、のちヨコナデ、ロ唇部ナデ押さえ 内：ヨコナデ	明色	不良	黒色砂粒混入	T-4	沙影ふり有り
50	基部又は脚部付補輪 口縁部　器厚 1.3	口唇部内面つまみ上げが 著しい、部平内傾する	外：ヨコハケ(密列)、ロ唇部付近ナデ 内：ヨコハケ(6本)	明色	やや良	黒色砂粒混入	T-1	

No.	器種・寸法 (cm)	形態・特徴	調整・副毛Ⅱ (R/cm)	色調	胎成	胎土	焼成位置	備考
51	胴部形程幅 口縁部　器厚 1.2	大きく外反する	外：ナデ→ハケ 内：Bヨコケ(5本)	乳白色	やや良	良好	T-4	
52	胴部形程幅 口縁部　器厚 1.0		外：ナデ 内：ナデ	褐色	やや良	黒色加軟吸入	T-4	
53	胴部形程幅 底部　器厚 1.3	下方が下が弓張れた台形突帯	外：ナデ→ケズリ(5本)　ヘラ状研磨ナデ付け 内：ナデ→ハケ	褐色	不良	黒・白色顆粒吸入	T-1	
54	胴部形程幅 頂部　器厚 1.4	鉤先形の突帯	外：ヤデ→ナデ→ケズリ(4本) 内：ナデ	乳白色	やや良	黒・白色顆粒吸入	T-4	
55	胴部形程幅 口縁部　器厚 1.4	突帯は下方に垂れる	外：C突帯ヨコナデ、胴部ケデナデ 内：ヨコハケ	乳白色	良好	黒色加軟吸入	T-8	工具による放射状の強起線
56	形程幅（？） 頂部　器厚 1.3		外：ナデ→ハケ(5本) 内：ヨコナデ	褐色	不良	黒色加軟吸入	T-8	
57	胴部形程幅 口縁部　器厚 1.7	突帯の縦ずれ	外：ナデ→ケ 内：ヨコハケ	褐色	良好	黒・白色顆粒吸入	T-2	
58	胴部形程幅 頂部　器厚 1.4		外：ナデ→ケズリ(5本) 内：ヨコハケ(5本)	乳白色	良好	白色小礫含む	T-1	赤彩有り(外面)
59	口縁部　口径 31 器厚 1.5	やや外反する	外：ナデ→ケズリ(6本) C突帯ヨコ方向のナデ 内：ナデ→ケズリ　ヨコ方向のなで	乳白色	良好	黒・白色顆粒吸入	T-6	沼元の両中に放射有り
60	口縁部　器厚 1.5	やや外反する	外：ナデ→ハケ(6本) C突帯ヨコ方向のナデ 内：ナデ→ハケ	褐色	良好	黒・白色顆粒吸入	T-8	外面C突帯に放射が施る
61	口縁部　器厚 1.0	短く外反する	外：ナデ→ケ(5本) 内：ハケのちナデ(横刷)	褐色	良好	白色加軟吸入	T-5	内面に粘土紐痕を残
62	胴部　器厚 1.4	鉤れた台形の突帯	外：ナデ→ケ(5本)→鉤先強ヨコハケ(6本) 内：ナデ→ハケ(6本)のちナデ	褐色	良好	白色加軟吸入	T-5	
63	口縁部　器厚 1.5	弧状する	外：ナデ→ケ(5本)、口縁部ナデ 内：ヨコハケ(5本)	褐色	良好	黒色加軟吸入	T-6	
64	胴部　器厚 1.4		外：ナデ→ケ(5本) 内：ヨコハケ(7本)	乳白色	良好	黒・白色顆粒吸入	T-5	断面は扶民色
65	口縁部　器厚1.5	口唇端に二条の状態有り	外：ナデ→ケ(6本)、口唇部ナデ 内：ヨコハケのち二ナデ	褐色	良好	黒色加軟吸入	T-6	
66	胴部形程幅 口縁部　器厚 1.0	大きく外反する	外：ヨコハケのちナデ→ハケ 内：ヨコハケ(11本)	褐色	良好	白色加軟吸入	T-5	内面：円筒状物の刷毛目より除
67	胴部　器厚 1.1	鉤れた台形の突帯	外：ナデ→ケ(5本) 内：ヨコハケのちナデ	褐色	やや良	黒・白色顆粒吸入	T-5	外面に「×」の線刻有り
68	胴部形程幅 胴部　器厚 1.8	三角形の突帯	外：ナデ→ケ(4本) 内：ヤナハケ、Bヨハケ	褐色	良好	黒・白色顆粒吸入	T-6	

(2) 須恵器（第19図）

第19図69の須恵器は、前方部Ｔ－７の覆土中から出土した。この10cm四方の破片は甕の胴部であると思われる。外面には平行叩きを施す。また自然釉がかかり、暗緑色である。内面は青海波文をスリ消している。

これらの特徴から、田辺編年ＴＫ208型式以降、ＴＫ23型式以前のものであると考えられる。くびれ部出土の須恵器は、個々の特徴を須恵器観察表に示した。出土したものはいずれも小破片であるが、大型甕・器台・鬲・坏・蓋等の器種が確認できる。

（坂本勝志）

第６表　塚山西古墳出土須恵器観察表

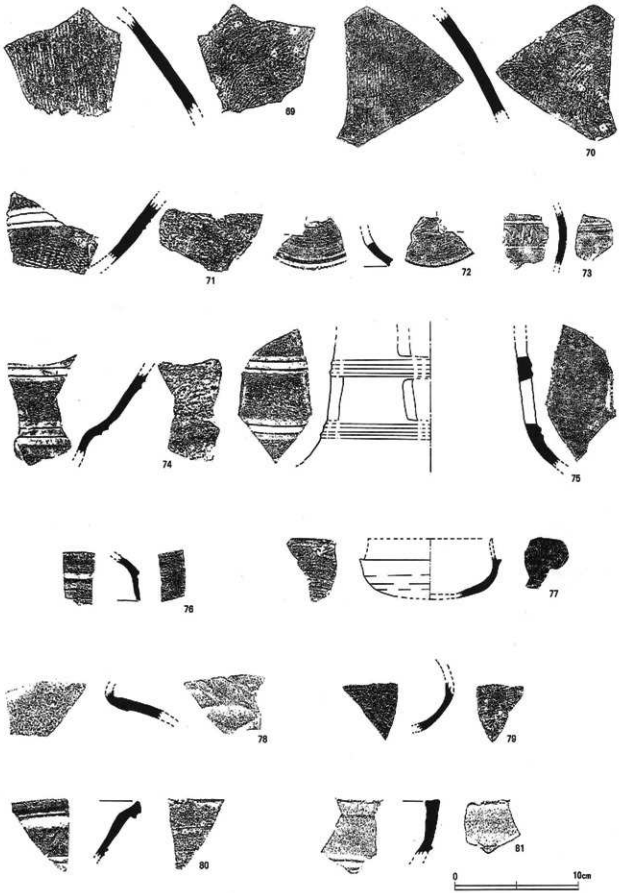
No.	器種	部位	寸法 (cm)	調整	色調	胎成	胎土	出土位置	備考
69	甕	胴部	器厚 0.8～0.9	外：平行叩き 内：スリ消し	灰白色 断面：灰白色	良好	白色砂子少量	T-7	外面にオリーブ色の自然釉
70	甕	胴部	器厚 0.8～0.9	外：平行叩き 内：スリ消し	灰白色 断面：灰白色	良好	白色砂子少量	T-5	外面にオリーブ色の自然釉
71	器台	脚部	器厚 0.8～1.0	外：叩き、板状文 内：指頭	断面：灰色	良好	白色砂子多量	T-5	
72	高杯	脚部	器厚 0.4～0.6	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	断面：灰白色	良好	白色砂子微量	T-5	
73	不明	胴部	器厚 0.5	外：ロクロナデ、板状文 内：ロクロナデ	灰色 断面：灰色	良好	白色砂子少量	T-5	
74	器台	脚部	器厚 0.6～0.8	外：ロクロナデ、綾状文 内：ロクロナデ	灰色 断面：赤褐色	良好	白色砂子多量	T-6	内面に降山状色の自然釉
75	器台	脚部	器厚 0.7～0.9 復原径 18	外：板状文 内：ナデ	灰色 断面：赤褐色	良好	白色砂(5mm)吸量	T-6	方形または三角形の透孔2段以上 外面にオリーブ色・山吹色の自然釉
76	壺	口縁部	器厚 0.4～0.5	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	灰色 断面：赤褐色	良好	白色砂子微量	T-6	外面に降山状色の自然釉
77	坏身	受部から下	器厚 0.5	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	灰色 断面：赤灰色	良好	白色砂子少量	T-6	
78	甕	頸部	器厚 0.6～0.7	外：板状文 内：ロクロナデ	灰色 断面：灰色	良好	白色砂子多量	T-6	内面に工具痕有り
79	鬲	脚部	器厚 0.5～0.6	外：ロクロナデ 内：ナデ	灰色 断面：赤灰色	良好	白色砂子少量	T-6	内面に降山状色の自然釉
80	器台	口縁部	器厚 0.5～0.8	外：ロクロナデ、板状文 内：ナデ	灰色 断面：灰色	良好	白色砂子少量	T-6	内面に降山状色の自然釉
81	不明	口縁部	器厚 0.8～1.1	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	灰色 断面：灰色	良好	白色砂子多量	T-6	

2　塚山西古墳外出土遺物

(1) 縄文土器（第20図　88）

Ｔ－12の土壙から出土した。縄文時代後期の粗製深鉢形土器の底部と思われる。底面は平坦で胴がなだらかに立ち上がっている。調整は胴部外面にミガキ、内面にナデを施し、縄文は見られない。胎土は白色砂粒を含み、色調は赤褐色である。底部を除いた内面には炭化物が付着している。

（林　昌章）



第19図　塚山西古墳出土須恵器実測図（S＝1／3）

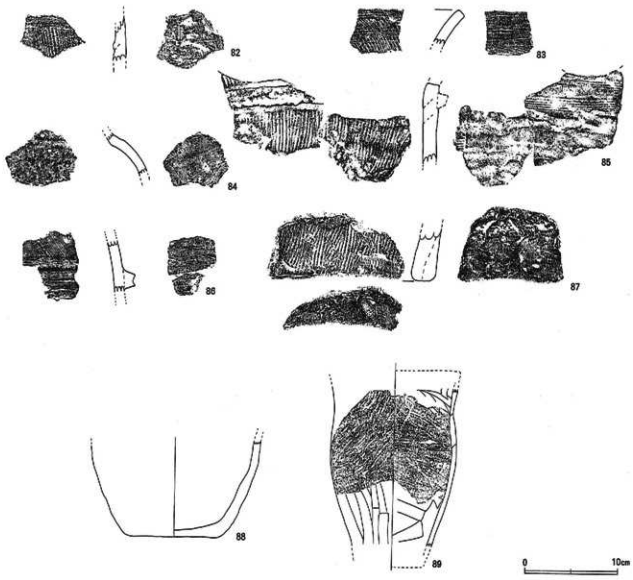
(2) 弥生土器（第20図 89）

T－7で第Ⅱ層中から出土した。甕形土器の頸部から胴部にかけての破片である。成形は、粘土紐積み上げのちケズリで器厚の調整を行う。なお、粘土紐接合痕は内面の一部に残っている。調整は、外面はケズリ後頸部から胴部上半にかけてＬＲの単節縄文を不定方向に施す。内面は←方向にケズリを施す。器質は緻密で、白色小礫・石英・チャート・輝石・雲母を微量に含む。焼成は良好で、色は黒褐色、一部は褐色である。また、胴部外面の上半に２次的な煤が見られ、内面下半には内容物の煮沸による炭化物が付着している。形態・縄文・使用状況などの特徴から、弥生時代中期末の甕と考えられる。註 （飯田光央）

(3) 埴輪（第20図 82～87）

T－11で出土した。塚山西古墳出土の円筒埴輪よりも全体的に、１次調整タテハケが粗く（３～４本／１cm)、胎土が緻密でなく、焼成がやや不良である。詳細は観察表に示した。 （篠原真理）

註 藤田典夫氏の御教示による。



第20図 塚山西古墳外出土遺物実測図（S＝1／4）

第7表　塚山6号墳・遺構外出土遺物観察表

No.	部位・寸法(cm)	形態・特徴	調整・刻毛目 (本/cm)	色調	焼成	胎土	出土位置	備考
82	頸部 器厚 1.3	突帯貼付のためのヨコナデ有り	外：タテハケ(3本) 内：タテハケ	茶色	やや良	黒色細粒混入	T-2	6号墳付近から出土 内面に粘土塊の接合痕有り
83	口縁部 器厚 1.0	直立する	外：ナナメ→ケ(4本)のちヨコハケ(8～10本) 内：ナナメ→ケ、のちヨコハケ(10本)	褐色	良好	白色細粒混入	T-10	
84	朝顔形埴輪　頸部 器厚 0.9		外：ヨコナデとナナメナデ 内：ヨコナデ	茶色	不良	黒白色細粒混入	T-2	
85	胴部 器厚 1.4	凹凸あるいは細凹の透孔を有する、突帯剥離	外：タテハケ(3本) 内：ヨコハケ(4本)	褐色	良好	白色細粒混入	T-10	
86	朝顔形埴輪　肩部 器厚 1.1	M字形突帯 突帯貼付のためのヨコナデ有り	外：ナナメ→ケ(粗上ぶり)(6本) 内：ヨコナデ	茶色	不良	黒白細粒混入	T-2	塚山6号墳側より出土
87	底部 器厚 2.7		外：ナナメ→ケ(3本) 内：ナデ	褐色	やや良	黒・白色細粒混入	T-10	工具の移止痕 粘土板の接合部剥離跡有り

第4節　ま と め

ここでは本報告での成果と問題点を提示し、まとめとしたい。

1．規模は、1976年の調査結果をふまえると、周堀を含めた総長74.1m、墳丘長63.1m、後円部径44.5m、同高6.7m、前方部長約18m、同幅約22m、同高約1.5mであった。但し、後円部高は主軸線上の墳丘裾部から計測した値である。主軸線の方位は、N－152°－Eであった。

2．墳丘の第1平坦面は、T－1・T－4・T－5において、ロームを削り出して造っているのが確認できた。盛土の撹乱が著しく、墳丘第2段以上の詳細は不明である。

3．周堀は馬蹄形で、全周する。旧地表面からK.P.層上面まで掘り込むことにより造られている。墳丘東側の周堀は、他の部分より狭く浅いものであった。これは東に位置する塚山古墳に立地上の制限を受けた結果と考えられる。周堀外には外堤等の施設は確認できなかった。

4．埋葬施設は、後円部墳頂の現地表下2.1mに確認した遺構の一部がこれに当たると考えられる。粘土・石材等は確認できなかったが、ロームブロックが多量に見られた。今回の調査では、位置と保存状態を確認するだけにとどめた。

5．本墳出土の円筒埴輪にはB種ヨコハケを施した個体も若干ながら見られたが、塚山古墳での出土数と比べ非常に少ないことから、本墳が塚山古墳に後出すると考えられる。周堀の所見もこれを裏付ける。

6．本墳の北に位置する塚山6号墳との切り合いは無く、両古墳の先後関係は明確にできなかった。また、本墳の西側一帯では遺構を確認できなかった。　（篠原真理）

7．T－13では、表土下わずか15cmの深さからロームの地山が現われた。台地の縁辺とはいえ、ローム地山上の褐色土層・旧表土層がすべて流れてしまったとは考えにくい。そのため、これは古墳群造営直前あるいは塚山西古墳築造直前に整地がなされたことを示唆するものと考えられる。また、塚山西古墳と時期的に平行するような遺構や遺物は確認できなかったものの、T－13付近が何か意味のある特別な地域として区画されていた可能性も否定できない。一方、溝により台地中央部を墓域として区画し、溝はその境界線としていたとも考えられる。　（飯田光央）

第2章　塚山南古墳

第1節　調査の経過

第2次外形確認調査（1996年7月21日～8月24日）

本次調査の目的は、前方部・後円部の墳丘と周堀の状況確認、および古墳の墳丘長を確認することである。

前方部の主軸推定線上には旧T－1を、前方部西側には主軸推定線に直交する旧T－3を、後円部西側には主軸推定線に直交する旧T－5を、後円部の主軸推定線上には旧T－6を設定し、外形確認調査を行った。それぞれ墳丘と周堀の状況を確認し、旧T－3と旧T－5の周堀内からは、Hr－FA、As－Bと思われる火山灰層を、周堀外からは小さな溝をそれぞれ確認した。旧T－1の周堀内からは、土師器数点がまとまって出土した。

なお、周堀外における溝の確認のために旧T－11も設定した。その結果、切り合う3本の溝を確認した。また、Hr－FAと思われる火山灰層を確認した。

第3次外形確認調査（1997年3月4日～4月4日）

本次の調査は墳丘東側を対象とし、前方部・後円部の墳丘と周堀の状況確認、周堀外における溝の確認を目的とした。

後円部東側には主軸推定線に直交する旧T－7を、前方部東側には主軸推定線に直交する旧T－9を設定し、それぞれ墳丘と周堀の状況を確認した。旧T－9でのみHr－FA、As－Bと思われる火山灰層を確認した。

また、周堀東側にも1本の溝が存在することがそれぞれのトレンチで確認できた。

第4次外形確認調査（1997年7月21日～8月29日）

本次の調査は墳丘東側を対象として実施した。

くびれ部には旧T－8を、前方部東側コーナーには旧T－2、旧T－4を設定した。くびれ部の墳裾線は確認できなかったものの、各トレンチで墳丘と周堀の状況を確認した。周堀内からは、Hr－FA、As－Bと思われる火山灰層を確認した。旧T－8からは、二重口縁などの須恵器が多数出土した。

また、第3次調査に続いて周堀と溝の確認のため旧T－10を設定した。その結果、溝が一部蛇行していることが分かった。

第5次外形確認調査（1998年2月22日～4月3日）

本次の調査は墳丘東側を対象として実施した。

くびれ部の墳丘と周堀を確認するために旧T－12を設定した。これは第3次調査時に設定した旧T－9と第4次調査時に設定した旧T－8とを拡張したものである。調査の結果、墳丘と周堀の状況、墳裾線を確認した。また、多量の埴輪、土師器、須恵器が出土した。

（仲沢　隼）

第8表　塚山南古墳新旧トレンチ対応表

新(本書掲載)	T－1	T－2	T－3	T－4	T－5	T－6	T－7	T－8	T－9
旧(調査時)	T－1	T－3	T－5	T－6	T－7	T－8，9，12	T－2，4	T－11	T－10

第2節　調査の概要

1　測量調査

塚山南古墳は、田川と姿川に挟まれた宝木台地のうちの低く幅の狭い舌状台地南端部に位置しており、台地は南側に向かって下がっている。前方部は南面しており、本墳の北東側には塚山古墳が、北側には塚山西古墳が位置している。

現在、塚山南古墳は墳丘上を落葉広葉樹主体の雑木林に覆われている。また、後円部の東側と前方部の南側は畑となっている。後円部の北側には宇都宮環状道路のトンネルが通っており、周堀の一部は現存していない。前方部西側では墳丘が削られ畑となっており、一部墳丘から第Ⅴ層が露出している。また、後円部の北側及び西側の墳丘裾部付近で墳丘の一部分が崩されている。墳頂には直径2ｍ・深さ30㎝程度のくぼみがある。その周辺には赤彩が施された石があり、盗掘されている可能性がある。

1976年の調査結果と比較すると、後円部は当時の状態を保っているが、東側くびれ部は土が流れていると思われ、前方部前面及び西側は削平されている様子が確認できる。

塚山南古墳の墳丘及びその周辺の測量調査は以下の基準に基づいて行った。

① 図の縮尺は、100分の1とする。

② 等高線(コンターライン)は標高にしたがって25㎝毎に記入する。

③ 測量の方法としては墳丘上及びその周辺に閉合トラバースを設定し平板測量を行う。

④ 座標は1989～1991年の塚山古墳調査時のものを用いる。

測量調査の結果、墳丘長52ｍ、後円部径39ｍ、同高6ｍ、同墳頂平坦面は短軸6ｍ×長軸7ｍの楕円形、前方部長15ｍ、同前面幅10ｍ、同高3ｍ、同墳頂12ｍ×8ｍの長方形の平坦面をもつ帆立貝形前方後円墳であることが分かった。なお、後円部高及び前方部高は主軸推定線上の墳丘裾部からの高さを測ったものである。

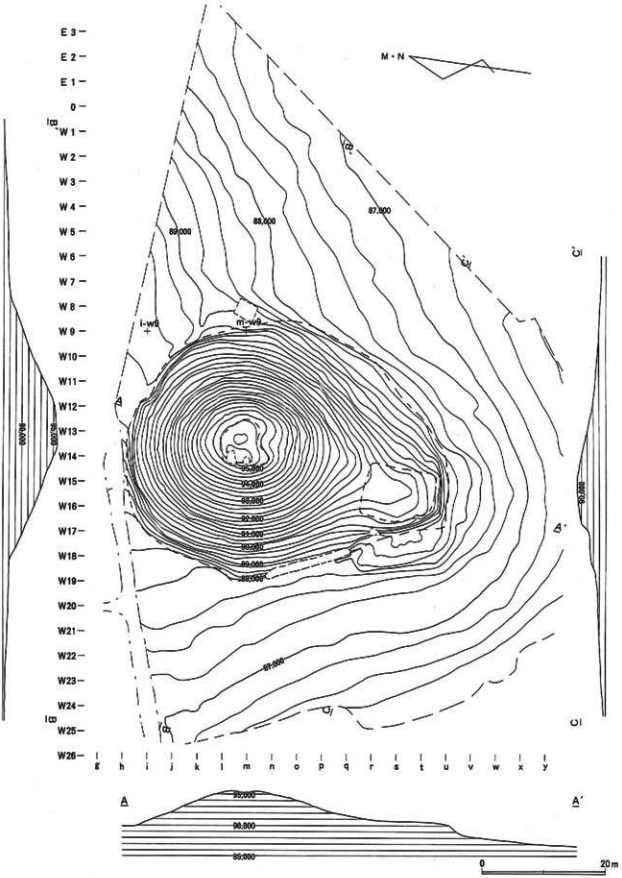
地形は南側に向かって下がっている。後円部の北側で標高90ｍであるのに対し、前方部の南側では標高87ｍであり、約3ｍの比高があった。また後円部の墳頂に対して前方部平坦面は約5ｍ低くなっている。

主軸推定線の方向はＮ－170°－Ｗである。前方部は後円部の大きさに対してかなり小さい。後円部は左右対称であるが、前方部は西側に比べて東側が緩やかに傾斜していることから、前方部東側は崩落している可能性がある。造出、段築、及び葺石は確認できなかった。後円部墳頂に石があることと、前方部のコンターラインに乱れがないことから竪穴系の埋葬施設の可能性が高いと考えられる。墳裾線は後円部では非常に明瞭であるが、くびれ部から前方部にかけてはやや不明瞭になっている。周堀の痕跡は後円部北側から東側にかけてのみ確認できた。周堀の外側は平坦面が続いており、外堤のような遺構の痕跡は確認できなかった。

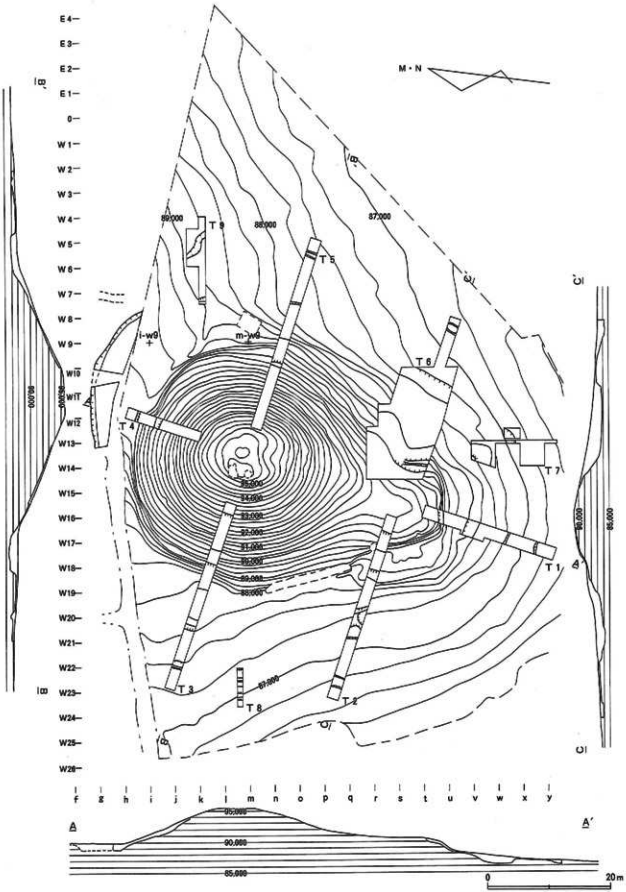
遺物は墳丘上から埴輪片数片と後円部東側の畑から須恵器片と埴輪片を数片採取することができた。

墳丘の周辺には、後円部墳丘裾部から西側へ30ｍ程のところで、直径10ｍ程度のわずかな高まりが見られ、遺構の存在を予想させた。　　(坂本勝志)

第21図　塚山南古墳墳丘測量図（1979年）



第22図　塚山南古墳墳丘測量図（1996年）（S＝1／600）



第23図　塚山南古墳トレンチ配置図（S＝1／600）

2　発掘調査

(1)　前方部の調査

前方部は墳丘及び周堀の状況を確認するために３本のトレンチを設定した。

Ｔ－１　前方部前面の主軸推定線上にＴ－１を設定した。墳丘は第Ⅳ層を約25度の傾斜で立ち上がり、第Ⅳ層、第Ⅲ層、第Ⅱ層、盛土と確認した。本トレンチでは第Ⅴ層は確認できなかった。

段築は確認できなかった。なお、第Ⅳ層で平坦な面（87.8～88.5ｍ、幅3.5ｍ）を確認したが、これはＴ－６で見られた平坦面と比べて明らかに広く、後世に墳丘が削平されてできたものと思われる。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

周堀底面は、第Ⅳ層で外側に向かって緩やかに下がっている。現地表面からの深さは1.2ｍ（標高86.4ｍ）、底面幅は約5.0ｍである。本トレンチ内からはＨｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂと思われる火山灰層は確認できなかった。周堀外縁は墳丘側と比べて急であり、約75度の傾斜で第Ⅳ層を約0.7ｍ立ち上がる。以南は徐々に標高が下がる。

遺物は、埴輪片の他、墳丘裾部の周堀底面よりやや浮いたところ（86.5～86.6ｍ）から須恵器大型甕片、土師器・鬼・椀・高坏・坏・甕、臼玉がまとまった状態で出土した。　（結城早苗）

Ｔ－２　前方部西側には主軸推定線に直交するＴ－２を設定した。墳丘は第Ⅵ層を約45度の傾斜で立ち上がり、第Ⅵ層、第Ⅴ層、第Ⅳ層、第Ⅲ層、第Ⅱ層、盛土と確認した。

段築は確認できなかった。なお、第Ⅴ層で平坦な面（88.4ｍ、幅2.3ｍ）を確認したが、これはＴ－６で見られた平坦面と比べて明らかに広く、後世に墳丘が削平されてできたものと思われる。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

周堀底面は、一度第Ⅵ層で平坦な面を形成した後、墳丘裾部から約4.8～8.4ｍのところを浅い舟底状に第Ⅵ層及び第Ⅶ層を0.5ｍ掘り込んでいる。現地表面からの深さは最深で1.4ｍ（標高85.8ｍ）、底面幅は約10.2ｍであった。底面直上から厚さ２㎝のＨｒ－ＦＡと推定される火山灰層（第28図第10層）、底面から20㎝上で厚さ２㎝のＡｓ－Ｂと推定される火山灰層（第９層）が確認できた。周堀外縁は墳丘側に近い約45度の傾斜で第Ⅳ層を約0.4ｍ立ち上がる。以西は徐々に標高が下がる。

遺物は、周堀覆土中から円筒埴輪片が多数出土した。土師器片も数片出土したが、このトレンチで須恵器の出土はない。　（仲沢　隼）

Ｔ－７　前方部東側コーナーにはＴ－７を設定した。墳丘は第Ⅳ層を約15～20度の傾斜で緩やかに立ち上がり、その上に盛土を確認した。本トレンチでは第Ⅳ層よりも上層の地山層は確認できなかった。コーナーはほぼ直角をなしている。

段築は確認できなかった。なお、盛土は平坦な面を形成しているが、この平坦な面はＴ－６の前方部で見られる平坦面とは異なり、約１ｍ低く、幅も広い。前方部東側の平坦面に相当する部分が東側コーナーの墳丘部に見られないのは、平坦面も含め前方部の一部が削平されてしまったためであると考えられる。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

周堀底面は、第Ⅵ層で外側に向かって緩やかに下がっている。現地表面からの深さは最深で1.2ｍ（標高86.0ｍ）、幅約４ｍである。底面から約８～20㎝上で厚さ２㎝のＨｒ－ＦＡと推定される火山灰層（第30図第10層）が確認できた。Ａｓ－Ｂと推定される火山灰層は確認できなかった。周堀外縁は、くびれ部付近と同様に一度第Ⅱ層を急傾斜で掘り込んだ後、黄褐色の盛土（第Ｂ層）を施しており、約20度の傾斜で0.4ｍ立ち上がる。周堀以東は後円部や前方部西側と異なり第Ⅱ層であり、徐々に標高が下がる。

遺物は、土師器甕1個体が周堀外縁の立ち上がりの底面直上から出土したほか、周堀覆土中から埴輪片2片、周堀以東から縄文・弥生土器片が出土した。（須長剛生）

(2) 後円部の調査

後円部の調査では、墳丘及び周堀の状況を確認するために4本のトレンチを設定した。

T－3　後円部西側に主軸推定線に直交するT－3を設定した。墳丘は第Ⅵ層を約50度の傾斜で立ち上がり、第Ⅵ層、第Ⅴ層、第Ⅳ層、第Ⅲ層、第Ⅱ層、盛土と確認した。

墳丘第一平坦面は第Ⅳ層で、第Ⅲ層を削り出すことにより形成されており、標高89.4m、幅約0.2mの平坦面である。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

周堀底面は、一度第Ⅶ層で平坦な面を形成した後、墳丘裾部から約2.5～4.9mのところを浅い舟底状に0.3m掘り込んでいる。現地表面からの深さは最深で1.5m（標高86.4m）、底面幅は約6.7mであった。浅い舟底状になっている底面直上から厚さ約10cmのＨｒ－ＦＡと推定される火山灰層（第28図第10層）、底面から30cm上で厚さ2cmのＡｓ－Ｂ と推定される火山灰層（第9層）が確認できた。周堀外縁は墳丘側と比べると急で、約80度の傾斜で第Ⅳ層を0.9m立ち上がる。以西は徐々に標高が下がる。

出土遺物は、周堀覆土中（第6層）でほぼ完形の朝顔形埴輪が出土したのをはじめ埴輪片約120片、土師器坏が出土している。多くが標高86.7～87.4mの周堀覆土中（第5層）に集中している。（浦田謙一）

T－4　後円部北側の主軸推定線上にT－4を設定した。墳丘裾部は第Ⅴ層中にある。墳丘は第Ⅴ層を約35度の傾斜で立ち上がり、第Ⅳ層、第Ⅲ層、第Ⅱ層、盛土と確認できた。

墳丘第一平坦面は、第Ⅳ層で第Ⅲ層を削り出すことにより形成されており、標高90.6m、幅約0.7mである。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

周堀底面は、第Ⅴ層であり、現地表面からの深さ1.1m（標高88.7m）である。本トレンチ内からはＨｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂと思われる火山灰層は確認できなかった。

出土遺物は全て埴輪片であり、周堀覆土中からの出土である。（坂本勝志）

T－9　後円部北東側に主軸推定線に直交するT－9を設定した。

周堀は、底面が第Ⅴ層であり、現地表面からの深さ1.0m（標高88.0m）である。本トレンチ内からはＨｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂと思われる火山灰層は確認できなかった。周堀外縁は第Ⅴ層を約90度の傾斜で0.7m立ち上がる。以東は、後述する4号溝までは平坦な面が続く。

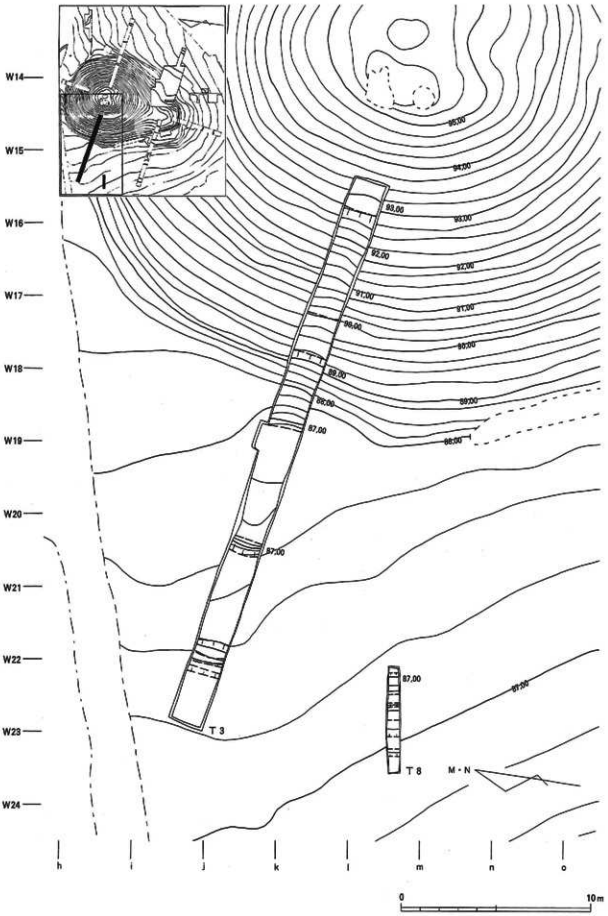
周堀内からの遺物の出土はなかった。（山中恵美）

T－5　後円部東側に主軸推定線に直交するT－5を設定した。墳丘は第Ⅳ層を約40度の傾斜で立ち上がり、第Ⅳ層、第Ⅲ層、第Ⅱ層、盛土と確認した。

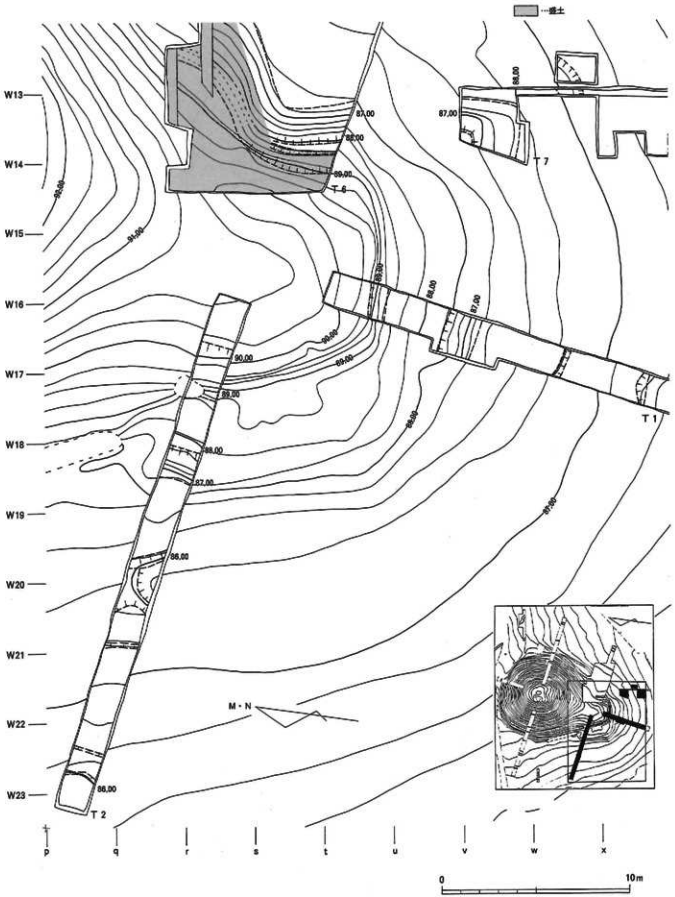
墳丘第一平坦面は、第Ⅳ層で、第Ⅲ層を削り出すことにより形成されており、標高89.7m、幅約0.4mの平坦面である。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

周堀底面は、第Ⅴ層で平坦な面を形成しており、現地表面からの深さは1.2m（標高87.0m）、底面幅は約6.3mである。本トレンチ内からはＨｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂと思われる火山灰層は確認できなかった。周堀外縁は墳丘側と比べると急で約75度の傾斜で第Ⅳ層を0.7m立ち上がる。以東は、ローム面の標高が下がっていくが、舌状台地の縁という自然地形のためであると思われる。

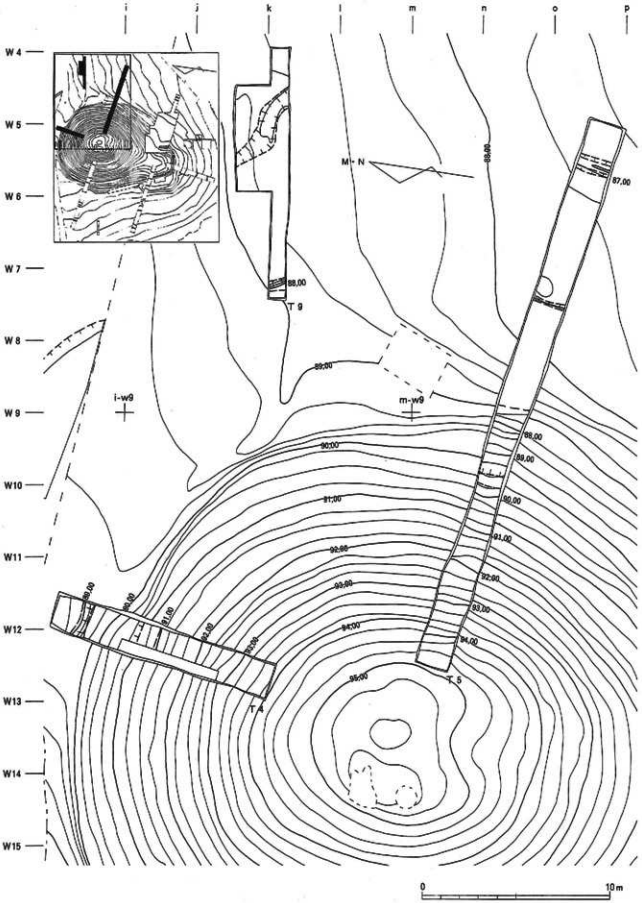
出土遺物は、形象埴輪約20片をはじめ埴輪片が約150片出土している。（仲沢　準）



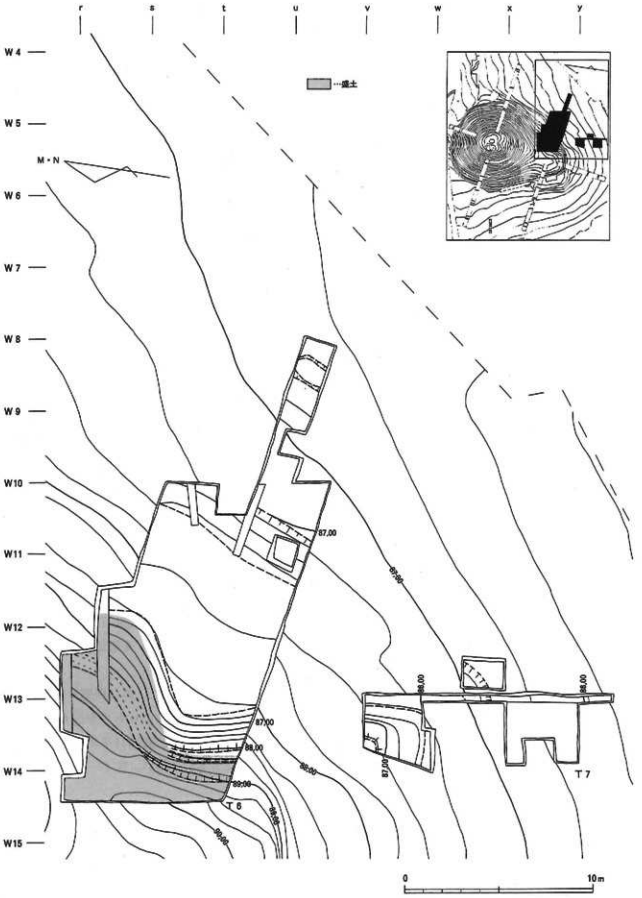
第24図　塚山南古墳トレンチ平面図(1)（S＝1／200）



第25図　塚山南古墳トレンチ平面図(2)（S＝1／200）



第26図　塚山南古墳トレンチ平面図(3)（S＝1／200）



第27図　塚山南古墳トレンチ平面図(4)（S＝1／200）

(3) くびれ部の調査

Ｔ－６　本トレンチは東側くびれ部付近の墳丘及び周堀の状況を確認するために設定した。

前方部側の墳丘裾部は、第Ⅶ層上面（87.6ｍ）まで掘り込むことにより形成されている。前方部の墳丘は第Ⅵ層を約30度の傾斜で立ち上がり、第Ⅴ層、第Ⅳ層、第Ⅲ層、第Ⅱ層、盛土と確認できた。なお、第Ⅴ層を平面的にみると前方部途中で消滅してしまう。葺石や埴輪列およびその掘り方は確認できなかった。

墳丘第一平坦面は、第Ⅵ層上面で、標高88.1ｍ、幅約0.5ｍである。平坦面より上では、第Ⅴ層及び第Ⅳ層（88.5ｍ～）を約90度の傾斜で立ち上がる。この平坦面は、くびれ部から１ｍ程前方部側で見られる。

後円部側の墳丘裾部は、第Ⅵ層を約20度の傾斜で立ち上がりローム層を覆うように厚さ約１ｍの盛土が施されている。

築造の過程は、まず第Ⅵ層上層まで削り出して墳丘を造り、第Ⅵ層と盛土により後円部を形成している。その後前方部一帯に盛土を施し、最後に前方部最上部に盛土を施している。

周堀底面は、第Ⅶ層で外側に向かって緩やかに下がっている（標高86.5～86.0ｍ）。現地表面からの深さ1.2ｍ、幅5.5～9.0ｍである。また、周堀底から約８cm上で厚さ２cmのＨｒ－ＦＡと推定される火山灰層（第29図第10層）が確認できた。

周堀外縁は、前方部東側コーナーと同様に一度第Ⅱ層と第Ⅶ層を掘り込んだ後、黄褐色の盛土（第29図第Ａ層）を施し、約60度の傾斜で立ち上がる。以東は、後円部及び前方部西側とは異なり、ローム層ではなく第Ⅱ層で標高が徐々に下がっていき、消滅する。舌状台地の縁という自然地形のためであると思われる。

出土遺物は埴輪、土師器、須恵器で、これらの多くは周堀覆土中の黄褐色層（第29図第７層）とその上層にかけて出土し、特に土師器、須恵器が集中している。　（須長剛生）

(4) 塚山南古墳周辺の調査

本墳周堀の外側において、西側で３本、東側で１本、合計４本の南北に縦走する小さな溝を確認した。

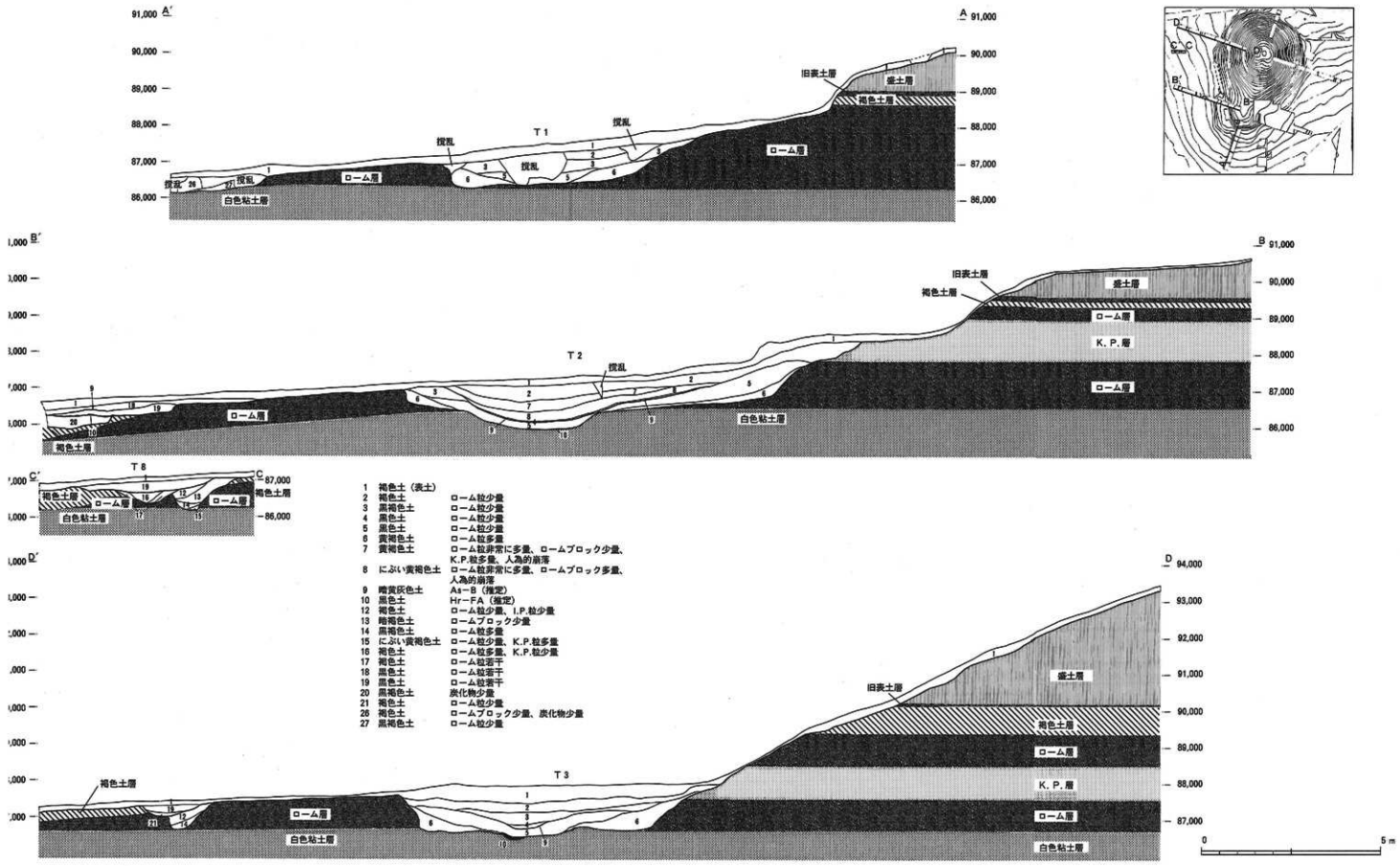
Ｔ－８　後円部西側の周堀以西に設定した本トレンチ内からは切り合う３本の溝を確認し、古い順から１号溝、２号溝、３号溝とした。３本の溝は周堀外側の上端から西に推定４～５ｍの地点にある。１号溝は、第Ⅶ層まで掘り込み、断面形状は下辺の短い台形、底面幅約0.4ｍ、現地表面からの深さ約1.0ｍ（標高86.2ｍ）である。２号溝は、断面形状は舟底状で、底面幅約0.5ｍ、現地表面からの深さ約0.7ｍ（標高86.4ｍ）である。３号溝は、底面は平坦で、底面幅約2.5ｍ、現地表面からの深さ約0.4ｍ（標高86.7ｍ）である。３号溝からは底面直上で厚さ５cmのＨｒ－ＦＡと推定される火山灰層（第28図第10層）を確認した。

どの溝からも遺物は出土しなかった。

Ｔ－３　後円部西側に設定した本トレンチ内からは、１号溝、３号溝を確認した。溝は周堀外側の上端から西に6.4ｍの地点にあり、１号溝の断面形状は、下辺の短い台形でＴ－８のそれよりもやや崩れている。底面幅は約0.4ｍ、現地表面からの深さ約0.8ｍ（標高86.6ｍ）である。３号溝は、底面は平坦で、底面幅約1.2ｍ、現地表面からの深さ約0.4ｍ（標高87.0ｍ）で、Ｔ－８のそれよりも幅が狭い。Ｈｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂと推定される火山灰層は確認できなかった。

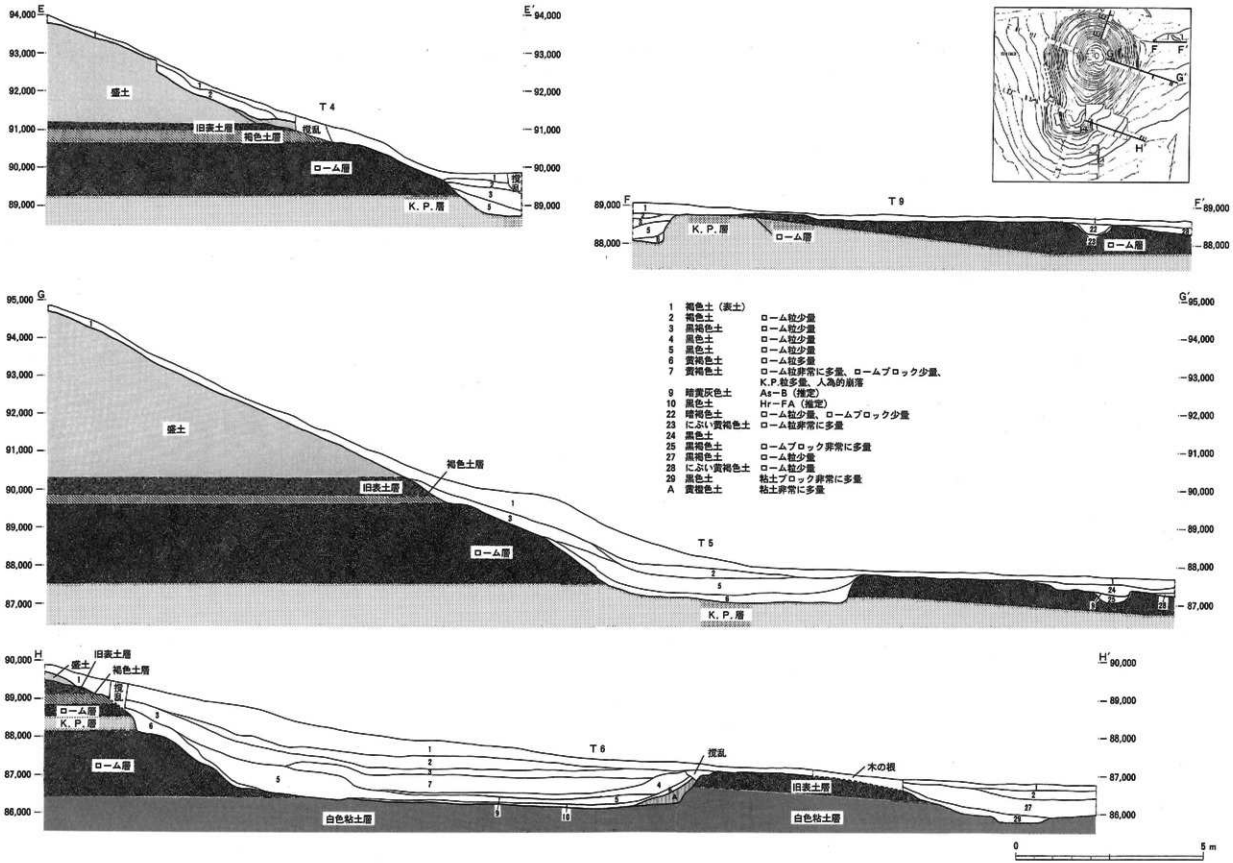
また遺物も出土しなかった。

Ｔ－２　前方部西側に設定した本トレンチ内からは、３号溝を確認した。溝は周堀外側の上端から西に6.0ｍの地点にあり、３号溝の底面は平坦で、現地表面からの深さ約0.5ｍ（標高86.2ｍ）である。底面直上で厚さ２cmのＨｒ－ＦＡと推定される火山灰層（第28図第10層）を、また、厚さ２cmのＡｓ－Ｂと推定される火山灰層（第９層）を確認した。

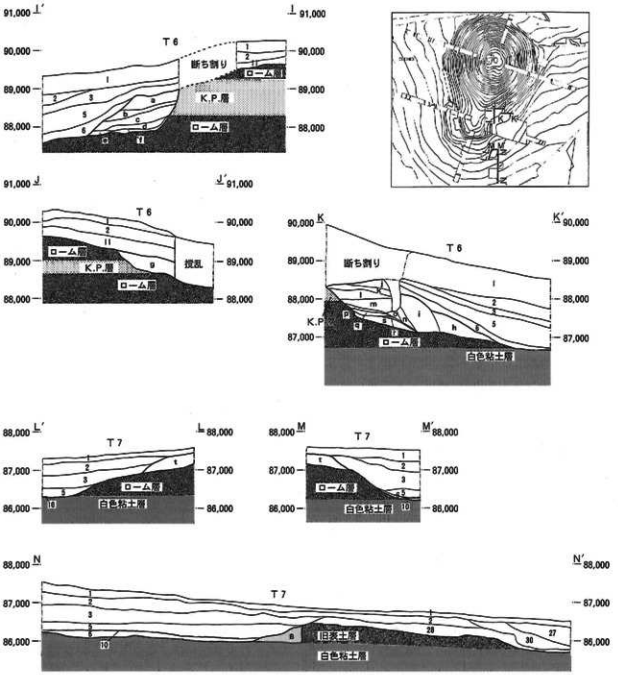


1 褐色土（表土）
2 褐色土　ローム粒少量
3 黒褐色土　ローム粒少量
4 黒色土　ローム粒少量
5 黒色土　ローム粒少量
6 黄褐色土　ローム粒多量
7 黄褐色土　ローム粒非常に多量、ロームブロック少量、K.P.粒多量、人為的崩落
8 にぶい黄褐色土　ローム粒非常に多量、ロームブロック多量、人為的崩落
9 暗黄灰色土　As−B（推定）
10 黒色土　Hr−FA（推定）
12 褐色土　ローム粒少量、I.P.粒少量
13 暗褐色土　ロームブロック少量
14 黒褐色土　ローム粒多量
15 にぶい黄褐色土　ローム粒少量、K.P.粒多量
16 褐色土　ローム粒多量、K.P.粒少量
17 褐色土　ローム粒若干
18 黒色土　ローム粒若干
19 黒色土　ローム粒若干
20 黒褐色土　炭化物少量
21 褐色土　ローム粒少量
26 褐色土　ロームブロック少量、炭化物少量
27 黒褐色土　ローム粒少量

第28図　塚山南古墳トレンチ断面図(1)（S＝1／100）



第29図　塚山南古墳トレンチ断面図(2)（S＝1／100）



第30図　塚山南古墳トレンチ断面図(3)（S＝1／100）

1	褐色土（表土）		i	にぶい黄褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(10～30cm)多量、非常に硬
2	褐色土	ローム粒少量	j	褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(1～5cm)やや多量、やや軟
3	黒褐色土	ローム粒少量	k	明褐色土	ロームブロック(1～4cm)多量、K.P.粒少量、
4	黒色土	ローム粒少量			K.P.ブロック(2～3cm)少量、やや軟
5	黄褐色土	ローム粒多量	l	暗褐色土	ロームブロック(1～10cm)やや多量、K.P.粒少量、
6	黒色土	Hr－FA(推定)			K.P.ブロック(2～7cm)少量、硬
7	褐色土	ローム粒少量、ロームブロック多量	m	にぶい黄褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(1～12cm)多量、K.P.粒少量、
7	黒褐色土	ローム粒少量			K.P.ブロック(2～4cm)やや多量、やや軟
8	にぶい黄褐色土	ローム粒少量	n	黒色土	ローム粒少量、K.P.粒少量、やや硬
9	褐色土	ローム粒多量	o	黒褐色土	ローム粒やや多量、硬
9	黄褐色土	ローム粒やや多量、ロームブロック(1～8cm)やや少量、やや軟	p	黒褐色土	ロームブロック(1～3cm)多量、K.P.粒少量、
9	褐色土	ローム粒少量、ロームブロック(0.5～2cm)やや多量、やや硬			K.P.ブロック(1～6cm)やや多量、やや硬
9	褐色土	ローム粒やや多量、ロームブロック(1～9cm)多量、やや軟	q	にぶい黄褐色土	ローム粒多量、ロームブロック(2～9cm)やや多量、
9	黒褐色土	ローム粒やや多量、ロームブロック(1～7cm)少量、硬			K.P.ブロック(2～8cm)少量、やや軟
9	明褐色土	含有物特になし、やや軟	r	黒褐色土	ローム粒多量、やや硬
9	暗褐色土	ロームブロック(1～3cm)やや多量、K.P.粒やや多量、硬	s	明黄褐色土	含有物特になし、やや軟
9	黒褐色土	ローム粒少量、ロームブロック(2～16cm)多量、やや軟	t	褐色土	ローム粒若干、I.P.粒若干、軟
9	明黄褐色土	含有物特になし、硬	B	暗褐色土	K.P.粒少量、K.P.ブロック(2～5cm)少量、

Ｔ－５・Ｔ－９　後円部東側に設定した２本のトレンチ内からは、それぞれ１本の溝を確認し、断面形状、平面形状から同一のものとし、これを４号溝とした。４号溝は、周堀外側の上端から外側に約７～10.4ｍのところで、第Ⅳ層を掘り込むことにより形成されている。断面形状は、舟底状で、底面幅約0.5ｍ、現地表からの深さ約0.4ｍ（標高88.3ｍ）であった。溝の北への進行状況を明瞭にするために拡張を行った結果、一部溝が蛇行していることを確認した。４号溝は、塚山西古墳第１次調査で確認された溝に向かっている。Ｈｒ－ＦＡ及びＡｓ－Ｂと推定される火山灰層は確認できなかった。以東は、徐々に標高が下がる。

また遺物は溝内から形象埴輪１片、土師器数片が出土している。　（須長剛生）

(5)　遺物出土状態

本墳からは、埴輪、土師器、須恵器、臼玉を確認した。遺物の出土層位は第４、５層に集中している。

埴輪は、原位置を保つものは１点もなく、大部分が墳丘裾部を中心に墳丘側から周堀全面に流れ込んだ状態で、周堀覆土中（第５層）から出土した。資料の中には完形品に近いものもあり、破片も大きかった。円筒埴輪は、Ｔ－９を除き、周堀にかかるすべてのトレンチで出土している。なお、埴輪列の掘り方は確認できなかった。トレンチごとの出土状況をみると、Ｔ－２、Ｔ－３、Ｔ－５、Ｔ－６は比較的多く、破片も大きめであるのに対し、Ｔ－１、Ｔ－４、Ｔ－７は比較的少なく小さめの破片である。

形象埴輪が出土したトレンチは、Ｔ－５、Ｔ－６、Ｔ－９といずれも墳丘の東側である。特にＴ－５の墳丘裾部付近周堀覆土中（第５層）からの出土が目立った。墳丘の西側からは出土していない。なお、西側くびれ部付近および後円部東側の南北に走る溝の東側（ｋ－Ｗ3）から形象埴輪が表採されている。

土師器は、Ｔ－１・Ｔ－２・Ｔ－３・Ｔ－６・Ｔ－７・Ｔ－９で出土している。Ｔ－１、Ｔ－６の出土状態については、後述するとして、ここでは、その他のトレンチの出土状態について触れたい。Ｔ－２で出土した土師器は甕の小破片であり、埴輪とともに出土している。Ｔ－３からは土師器坏（第53図18）が、底面から50㎝上、周堀覆土中（第６層）から口縁部を上に向けた状態で出土した。Ｔ－７では、土師器甕１個体が、前方部東側コーナーの外側立ち上がり付近の底面直上からつぶれた状態で出土している。Ｔ－９からは、４号溝内の底面よりやや浮いた状態（第22層）で出土し、流れ込んできたものと考えられる。

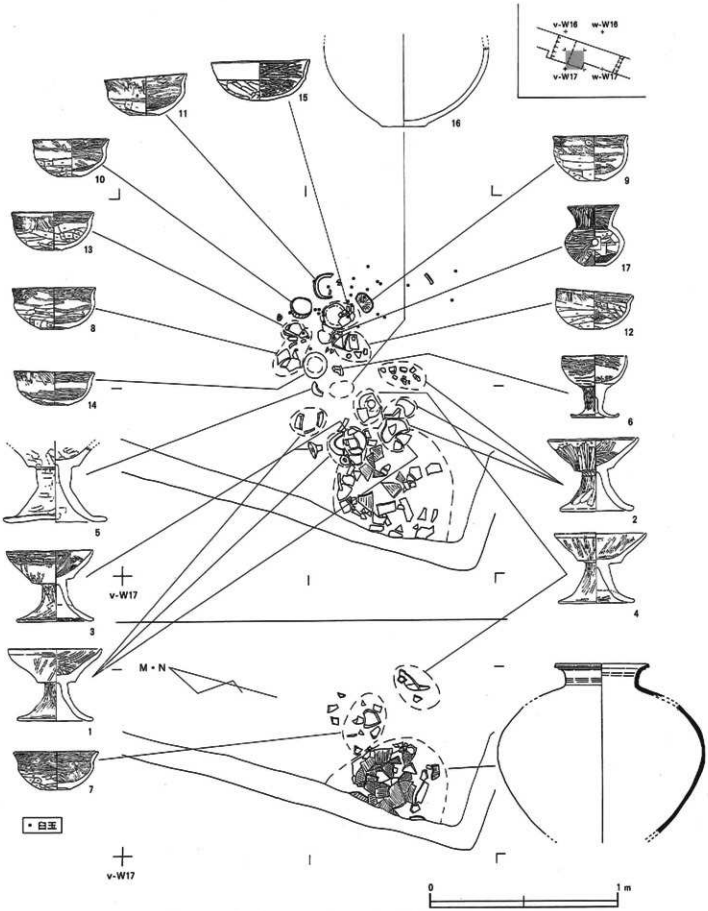
須恵器は、Ｔ－１とＴ－５、Ｔ－６で出土した。Ｔ－５での出土は、墳丘と周堀外縁以東とのいずれも表土層からである。

臼玉はＴ－１のみで出土した。

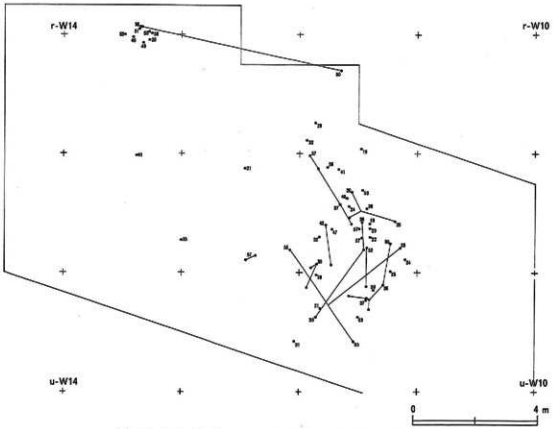
Ｔ－１　本トレンチからは、円筒埴輪と土師器高坏（第53図１～６）、坏（７～15）、甕（16）、鼎（17）、須恵器中型甕（第56図68）、臼玉（第59図）が出土した。それぞれの遺物はほぼ原位置に近い状態での出土と考えられる。

円筒埴輪は、小破片で周堀覆土中第３層から流れ込んだ状態で出土した。

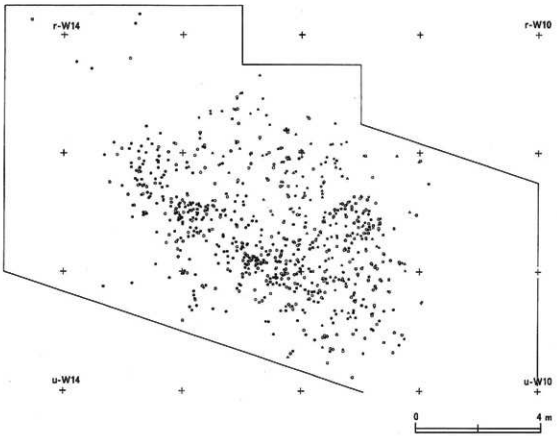
他の遺物は、主軸線上の前方部墳丘裾部付近（第28図第６層）で長軸1.5ｍ、短軸0.8ｍの楕円状でまとまって、底面からやや浮いた状態（第31図）で出土した。しかし、全体の形を推定し得る状態であり、多くの資料が完形に近いものとなった。また、高坏と坏それぞれが器種ごとにまとまって出土している。多くの高坏は坏部と脚部とに折れて出土した。坏部は口縁部を下に向け、脚部は底部を下に向けるものもあったが、上に向けるものがほとんどであった。坏は、口縁部を上に向けていた。鼎と臼玉は、坏と同一範囲から出土した。鼎は、口縁部を上にし、やや傾いた状態で出土した。臼玉は、坏の中からも出土したが、その多くは散在していた。須恵器中型甕は、口縁部を上に向けつぶれた状態で出土した。



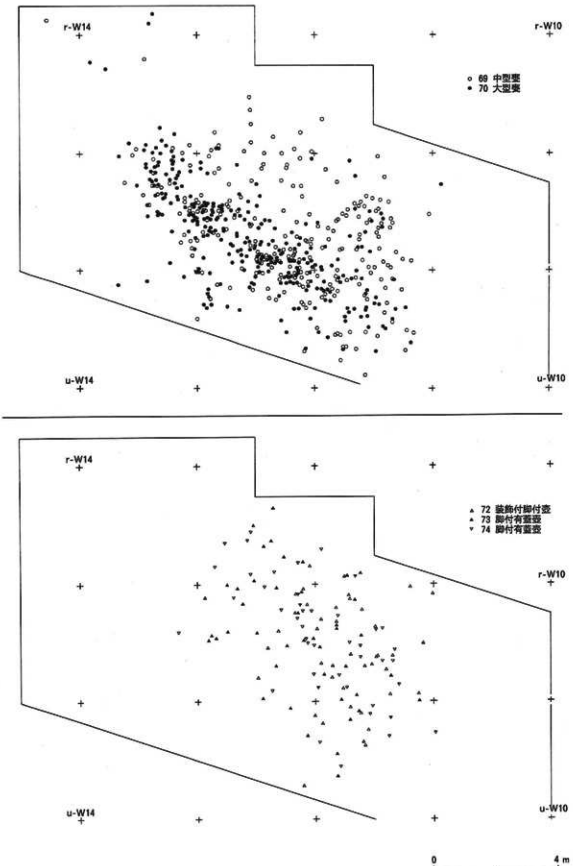
第31図　塚山南古墳Ｔ－１土師器・須恵器出土状態（Ｓ＝1／20）



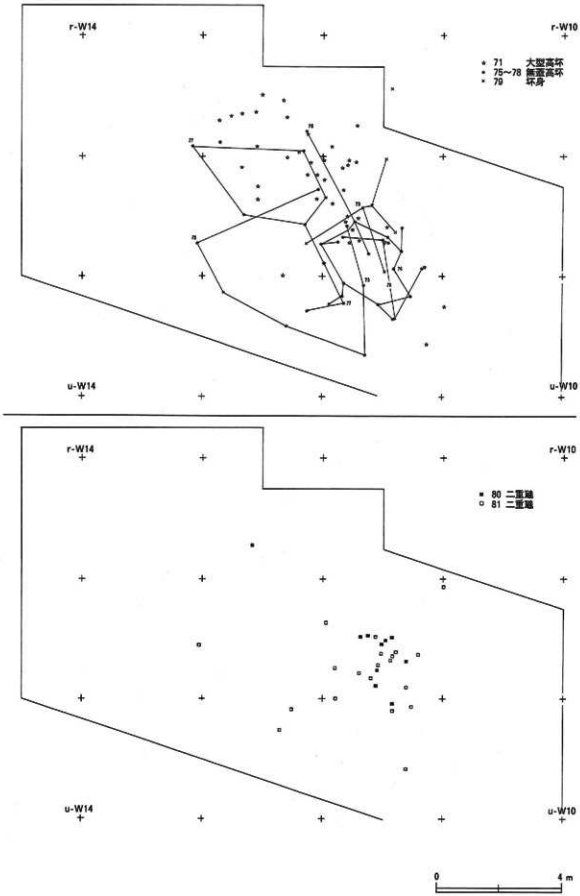
第32図　塚山南古墳Ｔ－６土師器出土状態（Ｓ＝1／120）



第33図　塚山南古墳Ｔ－６須恵器出土状態(1)（Ｓ＝1／120）



第34図　塚山南古墳T－6須恵器出土状態(2)（S＝1／120）



第35図　塚山南古墳Ｔ－６須恵器出土状態(3)（1／120）

Ｔ－６　本トレンチからは、円筒埴輪と形象埴輪、土師器・高坏（第54図19～39、第55図40、41）・蓋（42～50）・坏（51～55）・甕・壺（56～59）・坩（60、61）・土製品（62、63）、須恵器・中型甕１（第56図69）・大型甕１（70）・大型高坏（器台）１（第57図71）・装飾付脚付壺２（72）・脚付有蓋壺２（73、74）・無蓋高坏４（第58図75、76、77、78）・坏身１（79）・二重亀２（80、81）が出土した。

遺物全体の出土状態は、主に底面から約30cm浮いた周堀覆土中（第29図第７層）に集中して出土している。平面的にみると、周堀の中程での出土が目立つ（第32、33図）。ただし、第32図については掲載遺物の実測点であり、土師器全体の出土状態を表してはいない。後円部の上面からは、土師器・坏、蓋、高坏、甕、壺、土製品が出土している。この一帯は撹乱を受けており、原位置かどうかは不明ではあるが、少なくともこの付近に置かれていたものと考えられる。69、72～75は周堀の全面に分布しているのに対し、70はトレンチの南半分で帯状に、71はトレンチの北側半分に、76、78～81は周堀中程、77は、くびれ部の墳丘裾部付近に集中して出土している（第34、35図）。　（須長剛生）

第３節　出土遺物

１　塚山南古墳出土遺物

(1)　埴輪

本墳から出土した埴輪は、円筒埴輪と形象埴輪の２種に大別できる。

円筒埴輪（第36図１～第50図74）

本墳からは、円筒埴輪と朝顔形埴輪の２種が出土した。個々の詳細については観察表に示し、ここでは円筒埴輪について概観を述べる。なお、円筒埴輪か朝顔形埴輪か、判別できないものについては、円筒埴輪として扱った。

かなりの量の円筒埴輪が出土したが、径の復元が可能なものだけを図化した。なお、同一個体と思われるものは接合ができない場合でも図化の段階で復元した。

円筒埴輪（第36図１～第45図53）

口縁部まで復元できた資料は、４本のみであった。

円筒埴輪は、突帯数から２条のものと３条のものの２種を確認した。器形は、基底部から口縁部が開くラッパ型とあまり開かない寸胴型の２形態に大別できる。２条のものは両者が確認でき、３条のものは寸胴型だけ確認できた。

寸法は、２条突帯のものは、器高が44.4～47.7cm、口径が28.2～32.7cm、底径が19.5～22.5cmとばらつきがあり、ラッパ型の方がやや大形である。３条突帯は、器高が60.5cm、口径が28.1cm、底径が23.2cmである。器厚は、２条突帯のものも３条突帯のものもともに口縁部から基底部に向かって厚くなる。

成形は、幅６cm前後の粘土板を円筒状にして基部とする。粘土板の合わせ目は、下から見て右側が下になるもの（右）左側が下になるもの（左）の２種を確認した。基部の上には、粘土紐を一挙に口縁部まで積み上げている。基部は重みによる歪みや膨らみが見られる。また、底面には明確な植物圧痕が残るものが多い。口縁部形状は、直立するもの、緩く外傾するものの２種がある。

外面は、タテハケ後口唇部付近をナデる。基底部はヨコナデまたはヨコハケを施すものが多い。内面は、ヨコナデのみのもの、ヨコナデ後口縁部にヨコハケを施すもの、基底部にヨコハケを施すものがある。多く

の資料が、指頭圧痕および粘土紐痕を残す。また、底部調整がみられる。刷毛目に関しては、2条突帯のものが細かく（10本／2㎝）、3条突帯のものが粗い（6本／2㎝）という傾向がある。

突帯の形状は、台形、崩れた台形、M字形、三角形の4種がある。

透孔は、横長の楕円形と円形の2種類がある。2条突帯のものは、胴部に一対、3条突帯のものは胴部第1段と第2段に一対ずつあり、直交する。

色調は、明赤褐色、橙色、浅黄橙色、にぶい黄褐色、明黄褐色の大きく5色がある。浅黄橙色とにぶい黄褐色は3条突帯のもののみにみられる。

焼成は、2条突帯のものはほとんどが良好である。3条突帯のものは良好なものとそうでないものとが混在する。

胎土については、第9表のとおりである。

朝顔形埴輪（第46図54～第49図66）

口縁部まで復元できた資料は、円筒部が4条突帯（54）のもの1本のみであった。

朝顔形埴輪は、円筒部が3条と4条の突帯を有する2種を確認した。器形は、円筒部において寸胴型になるものと、基底部から肩部に向かうにつれて開くものの2形態に大別できる。

寸法は、4条突帯のもので、器高が85.0㎝、口径が42.3㎝、底径が20.0㎝であった。

調整は、外面はタテハケのみで、内面は朝顔部がヨコハケ後口縁部のみナデ、円筒部は丁寧なナデが施されている。3条突帯のものは、ハケ目が細かく（10本／2㎝）、4条突帯のものは細かいもの（12本／2㎝）と粗いもの（6本／2㎝）とが混在する。

突帯は、円筒埴輪に比べると稜線がはっきりとしており、台形のものが多い。

透孔は、横長の楕円形のもののみである。3条突帯のものは、胴部第1段と第2段に一対ずつあり、直交する。4条突帯のものは胴部第1段と第2段、第3段に一対ずつある。ハケ目の細かいものは、第1段と第3段は同じ方向で第2段とは直交し、粗いものは、第2段と第3段は直交するが、第1段とは直交しない。

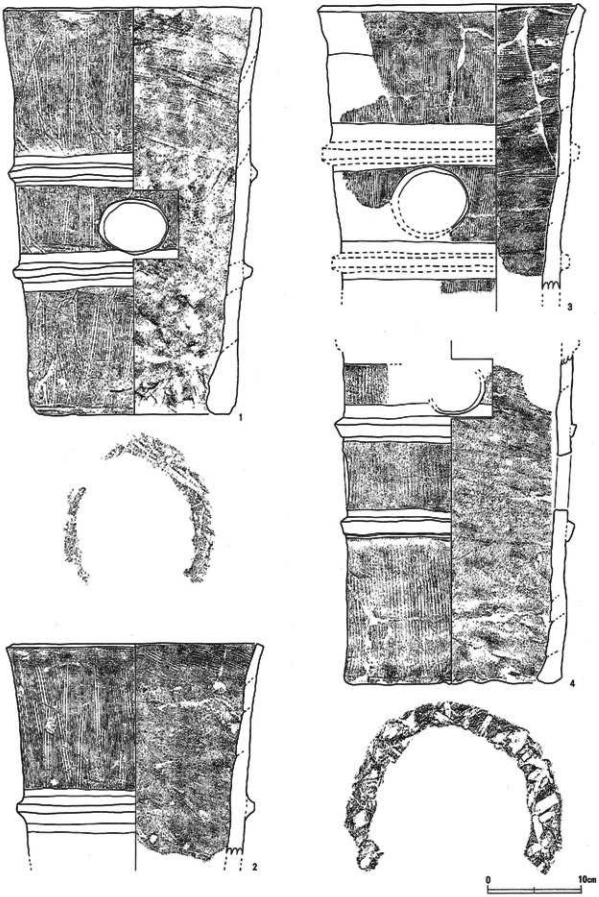
色調、焼成、胎土については、第10表のとおりである。

線刻（第50図67～74）

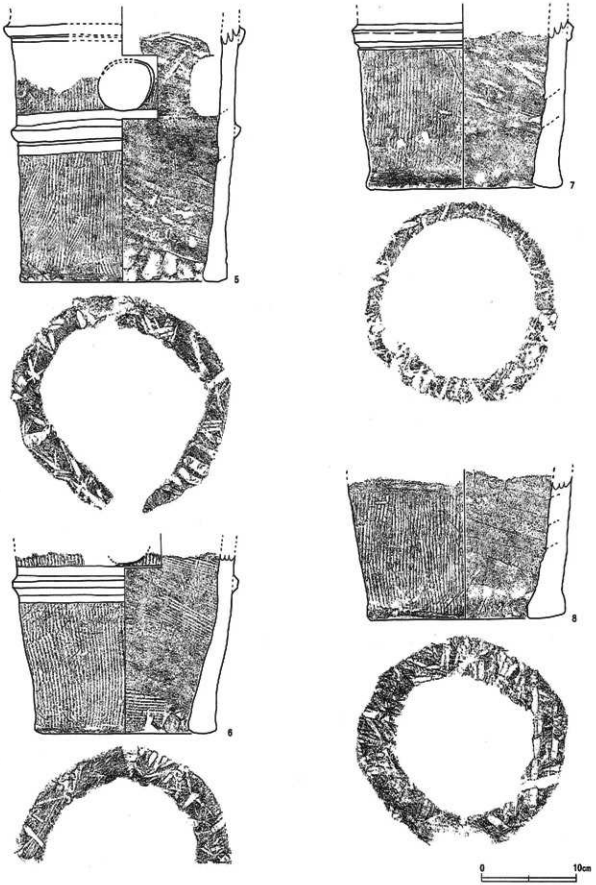
線刻は銀杏葉文2点（68、73）を含む8点が確認できた。すべての線刻は外面にあり、透孔の周囲に刻まれている。調整は、外面はタテハケのみで、内面はヨコハケのものとナデのものとがある。ハケ目は、細かいものと粗いものとがあった。焼成は非常に良好なものと脆いものとがある。破片から全体の形状を知ることはできなかった。

形象埴輪（第51図75～85）

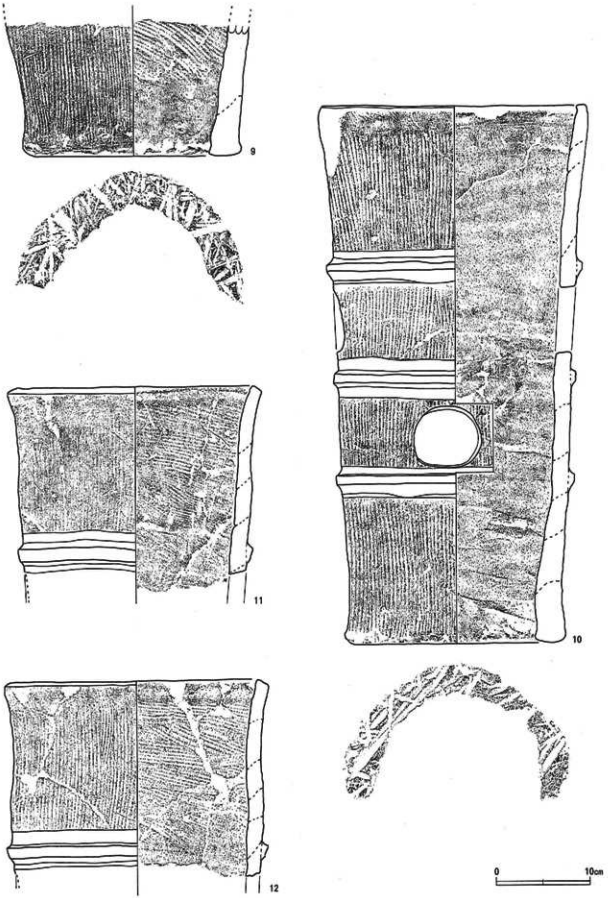
今回の調査で出土した形象埴輪は、すべて断片的な資料であり、全体の形状がわかるものは1点も確認できない。明らかに形象埴輪と考えられる資料は22点、そのうちの11点を図化した。ある程度の推定を含めて、人物、馬、鹿、家の4種類を確認することができた。詳細は観察表による。（須長剛生）



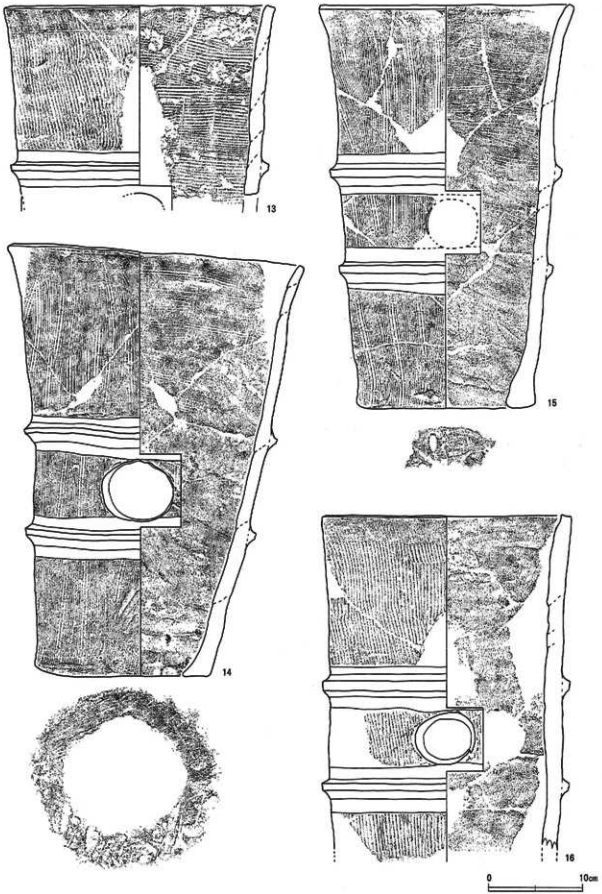
第36図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(1)（S＝1／4）



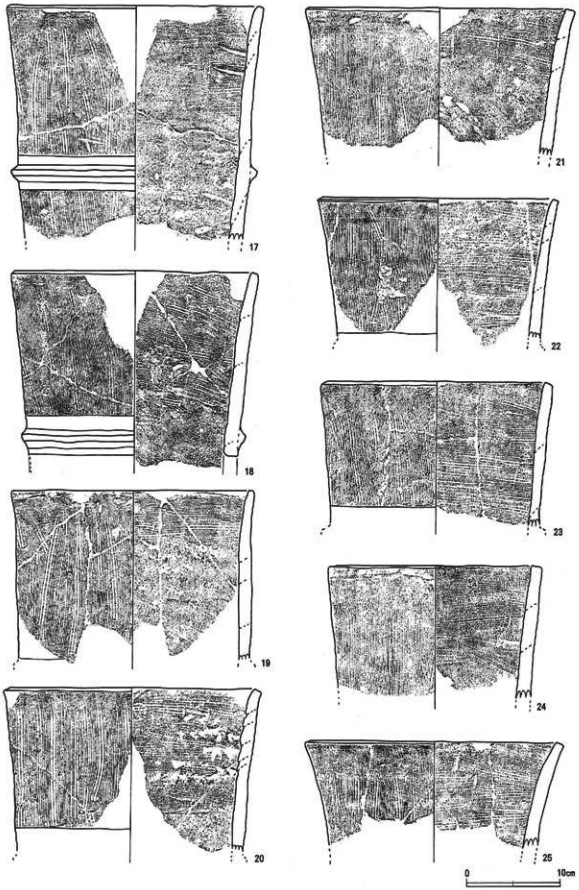
第37図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(2)（S＝1／4）



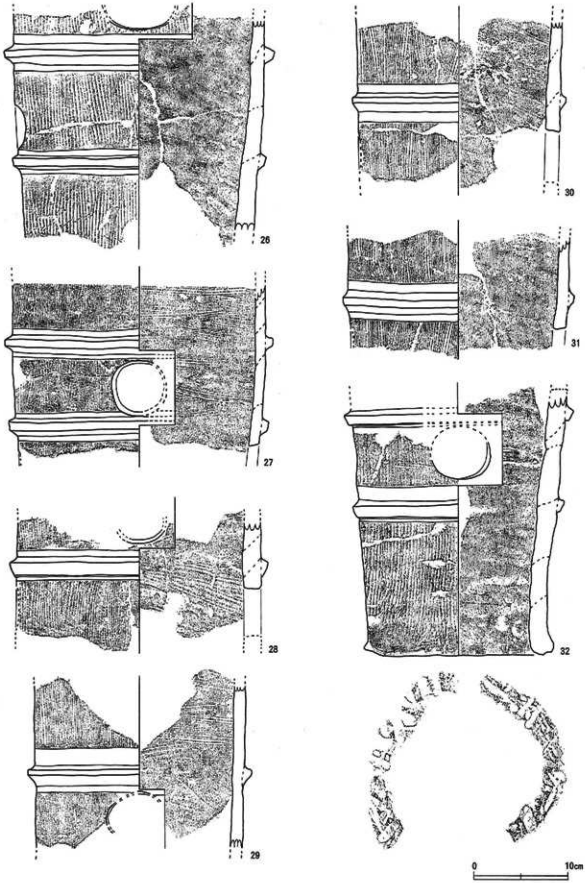
第38図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(3)（S＝1／4）



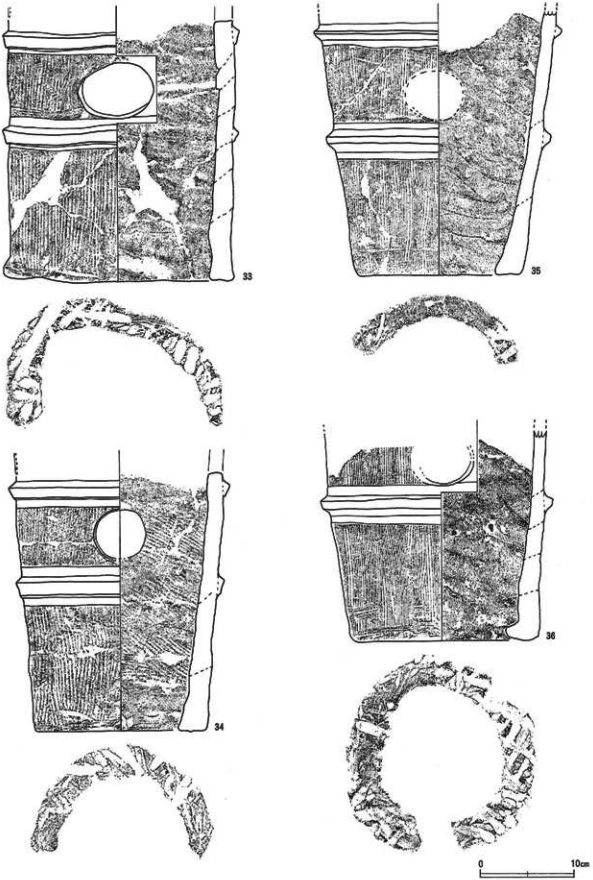
第39図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(4)（S＝1／4）



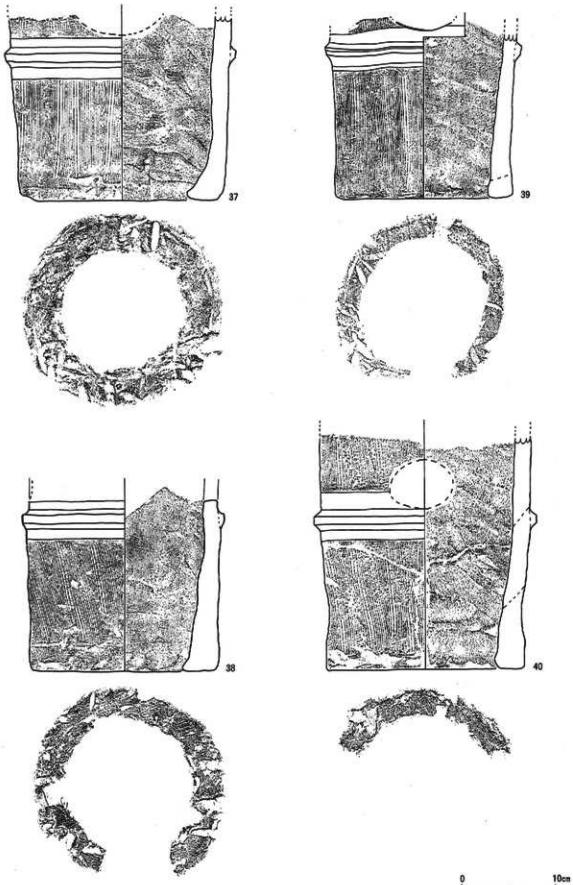
第40図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(5)（S＝1／4）



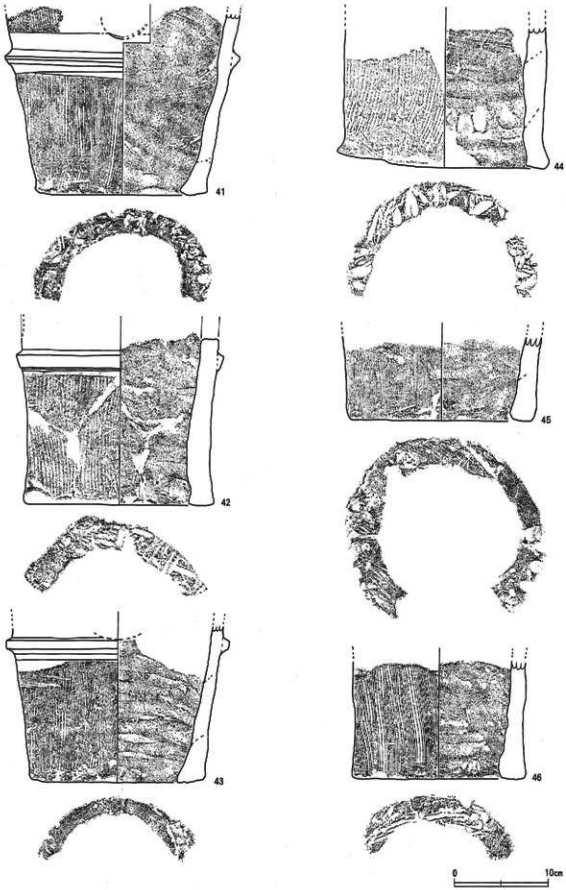
第41図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(6)（S＝1／4）



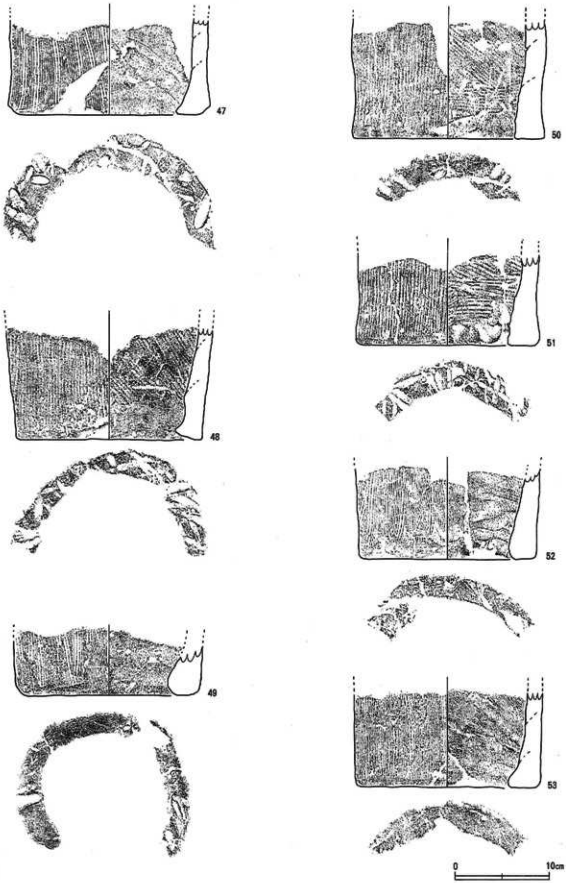
第42図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(7)（S＝1／4）



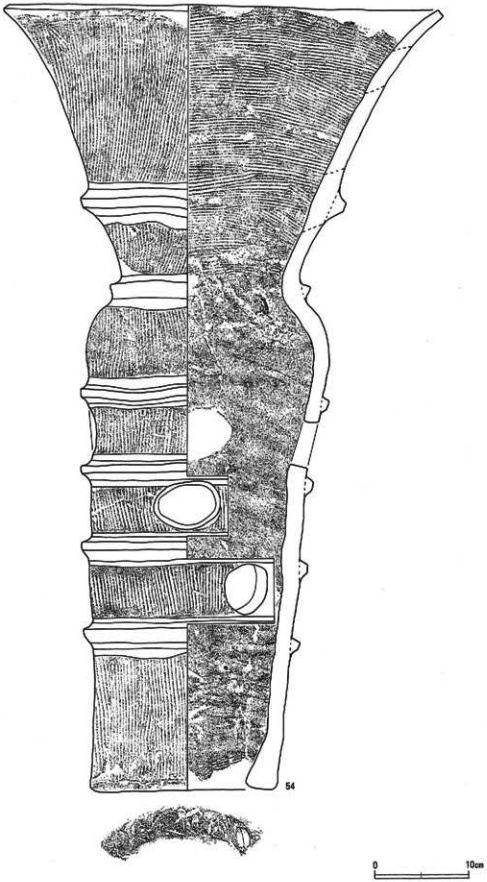
第43図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(8)（S＝1／4）



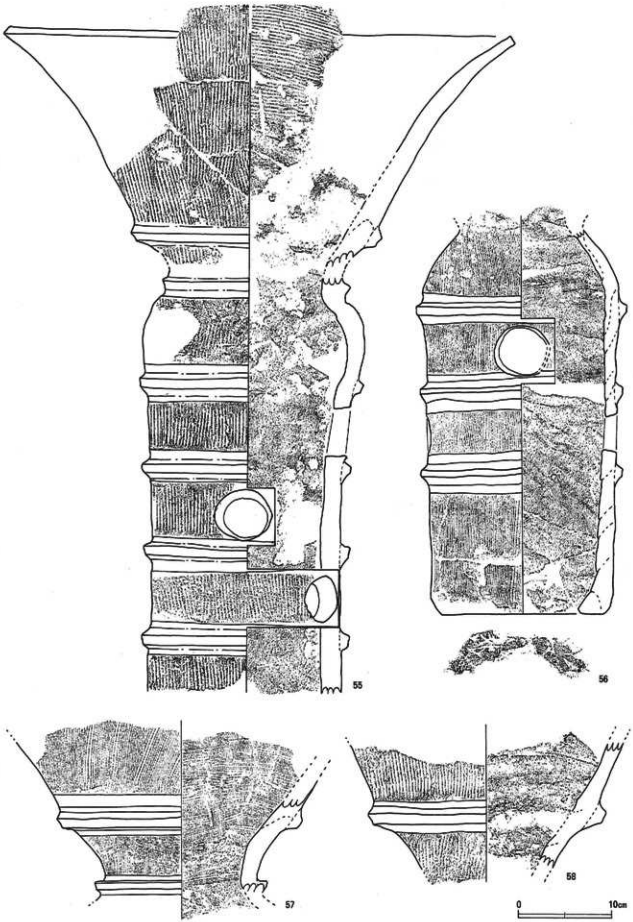
第44図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(9)（S＝1／4）



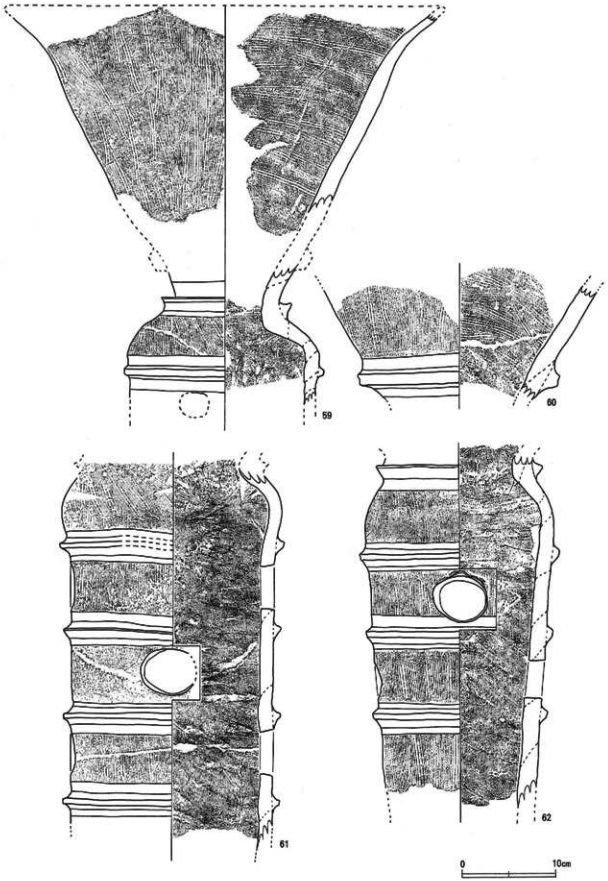
第45図　塚山南古墳出土円筒埴輪実測図(1)（S＝1／4）



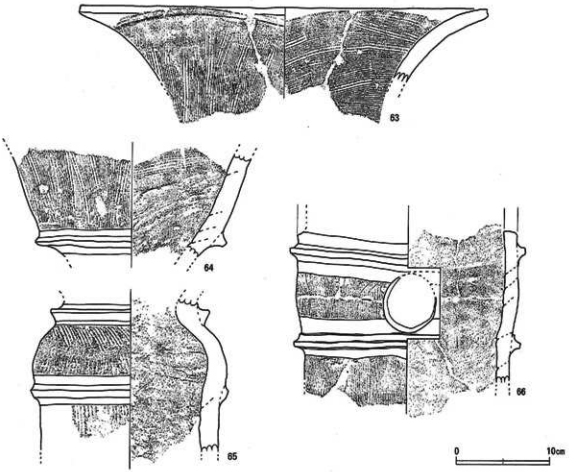
第46図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(1)（S＝1／4）



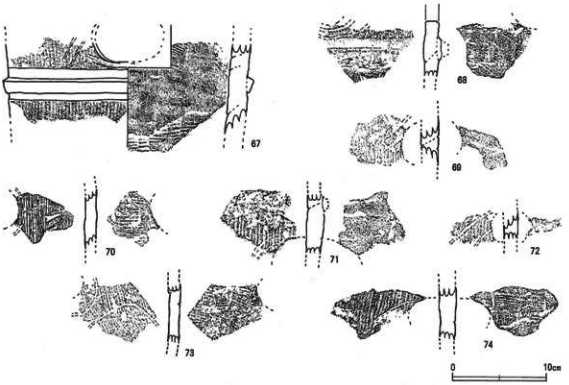
第47図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(2)（S＝1／4）



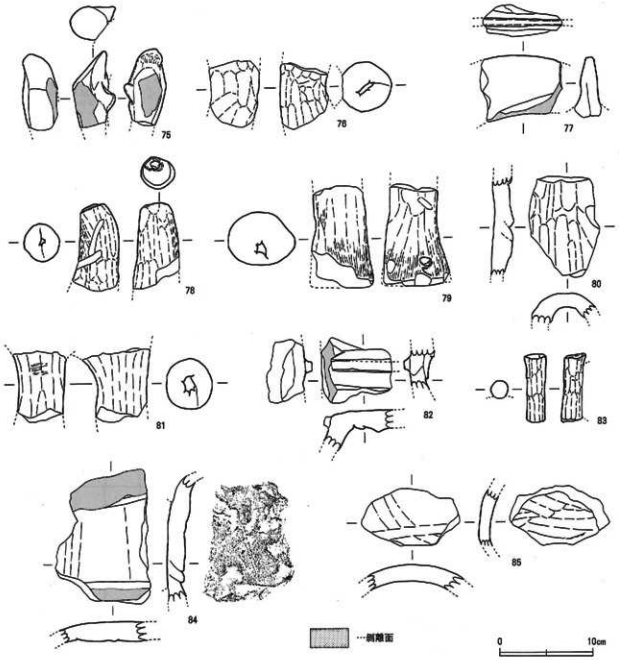
第48図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(3)（S＝1／4）



第49図　塚山南古墳出土朝顔形埴輪実測図(4)（S＝1／4）



第50図　塚山南古墳出土線刻埴輪実測図（S＝1／4）



第51図　塚山南古墳出土形象埴輪実測図（S＝1／4）

第９表　塚山南古墳出土円筒埴輪観察表

No.	樹立状態	突帯数	寸法 底径	寸法 口径	寸法 口縁部厚 胴部厚 基部厚	基部成形	調整	胴径	色調	焼成	胎土	出土位置	備考
1	ほぼ完形	2	44.4 39.2 22.6	1.1 ～ 1.5 1.5 ～ 1.6 1.5 ～ 3.2	左	内面 外面	ヨコユビナデ、ヨコハケ、指押痕有り、粘土塊痕有り 1次タテハケ後ロ縁部ナデ、基底部ヨコハケ	10 10	明赤褐	良好	砂粒：多量 長色粒：多中 白色粒：非常に多	T-2	底面植物圧痕有り 底部粘土板6cm
2	ロ縁部	－	－ －	1.0 ～ 1.6 － ～ － － ～ －	－	内面 外面	ナナメナデ、 口唇部付近ナナメハケ後ヨコハケ タテハケ	10 11	橙	普通	白色粒：多量 砂粒：非常に多 赤色スコリア	T-2	
3	ロ縁部	(3)	－ 28.0 －	1.3 ～ 1.7 1.3 ～ 1.9 － ～ －	－	内面 外面	全面にヨコハケ後2段目以下に 一部ヨコユビナデ　口縁部ヨコナデ 1次タテハケ後ナナメハケ後ロ縁部ヨコナデ	10 10	橙	普通	砂粒：非常に多 白色粒：非常に多	T-2	炭化物の付着

No.	残存状態	完存度	規模	寸法 口径	寸法 口縁部厚 側部厚	寸法 基部側厚	底部成形	構造	創作日	色調	構成	胎土	出土位置	備考
4	基底部	3	-	-	～ ～	～	左	内面 タテケズリ後2条目以上ヨコユビナデ	9	浅黄橙	良好	砂粒:非常に多 白色粒:非干 赤色粒:少量	T-2	鉄酸化物の付着 底部植物圧痕有り
				21.5	1.2～1.5 1.4～2.5			1条以上ヨコハケ有り	8					
								外面 1次タテハケ						
5	基底部	3	-	-	～ ～	～	左	内面 ヨコハケ後ナナメナデ、指圧痕、	5	浅黄橙	良好	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多	T-2	鉄酸化物の付着有り 底部植物圧痕有り
				22.9	1.6～1.8 1.6～2.8			粘土紐痕有り	6			黄色粒:非常に多 赤色スコリア		底部粘土板6cm
								外面 1次タテハケ、底部付近ナデ						
6	基底部	-	-	-	～ ～	～	-	内面 ナナメナデ後ナナメハケ、一部ハケメ閉じ、	6	浅黄橙	普通	砂粒:多量 黄色粒:多量	T-2	鉄酸化物の付着 底部植物圧痕有り
				-	1.6～3.1			底部付近ヒナデ	6			白色粒:少量 赤色スコリア		
								外面 1次タテハケ						
7	基底部	-	-	-	～ ～	～	左	内面 底部付近ナデ(指圧痕有り)後	-	浅黄橙	良好	砂粒:多量 黄色粒:多量	T-2	鉄酸化物の付着 底部植物圧痕有り
				-	～ ～			一部ナナメハケ				白色粒:多量 赤色スコリア		
				20.0	2.0～3.0			外面 1次タテハケ	6					
8	基底部	-	-	-	～ ～	～	右	内面 ヨコユビナデ、指圧痕有り	-	浅黄橙	良好	砂粒:非常に多 黄色粒:非常に多	T-2	底部植物圧痕有り
				-	～ ～			外面 1次タテハケ	6			白色粒:多量		
				22.0	2.2～4.1									
9	基底部	-	-	-	～ ～	～	-	内面 ナナメハケ後ナナメユビナデ、	6	橙	良好	砂粒:多量 黄色粒:非常に多	T-2	底部植物圧痕有り 内面にヘラで削れた痕有り
				-	～ ～			指圧痕有り	6			白色粒:少量 赤色スコリア		
				21.0	2.2～3.2			外面 1次タテハケ						
10	ほぼ完形	3	-	60.5	1.1～1.7		-	内面 ヨコハケ後ヨコナデ、粘土紐痕有り	5	にぶい黄橙	不良	砂粒:多量 黄色粒:少量	T-3	底部植物圧痕有り
				28.1	1.6～2.0				6			白色粒:少量 赤色スコリア		
				23.2	1.8～3.2			外面 1次タテハケ	6					
11	口縁部	-	-	-	1.2～1.8 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ後ナナメハケ、	6	にぶい黄橙	不良	砂粒:多量 黄色粒:少量	T-3	
				-	～ ～			ロ唇部ナデ(くびみ有)、粘土紐痕有り	6			白色粒:少量 赤色スコリア		
				-	～ ～			外面 1次タテハケ、ロ唇部ナデ	6					
12	口縁部	-	-	-	1.4～1.8 ～ ～	～	-	内面 ナナメハケ後ヨコハケ、	6	明赤褐	良好	砂粒:多量 黄色粒:非常に多	T-3	
				26.8	～ ～			ヨコナデ後ロ縁部ナデ	6			白色粒:密干 赤色スコリア		
								外面 1次タテハケ	6					
13	口縁部	-	-	-	1.3～1.5 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ、粘土紐痕有り	6	橙	普通	砂粒:非常に多 黄色粒:密干	T-5	
				(30.0)	～ ～				6			白色粒:少量 赤色スコリア		
				-				外面 1次タテハケ、ロ唇部付近ナデ						
14	口縁部 半欠	2	-	47.7	0.7～1.3 ～ ～	～	左	内面 ナナメナデ後ヨコハケ、底部付近指圧痕	12	明赤褐	普通	砂粒:多量 黄色粒:多量	T-6	底部植物圧痕有り 2条目突帯ナデ 幅広い透孔に沿の痕有り
				32.7	1.3～1.6				12			白色粒:非常に多 赤色スコリア		
				19.5	1.6～3.1			外面 1次タテハケ、一部ヨコハケ	12					
15	半欠	2	-	44.4	0.8～1.8 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ後ヨコナデ	10	明赤褐	良好	砂粒:多量 白色粒:多量	T-6	底部植物圧痕有り
				28.2	1.4～1.5 ～ ～				10			赤色スコリア		
				19.5	1.6～3.3			外面 タテハケ	10					
16	口縁部	-	-	38.0	1.4～1.9 ～ ～	～	-	内面 ナデ	-	浅黄橙	普通	砂粒:非常に多 白色粒:多量	T-6	
				27.5	1.7～1.9 ～ ～				8			黄色粒:少量 赤色スコリア		
								外面 タテハケ						
17	口縁部	(2)	-	-	1.1～1.3 ～ ～	～	-	内面 ナデ後一部ヨコハケ	8	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:多量	T-6	
				(28.8)	1.3～1.4 ～ ～				10			黄色粒:少量 赤色スコリア		
				-				外面 タテハケ						
18	口縁部	-	-	-	1.2～1.7 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ(ナデられていてほとんど消えている)	12	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多	T-6	
				27.5	～ ～				12			黄色粒:少量 赤色スコリア		
				-				外面 タテハケ						
19	口縁部	-	-	-	0.8～1.6 ～ ～	～	-	内面 上部ヨコハケ	11	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:多量	T-6	
				27.1	～ ～				11			赤色スコリア		
				-				外面 タテハケ、ナナメハケ						
20	口縁部	-	-	-	1.1～1.7 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ、粘土紐痕有り	10	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:少量	T-6	
				28.6	～ ～				11					
				-				外面 タテハケ						
21	口縁部	(2)	-	-	1.3～1.4 ～ ～	～	-	内面 口縁部付近ヨコハケ、以下ナデ	11	明赤褐	良好	砂粒多:非常に多 白色粒:非常に多	T-6	
				30.0	～ ～				12			白色粒:少量 赤色スコリア		
				-				外面 タテハケ						
22	口縁部	-	-	-	1 ～ 1.3 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ	12	明赤褐	普通	砂粒:多量 白色粒:少量	T-6	
				26.9	～ ～				10					
				-				外面 タテハケ						
23	口縁部	-	-	-	1 ～ 1.3 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ	9	明赤褐	普通	砂粒:多量 白色粒:多量	T-6	
				25.8	～ ～				12			赤色スコリア		
				-				外面 タテハケ						
24	口縁部	-	-	14.2	1.4～1.6 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ	11	にぶい黄橙	普通	砂粒:少量	T-6	
				23.8	～ ～				11					
				-				外面 タテハケ						
25	口縁部	-	-	11.6	1.0～1.6 ～ ～	～	-	内面 ヨコハケ、ナデ	8	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:少量	T-6	
				29.1	～ ～				10			赤色スコリア		
				-				外面 1次タテハケ、タテハケ後ヨコナデ						
26	胴部	(3)	-	-	～ ～	～	-	内面 ナデ	-	明黄褐	普通	砂粒:多量 白色粒:多量	T-6	胴部か?
				-	1.6～2.0 ～ ～				5			黄色粒:多量 赤色スコリア		
				-				外面 タテハケ						
27	胴部	(2)	-	-	～ ～	～	-	内面 ナデ後一部ヨコハケ	11	明黄褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多	T-5	
				-	1.1～1.2 ～ ～				11					
				-				外面 タテハケ						

No.	検査状況	発掘後	寸法			表形成形	調整	創毛目	色調	焼成	胎土	出土位置	備考
			器高	口径	口縁部厚 胴部厚 基底部厚								
28	胴部	(3)	- - -	~ ~ ~ 1.3 ~ 2.0 ~ ~ ~	-	内面 外面	ヨコハケ タテハケ	6 8	にぶい黄橙	普通	砂粒:多量 白色粒:少量	T-6	
29	胴部	-	- - -	~ ~ ~ 1.2 ~ 1.4 ~ ~ ~	-	内面 外面	ヨコハケ タテハケ	12 12	明赤褐	良好	砂粒:多量 白色粒:多量 赤色スコリア	T-6	
30	胴部	-	- - -	~ ~ ~ 1.3 ~ 1.5 ~ ~ ~	-	内面 外面	ナデ タテハケ	- 9	明赤褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:多量 赤色スコリア	T-6	
31	胴部	-	- - -	~ ~ ~ 1.1 ~ 1.5 ~ ~ ~	-	内面 外面	ナデ タテハケ	- 10	明赤褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	
32	基底部	3	- - 21.0	~ ~ ~ 1.6 ~ 2.4 1.8 ~ 2.6	左	内面 外面	ヨコナデ、粘土紐成有り 1次タテハケ	- 6	にぶい黄橙	普通	砂粒:非常に多 白色粒:少量 黒色粒:非常に多	T-6	底部植物圧痕有り、磨耗
33	基底部	3	- - 24.5	~ ~ ~ 1.7 ~ 2.3 2.0 ~ 2.8	左	内面 外面	ヨコナデ、粘土紐成、指圧痕有り、 タテハケ、突帯部ヨコハケ	- 5	にぶい黄橙	良好	砂粒:非常に多 白色粒:少量 黒色粒:非常に多	T-6	底部植物圧痕有り
34	基底部	3	- - 15.8	~ ~ ~ 1.6 ~ 1.8 2.0 ~ 3.0	左	内面 外面	ナデ後ナナメハケ タテハケ	6 6	にぶい黄橙	普通	砂粒:少量 白色粒:少量	T-6	底部植物圧痕有り
35	基底部	(2)	- - 18.0	~ ~ ~ 1.4 ~ 1.6 1.6 ~ 3.0	-	内面 外面	ナデ タテハケ、底面付近ナデ	- 11	明赤褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多 黒色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り 酸化物付着
36	基底部	(2)	- - 22.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.7 ~ 3.8	右	内面 外面	ヨコ、ナナメナデ、粘土紐痕有り 1次タテハケ	- 8	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多 黒色粒:少量 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
37	基底部	(2)	- - -	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.6 ~ 3.7	右	内面 外面	ナデ、一部ヨコハケ タテハケ	- 10	明赤褐	良好	砂粒:多量 白色粒:多量 黒色粒:少量 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
38	基底部	(2)	- - 20.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.8 ~ 3.6	左	内面 外面	ナデ ナナメハケ、底部付近ナデ	- 12	明赤褐	普通	砂粒:多量 白色粒:多量 黒色粒:少量	T-6	底部植物圧痕有り
39	基底部	(2)	- - 18.8	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.4 ~ 2.6	右	内面 外面	ヨコナデ 1次タテハケ	- 10	明赤褐	普通	砂粒:多量 黒色粒:少量 白色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
40	基底部	(3)	- - 21.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 2.0 ~ 3.3	-	内面 外面	ナデ、底面付近ナデ タテハケ	- 12	明赤褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
41	基底部	(2)	- - 19.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.4 ~ 3.1	-	内面 外面	ナデ タテハケ、底面付近ナデ	- 11	橙	良好	砂粒:少量 白色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
42	基底部	(3)	- - 20.3	~ ~ ~ ~ ~ ~ 2.0 ~ 2.6	-	内面 外面	ナデ タテハケ	- 6	明黄褐	普通	砂粒:多量 白色粒:多量	T-6	底部植物痕有り 基底部粘土板5cm
43	基底部	(2)	- - 19.6	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.2 ~ 3.0	左	内面 外面	ヨコナデ タテハケ	- 11	明黄褐	普通	砂粒:多量 白色粒:多量	T-6	基底部粘土板5cm
44	基底部	(3)	- - 22.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.8 ~ 2.4	-	内面 外面	ナデ、指圧痕有り タテ、ナナメハケ	- 6	にぶい黄橙	普通	砂粒:少量 白色粒:少量	T-6	外面基底部:重みによる 歪みが強い 底部植物圧痕有り
45	基底部	-	- - 20.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.9 ~ 2.9	右	内面 外面	ナデ タテハケ、底部付近ナデ	- 11	明黄褐	普通	砂粒:多量 白色粒:少量	T-6	底部植物圧痕有り
46	基底部	(2)	- - 19.6	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.8 ~ 2.1	-	内面 外面	ナデ タテハケ、底面付近ヨコナデ	- 10	明赤褐	普通	砂粒:多量 白色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
47	基底部	(2)	- - 22.4	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.7 ~ 3.2	左	内面 外面	ナデ タテハケ	- 11	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 白色粒:多量 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り 研磨痕色
48	基底部	-	- - 20.2	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.6 ~ 3.1	-	内面 外面	ナデ後ナナメハケ タテハケ	6 6	明黄褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:多量 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り
49	基底部	-	6.0 - 20.5	~ ~ ~ ~ ~ ~ 2.7 ~ 3.2	-	内面 外面	ナデ タテハケ(磨耗が激しい)	- 12	明黄褐	普通	砂粒:多量 白色粒:多量	T-6	底部植物圧痕有り
50	基底部	-	- - 21.2	~ ~ ~ ~ ~ ~ 2.2 ~ 3.0	右	内面 外面	ヨコ、ナナメハケ タテハケ	7 6	明黄褐	普通	砂粒:多量 白色粒:少量 赤色スコリア	T-6	底部植物圧痕有り 基底部ナデ
51	基底部	(3)	- - 20.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.8 ~ 3.5	右	内面 外面	ヨコハケ、指圧痕有り タテハケ	6 7	にぶい黄橙	普通	砂粒:多量 白色粒:少量	T-6	底部植物圧痕有り 基底部ナデ
52	基底部	-	- - 20.0	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.8 ~ 3.0	左	内面 外面	ナデ タテハケ、底面付近ナデ	- 10	明赤褐	良好	砂粒:非常に多 黒色粒:非常に多	T-6	底部植物圧痕有り 基底部ナデ
53	基底部	(2)	- - 20.6	~ ~ ~ ~ ~ ~ 1.7 ~ 3.1	-	内面 外面	ヨコナデ後ヨコハケ タテハケ	12 11	明黄褐	普通	砂粒:非常に多 白色粒:非常に多 赤色スコリア	T-6	基底部ナデ

第10表　塚山南古墳出土朝顔形埴輪観察表

No.	検存状態	突帯数	寸法 最高 口径 底径	寸法 口縁部厚 胴部厚 基底部厚	基部成形	調整	図番号	色調	焼成	胎土	出土位置	備考
54	口縁完形	4	65.0 62.3 20.0	1.5～2.3 1.7～2.9 1.8～3.5	-	内面 ヨコハケ 外面 タテハケ	6 6	橙	良好	砂粒：非常に多 黒色粒：少量	T-3	底面植物圧痕有り
55	基底部破損	4	- - -	-～- 2.0～2.1 -～-	-	内面 ナデ、一部ナナメハケ 外面 タテハケ、一部ナナメハケ	6 6	明黄褐	普通	砂粒：非常に多 白色粒：多量	T-5	
56	口縁部	3	- - 18.0	-～- 1.2～1.6 1.5～3.4	指	内面 ヨコ、ナナメナデ、粘土接痕有り 外面 1次タテハケ	- 9	明黄褐	普通	砂粒：非常に多 黒色粒：少量 白色粒：非常に多 小石：若干 赤色スコリア	T-6	底面植物圧痕有り
57	頸部	-	- - -	1.5～2.1 -～- -～-	-	内面 ヨコ指ナデ後ヨコハケ 外面 1次タテハケ	11 11	明赤褐	普通	砂粒：多量 黒色粒：若干 白色粒：非常に多 小石：若干 赤色スコリア	T-2	
58	頸部	-	- - -	-～- -～- -～-	-	内面 ヨコナデ 外面 タテハケ	- 6	橙	普通	砂粒：非常に多 白色粒：多量	T-6	器厚：1.8
59	口縁部 肩部	-	- - -	-～- -～- -～-	-	内面 口縁部ヨコハケ、頸部一部ヨコハケ後ナデ 外面 口縁部タテハケ、頸部タテハケ、ナナメハケ	10 12	明赤褐	良好	砂粒：非常に多 白色粒：多量 赤色スコリア	T-5	外面赤彩 断面が黒色
60	頸部	-	- - -	-～- -～- -～-	-	内面 ヨコハケ 外面 タテハケ	11 12	明橙(内) 明黄褐(外)	不良	砂粒：多量 白色粒：非常に多	T-6	外面赤彩
61	頸部破 基底部破損	(4)	44.0 - -	-～- 1.6～1.8 -～-	-	内面 ヨコナデ、粘土接痕有り 外面 1次タテハケ	- 12	明赤褐	普通	砂粒：多量 黒色粒：非常に多 白色粒：非常に多 赤色スコリア	T-5	断面が黒色
62	頸部 半周	3	- - -	-～- 1.4～2.1 -～-	-	内面 ヨコ指ナデ 外面 1次タテハケ	- 12	明赤褐	普通	砂粒：非常に多 黒色粒：少量 白色粒：非常に多 小石：若干 赤色スコリア	T-2	
63	口縁部	-	- 45.2 -	1.5～1.8 -～- -～-	-	内面 ヨコハケ 外面 1次タテハケ、口縁部ナデ	11 11	黄褐	良好	砂粒：非常に多 黒色粒：若干 白色粒：非常に多	T-6	
64	頸部	-	- 19.4 -	1.6～3.4 -～- -～-	-	内面 ヨコハケ 外面 タテハケ、ヨコハケ	9 10	橙	良好	砂粒：多量 白色粒：多量 赤色スコリア	T-6	
65	肩部	-	- - -	-～- -～- -～-	-	内面 ナデ 外面 ナナメハケ、タテハケ	- 7.5	橙	不良	砂粒：非常に多 赤色スコリア	T-6	外面赤彩
66	円筒部	3以上	- - -	-～- 1.5～1.7 -～-	-	内面 ヨコナデ 外面 1次タテハケ、斜帯ヨコハケ	- 11	明赤褐	良好	砂粒：非常に多 黒色粒：非常に多 白色粒：非常に多	T-6	断面が黒色

第11表　塚山南古墳出土形象埴輪観察表

No.	器種	寸法 (cm)	特徴	色調	焼成	胎土	出土位置
75	人物 (左手)	長：- 径：3.6	胴部に接している。親指は別に成形しており、他の4本の指はグループ状に一括して表現している。	にぶい黄橙	良好	砂粒：非多 白色粒：非多	T-5
76	人物 (右脚)	長：- 径：5.2	中空。外面ナデ調整。赤彩。	橙	良好	砂粒：多 白色粒：非多 赤色スコリア：多	T-5、同復原 土中第5層 墳端部付近
77	馬 (鞍part)	縦：6.1 横：8.4 厚：1.8	馬具に沿ったた本体の側面に長軸と平行して接合されていたと思われる。外面ナデ整形。	橙	良好	砂粒：多 白色粒：多	T-5
78	馬 (尻尾)	長：- 径：3.9	円柱状。棒状の工具の側面に粘土筒を貼り付けることにより成形。ハケのもナデ整形。非常に指頭痕を多く残す。白彩。	橙	良好	砂粒：多 白色粒：多 黒色粒：多	T-5、同復原 土中第5層 墳端部付近
79	馬 (右前脚)	高：- 径：6.8	中空。側面は指圧形。棒状の工具の側面に板状の粘土を貼付して成形。内面ナデ整形。外面ヘラ整形。底は、丁寧なナデ整形。	にぶい黄橙	良好	砂粒：多 白色粒：多 赤色スコリア：多	T-5、同復原 土中第5層 墳端部付近
80	馬 (脚)	縦：- 横：- 径：(7.5) 厚：1.8	中空。内・外面ともにナデ整形。内面に粘土紐痕を明確に残す。	橙	良好	砂粒：非多 白色粒：非多 黒色粒：非多	T-5、同復原 土中第5層 墳端部付近
81	動物 (脚)	長：- 径：4.8	胴部に付く。中空。板状のものを貼状にしている。内・外面ともにナデ整形。	橙	良好	砂粒：多 白色粒：非多	T-5、同復原 土中第5層 墳端部付近
82	家 (屋根部)	縦：- 横：- 厚：2.0	コーナー部分。粘土紐により成形。棟位突帯が始まっており、棟位突帯の側縁痕もある。内・外面ともにナデ整形。内面は粘土紐痕を明確に残す。	橙	良好	砂粒：多 白色粒：多	T-5
83	家 (窓丸木)	長：6.6 径：1.8	円柱状で背面には接合痕が残る。外面ナデ整形。赤彩。	橙	良好	黒色粒：多	T-9、4号墳 陸土中 (第22層)
84	不明	縦：- 横：- 厚：1.8	粘土紐により成形。内・外面ともにナデ整形。内面に粘土紐痕を明確に残し、工具痕も見られる。外面には2本の棟位突帯の側縁痕がある。2本の側縁痕は平行ではない。	にぶい黄橙	良好	砂粒：非多 白色粒：非多	T-5
85	不明	縦：6.0 横：10.2 厚：1.5	断面形は緩やかな曲線を描き、内・外面ともに丁寧なナデ整形が施されている。	にぶい黄橙	良好	砂粒：多	T-5

(2) 土師器

本墳から出土した土師器は、坏、蓋、高坏、坩、甕、壺、鬲、土製品の8種である。

かなりの量の土師器が出土したが、径の復元が可能なものだけを図化した。なお、同一個体と思われるものは接合ができない場合でも図化の段階で復元した。個々の詳細については観察表に示し、ここでは概観を述べる。

まず、器形の分類をし、それぞれの特徴について述べていきたい。

坏（第53図7～15、18、第55図51～55）

A　平底で、口縁部内面に稜を有し、口縁部は短く外傾するもの。

資料は、7～14がある。調整は、内面がナデ後ヘラミガキ。外面が、ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキを施す。焼成は良好で、丁寧でしっかりとしたつくりである。なお9～11、13は、外面に焼きムラがある。

B　丸底で、外面に明確な稜を有する。口縁部が内傾するもの（B1）と直立するもの（B2）とに分けられる。

B1の資料は、51～53、55である。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部は内面ナデ、外面がナデまたはヘラケズリ、あるいはヘラケズリ後ナデが施されている。55の口縁部には赤彩が見られる。焼成は、まちまちで、粗雑なつくりである。

B2の資料は、54のみである。調整はB1と同様である。内外面に赤彩、底部に焼きムラが見られる。焼成は良好だが、B1同様粗雑なつくりである。

C　丸底で外面に段を有し、口縁部は内傾するもの。

資料は18のみである。調整は、口縁部が内外面ともにヨコナデ、体部が内面に放射状のミガキが入り、外面にヘラケズリが施されている。また、底部に焼成後のものと思われる穿孔がある。焼成は良好で、本墳出土の中では唯一暗灰色系である。つくりは丁寧でしっかりとしている。

D　丸底で外面に稜を有し、口縁部が外傾するもの。

資料は15のみである。調整は、内面がナデ後ヘラミガキ、外面がナデ後ヘラケズリ、下半にはさらにミガキが施される。焼成は良好で、丁寧でしっかりとしたつくりである。

蓋（第55図42～50）

A　つまみを持つ。口縁部外面に稜を有し、口縁部は直立する。つまみ部分のへこみが浅いもの（A1）と深いもの（A2）とに分けられる。

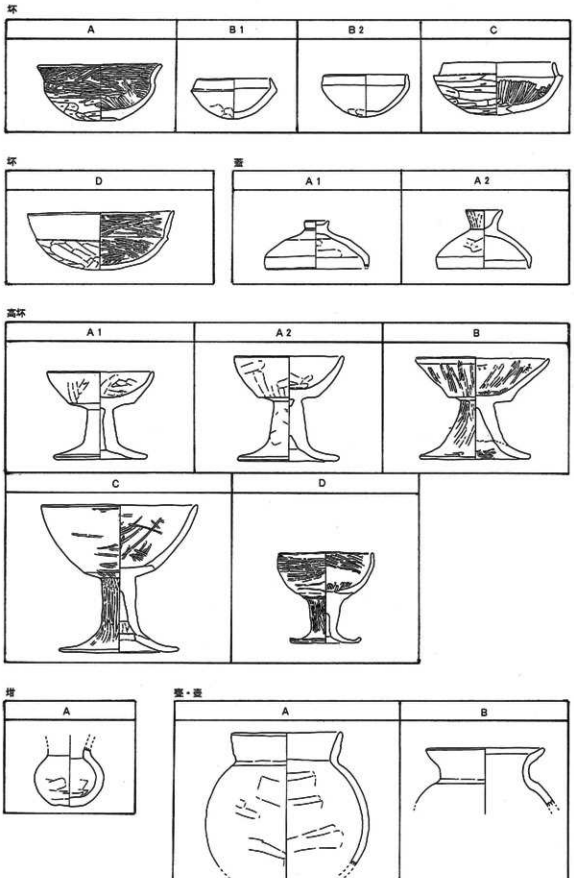
A1の資料は、42、43である。調整は、内外面ともにナデだが、43のみナデの前にヘラケズリが入る。また、内外面に赤彩が見られる。焼成は普通で、粗雑なつくりである。

A2の資料は、44、45である。口縁部は、内外面ともナデ、体部は内面ナデ、外面ヘラケズリ後ナデ、つまみの外面にはヘラケズリが施される。A1同様内外面に赤彩が見られ、焼成は普通で、粗雑なつくりである。

高坏（第53図1～6、第54図19～39、第55図40、41）

A　坏部は坏部下端に明確な稜を有し、脚部は中空柱状のもの（A1）と中実柱状のもの（A2）とに分けられ、裾部は「ハ」の字に開く。

A1の資料は、20のみである。調整は、内外面ともにナデで、外面には赤彩、底部には焼きムラが見られる。焼成は不良で、粗雑なつくりである。



第52図　塚山南古墳土師器器形分類図

A２の資料は、19、21である。A１と同様の特徴を持つ。

B　坏部はAと同様であるが、脚部は大きく「ハ」の字に開くもの。

資料は、１～５である。調整は、内外面にナデ、ハケ、ヘラミガキ、ヘラケズリの幾つかを使い、丁寧に仕上げている。焼成は良好で、つくりはしっかりとしている。

C　坏部は明確な稜を持たず、脚部は「ハ」の字に開くもの。

資料は、36、37である。調整は、坏部が内外面にヘラミガキ、脚部が内面にナデ、外面にヘラミガキを施す。脚部内面には、粘土紐積み上げ痕が明瞭に残る。焼成は良好で、丁寧に仕上げられている。

D　坏部は椀状で、脚部はそりかえるもの。

資料は、６のみである。調整は、内外面ともナデ後ヘラミガキを施している。焼成は良好で、つくりはしっかりとしており、丁寧に仕上げられている。

坩・鼎（第53図17、第55図60、61）

A　平底で偏平気味の胴部を持ち、口縁部はやや外反して立ち上がるもの。

資料は、17、60、61である。17は、ヘラミガキを施し丁寧に仕上げている。焼成は良好で、つくりはしっかりとしている。60、61は、赤彩が確認でき、内外面ともナデている。これに加え、61の外面にはヘラケズリが施されている。焼成は普通で、粗雑なつくりである。

壺・壷（第53図16、第55図56～59、64～67）

A　口縁部は直立し球形の胴部を持つもの。

資料は、56、57、66、67である。調整は内外面ともナデ。56と67にはヘラケズリも見られる。なお、57には赤彩、67には煤の付着を確認した。焼成は良好で、つくりはしっかりとしている。

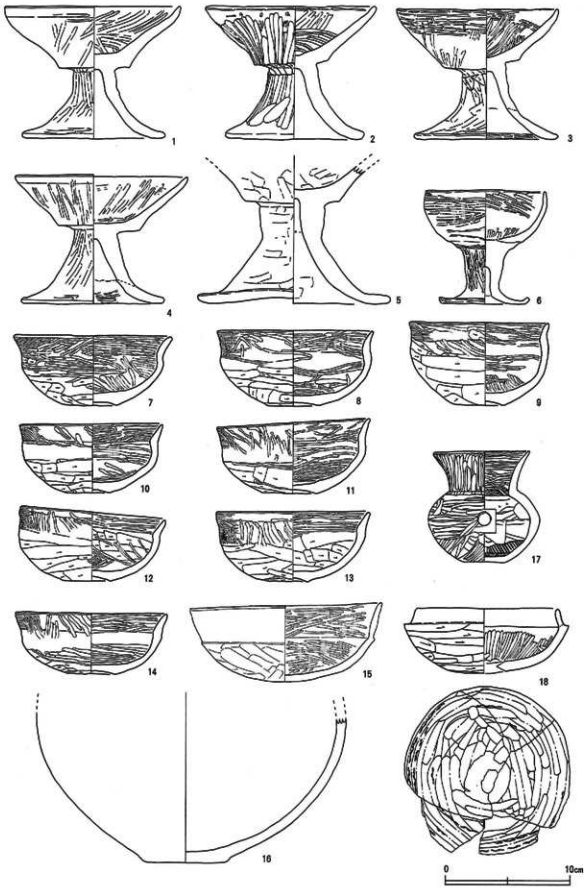
B　頸部で一旦直立してから開くもの。

資料は、65のみである。調整は、内外面ともにナデ、焼成は良好で、丁寧に仕上げられている。

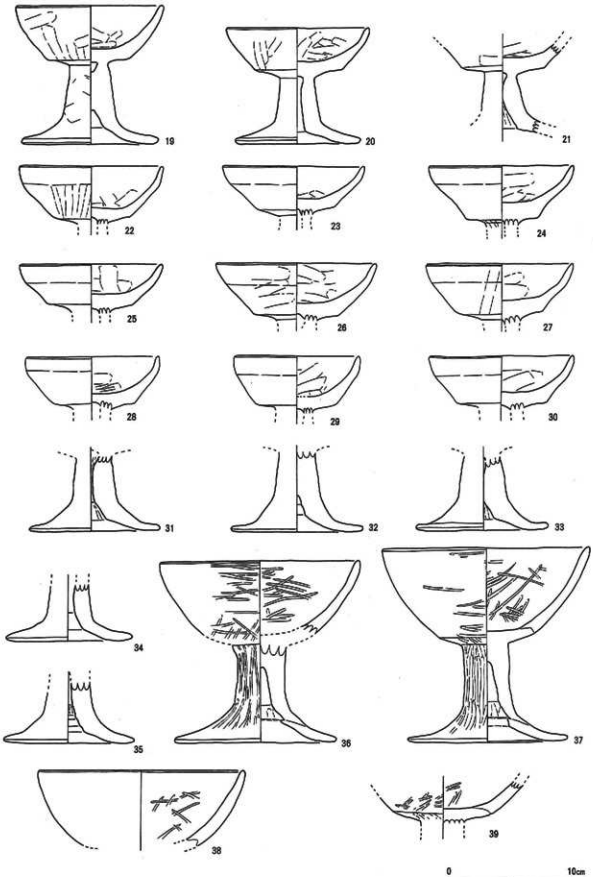
（篠崎容子・須長剛生）

第12表　塚山南古墳出土土師器観察表

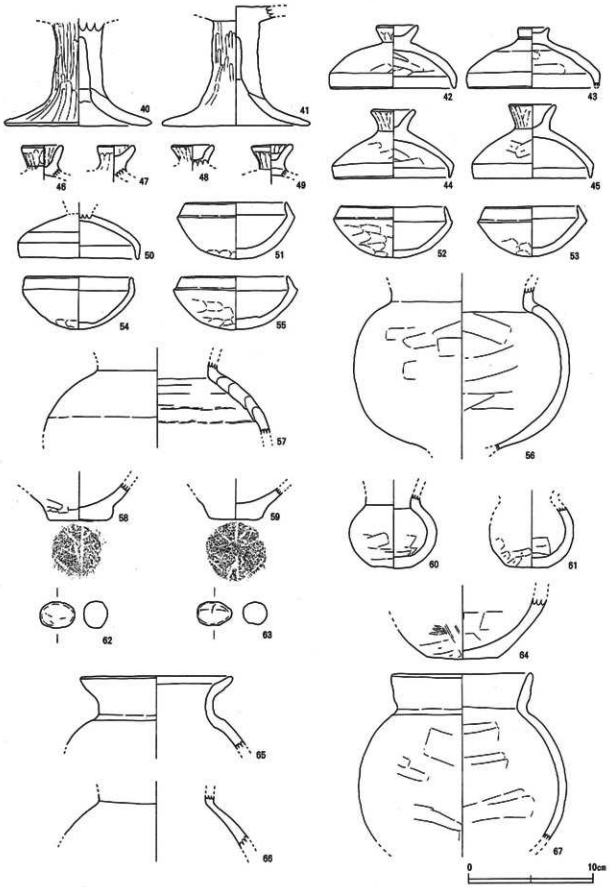
No.	器種	寸法 (cm)	形態分類	調整	色調	焼成	胎土	残存量	出土位置	備考
1	高坏	口径: (15.0) 器高: 11.2 底径: 12.2	B	内: ロ縁部ヨコナデ、坏部・脚部ヘラミガキ 外: ナデ後ケズリ後ミガキ調整	橙	普通	密砂多、黒色粒、白色粒、赤色スコリア	5/6	T-1	
2	高坏	口径: 14.6 器高: 11.3 底径: 11.9	B	内: ロ縁部ナデ、坏部縦位・横位のヘラミガキ、脚部ナデ 外: ロ縁部ナデ後部分的ハケ調整、坏部放射状のヘラミガキ、脚部ヘラミガキ、脚部ナデ	橙	普通	密砂、黒色粒、白色粒、赤色スコリア	完形	T-1	点々と粘土紐積み痕あり
3	高坏	口径: 13.8 器高: 11.1 底径: 12.4	B	内: 坏部ナデ後ハケ後縦位のヘラミガキ、脚部ハケ後ナデ 外: 坏部ナデ後ハケ後横位のヘラミガキ、脚部ケズリ、脚部ヘラミガキ	橙	普通	密砂 黒色粒多 白色粒	完形	T-1	点々と粘土紐積み痕あり
4	高坏	口径: (14.7) 器高: 11.0 底径: 12.2	B	内: 坏部ハケ後縦位のヘラミガキ、脚部のハケ 外: ロ縁部ヨコナデ、坏部・脚部縦位のヘラミガキ	明赤褐	普通	密砂 黒色粒 白色粒	4/5	T-1	脚部内面に粘土紐継み痕あり
5	高坏	口径: (18.0) 器高: (14.5) 底径: 16.0	B	内: 坏部・脚部ナデ 外: 坏部ケズリ後ナデ、脚部ナデ	橙	普通	密砂多、黒色粒多、白色粒、赤色スコリア	1/2	T-1	脚部に透孔あり 底面一部焼き入ラあり
6	高坏	口径: (16.4) 器高: 9.6 底径: 7.8	D	内: 坏部上位をナデ後左下がりのナナメ爪が有、下位をナデ後放射状にミガキ後ナデ 外: 坏部上位をナデ後ななめヨコミガキ、下位をヨコミガキ	明褐	普通	密砂 黒色粒多 白色粒	3/4	T-1	坏部のそりかえりが強し
7	坏	口径: 13.3 器高: 5.8 底径: 4.0	A	内: ナデ後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキ	明赤褐	良好	密	4/5	T-1	
8	坏	口径: 13.4 器高: 6.4 底径: 4.2	A	内: ナデ後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキ	橙	良好	密	完形	T-1	外面底部10cm弱分に黒斑あり
9	坏	口径: 11.8 器高: 7.0 底径: 4.0	A	内: ナデ後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後上半横位のヘラミガキ	橙	良好	密	9/10	T-1	底部内外面に黒斑あり
10	坏	口径: 12.1 器高: 5.8 底径: 3.6	A	内: ナデ後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキ	橙	良好	密砂	完形	T-1	外面に黒斑あり
11	坏	口径: 13.0 器高: 6.4 底径: 4.7	A	内: ナデ後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキ	橙	良好	密砂	完形	T-1	外面に黒斑あり



第53図　塚山南古墳出土土師器実測図(1)（S＝1／3）



第54図　塚山南古墳出土土師器実測図(2)（S＝1／3）



第55図　塚山南古墳出土土師器実測図(3)（S＝1／3）

No.	器種	寸法 (cm)	形態分類	調整	色調	胎土	焼成	出土	残存量	出土位置	備考
12	杯	口径: 12.4 器高: 6.3 底径: 3.8	A	内: ロ縁部ナデ後ハケ調整後ヘラミガキ、下半ナデ後ヘラケズリ 外: ロ縁部ナデ後ヘラミガキ、下半ナデ後ヘラケズリ	橙	良好	密	4/5	T-1	
13	杯	口径: 13.0 器高: 5.5 底径: 3.3	A	内: ナデ後ヘラケズリ後ロ縁部ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後ロ縁部ヘラミガキ	明赤褐	良好	密	4/5	T-1	底部に黒斑あり
14	杯	口径: 12.9 器高: 5.2 底径: 3.7	A	内: ナデ後ハケ調整後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラミガキ	橙	良好	緻密	完形	T-1	
15	皿	口径: 18.4 器高: 6.0 底径: -	B	内: ナデ後ヘラミガキ 外: ナデ後ヘラケズリ後ナデ、下半ナデ後ヘラケズリ後ヘラミガキ	赤褐	良好	黒色粒 白色粒 淡色スコリア	完形	T-1	外面に煤あり
16	鍋	口径: - 器高: - 底径: 7.0	-	内: ナデ 外: ナデ	内:に赤い黄褐 外:黒褐	普通	砂粒、黒色粒、 白色粒、赤色スコリア	1/5	T-1	外面にスス・炭サビ付着
17	瓶	口径: 8.3 器高: 9.4 底径: 3.5	-	内: ロ縁部ヘラミガキ、頸部ヘラナデまたはナデ 外: ロ縁部・頸部ヘラミガキ	橙	良好	密	完形	T-1	
18	杯	口径: 12.2 器高: - 底径: -	C	内: ロ縁部ナデ、稜部ナデ後放射状ミガキ 外: ロ縁部ナデ、稜部ヘラケズリ	暗灰	普通	黒色粒 白色粒 淡色スコリア	1/4	T-3	底面に人為的にあけられた穴、粘土紐積み痕あり
19	高杯	口径: 11.7 器高: 11.2 底径: 10.9	A2	内: 坏部ヘラナデ 外: ロ縁部ヨコナデ、坏部ナデ、脚部ヨコナデ	黄橙	不良	砂粒多 黒色粒多 白色粒	4/5	T-6	外面赤彩
20	高杯	口径: 11.4 器高: 9.4 底径: 10.1	A1	内: 坏部ヘラナデ 外: ロ縁部ヨコナデ、坏部ナデ、脚部ヨコナデ	黄橙	不良	砂粒多 黒色粒 白色粒	5/6	T-6	外面赤彩 底部に黒斑あり
21	高杯	口径: - 器高: - 底径: -	A2	内: 坏部ヘラナデ 外: 坏部ヘラナデ	赤褐	不良	砂粒多 黒色粒 白色粒	3/5	T-6	外面赤彩
22	高杯	口径: 11.2 器高: - 底径: -	-	内: ロ縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ 外: ロ縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ	内:橙 外:赤褐	不良	砂粒 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩 内面に炭サビ付着
23	高杯	口径: (11.4) 器高: - 底径: -	-	内: ロ縁部ヨコナデ、坏部ヘラナデ 外: ロ縁部ヨコナデ	内:橙 外:赤褐	不良	砂粒 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩
24	高杯	口径: (11.6) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ナデ 外: 坏部ナデ	赤褐	普通	砂粒多 黒色粒多 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩
25	高杯	口径: (11.4) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ナデ 外: 坏部ナデ	橙	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒	1/3	T-6	内外面赤彩
26	高杯	口径: (12.8) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ナデ 外: 坏部ナデ	橙	普通	砂粒多 黒色粒多 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩
27	高杯	口径: (11.8) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ナデ 外: 坏部ナデ	橙	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩
28	高杯	口径: (11.0) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ナデ後一部ヘラミガキ 外: 坏部ナデ	橙	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	外面赤彩
29	高杯	口径: (10.0) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ヘラナデ 外: 坏部ナデ	赤褐	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩
30	高杯	口径: (11.7) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ヘラナデ 外: 坏部ナデ	に赤い黄橙	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒多	2/5	T-6	外面赤彩
31	高杯	口径: - 器高: - 底径: 10.5	-	内: ナデ 外: ナデ	橙	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	1/2	T-6	内外面赤彩 一つ手に作り上げている様子
32	高杯	口径: - 器高: - 底径: 10.7	-	内: ナデ 外: ナデ	明赤褐	不良	砂粒多 黒色粒 白色粒	1/2	T-6	内外面赤彩 内面に炭サビ付着
33	高杯	口径: - 器高: - 底径: 11.7	-	内: ケズリ後ナデ 外: ナデ	赤褐	良好	砂粒 黒色粒 白色粒	1/2	T-6	内外面赤彩、内面、底部に黒斑あり、一つ手に作り上げている様子
34	高杯	口径: - 器高: - 底径: 9.5	-	内: ナデ 外: ナデ	内:橙 外:赤褐	良好	砂粒多 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	内外面赤彩
35	高杯	口径: - 器高: - 底径: (10.7)	-	内: ナデ 外: ナデ	内:橙 外:赤褐	良好	砂粒多 黒色粒 白色粒	1/3	T-6	内外面赤彩
36	高杯	口径: 16.2 器高: (14.5) 底径: 13.1	C	内: 坏部ヘラミガキ、脚部ナデ 外: 坏部横位のヘラミガキ、脚部縦位のヘラミガキ	橙	良好	砂粒、黒色粒多、 白色粒、赤色スコリア	4/5	T-6	脚部内面に粘土紐積み痕あり
27	高杯	口径: (16.0) 器高: 15.7 底径: (12.0)	C	内: 坏部ヘラミガキ、脚部ナデ 外: 坏部横位のヘラミガキ、脚部縦位のヘラミガキ	明赤褐	普通	砂粒、黒色粒多、 白色粒多、 赤色スコリア	1/2	T-6	脚部内面に粘土紐積み痕あり
38	高杯	口径: (16.6) 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ヘラナデ 外: ロ縁部ヨコナデ、坏部ナデ	橙	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	1/8	T-6	
39	高杯	口径: - 器高: - 底径: -	-	内: 坏部ヘラナデ 外: 坏部ヘラナデ、ヘラケズリ	橙	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	2/5	T-6	
40	高杯	口径: - 器高: - 底径: (12.4)	-	内: 脚部ナデ 外: 脚部ヘラミガキ	橙	良好	砂粒、黒色粒多 白色粒、 赤色スコリア	2/5	T-6	
41	高杯	口径: - 器高: - 底径: (9.2)	-	内: 脚部ナデ 外: 脚部ヘラミガキ	橙	普通	砂粒、黒色粒多、 白色粒、赤色スコリア	2/5	T-6	
42	皿	口径: 19.8 器高: 5.3 つまみ径: 3.7	A1	内: ロ縁部ヨコナデ、体部ナデ 外: ロ縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ	橙	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒多	1/2	T-6	内外面赤彩
43	皿	口径: (11.1) 器高: 5.1 つまみ径: 2.5	A1	内: ロ縁部ヨコナデ、体部ナデ 外: ロ縁部ヨコナデ、体部ナデ	内:明黄 外:明赤褐	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	1/3	T-6	内外面赤彩

No.	器種	寸法(cm)	形態分類	調整	色調	焼成	胎土	残存率	出土位置	備考
64	壺	口径：(9.8) 器高：3.6 つまみ径：2.8	A2	内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、つまみヘラケズリ	にぶい橙	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒	1/8	T-6	内外面赤彩
65	壺	口径：(10.0) 器高：6.2 つまみ径：3.9	A2	内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ、つまみヘラケズリ	内:明黄 外:明赤褐	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	1/8	T-6	内外面赤彩
66	つまみ	つまみ径：2.6 つまみ高：2.8	-	内：ヘラナデ 外：ヘラナデ	明赤褐	普通	砂粒 黒色粒多 白色粒	つまみのみ	T-6	内外面赤彩
67	つまみ	つまみ径：3.2 つまみ高：2.4	-	内：ヘラナデ 外：ヘラナデ	明赤褐	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	つまみのみ	T-6	内外面赤彩
68	つまみ	つまみ径：3.4 つまみ高：1.7	-	内：ヘラナデ 外：ヘラナデ	明赤褐	普通	砂粒 黒色粒 白色粒	つまみのみ	T-6	内外面赤彩
69	つまみ	つまみ径：3.8 つまみ高：2.6	-	内：ヘラナデ 外：ヘラナデ	にぶい黄橙	良好	砂粒 黒色粒 白色粒	つまみのみ	T-6	内面赤彩
99	壺	口径：(10.2) 器高：3.7 つまみ径：-	-	内：ナデ 外：ナデ	にぶい黄橙	普通	砂粒多 黒色粒 白色粒	1/2	T-6	
51	坏	口径：7.8 器高：4.2 底径：-	B1	内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ナデ	明赤褐	不良	砂粒多 黒色粒多 白色粒	完形	T-6	
52	坏	口径：(8.6) 器高：4.7 底径：-	D1	内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	明赤褐	不良	砂粒 黒色粒 白色粒	1/2	T-6	外面底部付近に炭somみ?
53	坏	口径：(6.6) 器高：4.5 底径：-	B1	内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	橙	普通	砂粒多 黒色粒非常に多 白色粒	2/3	T-6	
54	坏	口径：(6.6) 器高：4.5 底径：-	B2	内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ナデ	橙	良好	砂粒非常に多 黒色粒非常に多 白色粒	1/3	T-6	内外面赤彩? 内外面底部に黒色粒あり
55	坏	口径：(8.0) 器高：4.8 底径：-	B1	内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	内:明黄褐 外:明赤褐	良好	砂粒多 黒色粒多 白色粒	1/4	T-6	口縁部外面及び内面の一部に赤彩
56	壺	口径：- 器高：- 底径：-	-	内：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ	明褐	普通	砂粒多 黒色粒非常に多、 白色粒、赤色スコリア	1/4	T-6	
57	壺	口径：- 器高：- 底径：-	A	内：ナデ 外：ナデ	にぶい黄橙	普通	砂粒多 黒色粒多 白色粒	1/4	T-6	口縁部内面及び胴部外面に赤彩
58	壺	口径：- 器高：- 底径：8.4	-	内：ナデ 外：ヘラナデ	明褐	良好	砂粒多 黒色粒多 白色粒	1/5	T-6	底面に木製痕あり
59	壺	口径：- 器高：- 底径：4.6	-	内：ナデ 外：ナデ	明赤褐	良好	砂粒多 黒色粒 白色粒	1/5	T-6	外面に一部赤彩 底面に木製痕あり
60	坩	口径：- 器高：- 底径：3.4	A	内：胴部ヘラナデ 外：胴部ナデ	鶯	普通	砂粒 黒色粒多	2/3	T-6	口縁部内面及び外面に赤彩
61	坩	口径：- 器高：- 底径：3.8	A	内：胴部ヘラナデ 外：胴部ヘラケズリ後ナデ、底部ヘラケズリ	明褐	普通	砂粒 黒色粒多	1/2	T-6	一部赤彩
62	平瓶 土師品	最大径：3.0 最大高：2.2 2.9	-		明赤褐	普通	砂粒、黒色粒、 白色粒、赤色スコリア		T-6	黒斑あり
63	平瓶 土師品	最大径：3.0 最大高：2.0 2.0	-		明赤褐	普通	砂粒、黒色粒、 白色粒、赤色スコリア		T-6	
64	壺	口径：- 器高：- 底径：6.0	-	内：胴部ヘラナデ 外：胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ、底部ヘラケズリ	内:灰黄褐 外:にぶい黄橙	普通	砂粒多、黒色粒、 白色粒非常に多、 赤色スコリア	1/5	T-6	外面に黒斑あり
65	壺	口径：(13.0) 器高：- 底径：-	B	内：口縁部ヨコナデ 外：口縁部ヨコナデ	灰褐	良好	砂粒	1/4	T-6	
66	壺	口径：- 器高：- 底径：-	A	内：ナデ 外：ナデ	橙	良好	雲母 黒色粒多	1/4	T-6	
67	壺	口径：11.8 器高：- 底径：-	A	内：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ 外：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ後ナデ	内:浅黄 外:橙褐	良好	砂粒 黒色粒 赤色スコリア	1/3	T-6	黒斑あり 内外面にスス付着

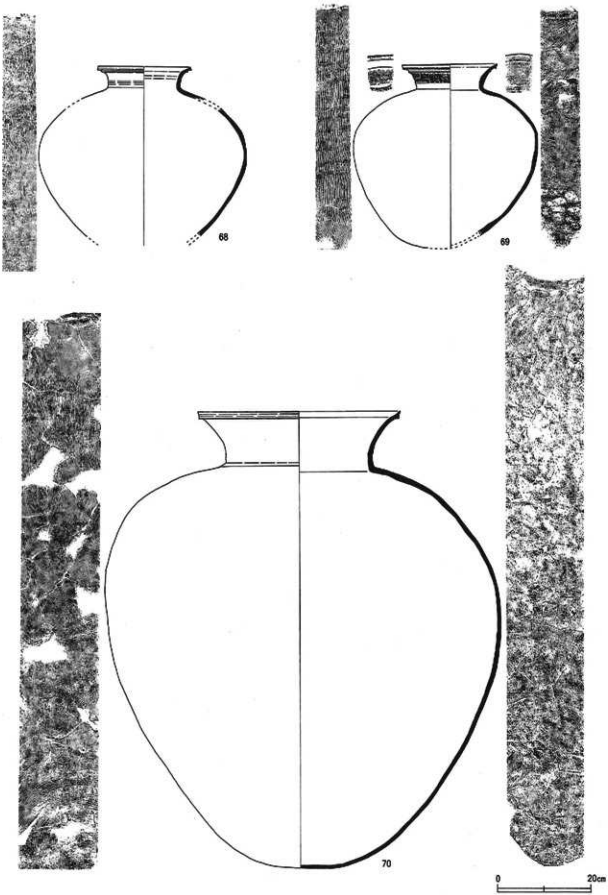
(3) 須恵器

本墳から出土した須恵器は、中型甕２（68、69）、大型甕１（70）、大型高坏（器台）１（71）、装飾付脚付壺１（72）、脚付有蓋壺２（73、74）、無蓋高坏４（75、76、77、78）、坏身１（79）、二重口２（80、81）の８種である。

中型甕（第56図68、69）

68は、口縁部が１条の稜を有し、大きく外反する。胴部中央部が大きく張り出し、底部は丸みを帯びる。推定器高40.8cm、胴部最大径41.1cmである。外面頸部にはナデ、胴部には平行叩目文を施す。

69は、口縁部が１条の稜を有し、外反する。68同様、胴部中央部が張り出すが全体的に丸みを帯びる。推定器高42.3cm、胴部最大径46.1cmである。外面は口縁部には波状文、頸部にナデ、胴部に平行叩目文を施す。内面胴部には同心円状の叩目文を施す。



第56図　塚山南古墳出土須恵器実測図(1)（S＝1／8）

大型甕（第56図70）

70は、口縁部・胴部を部分的に欠いているが、残存率は約8割と高い。口縁部は稜を持たず外反する。胴部は緩やかに膨らみ、底部はやや平らである。推定器高は101.4cm、胴部最大径は87.0cmである。外面は頸部がヨコナデ、胴部が平行叩目文を施す。

大型高坏（器台）（第57図71）

71の坏部は内湾し、2条の稜2組と1条の稜によって外面を3段に分ける。上から2段には波状文を施し、底部付近には叩き目痕に鋸歯文を描く。脚部は端部に向かってハの字形に開く。2条1組の稜4組により、外面を5段に分ける。各稜間には波状文を施す。脚部最上段には長方形透孔を、2～4段には三角形透孔を交互に穿つ。

装飾付脚付壺（第57図72）

72は、口縁部は大きく外反し、端部から1条、2条1組、1条の稜により外面を4段に分け、2条1組の稜上に勾玉状の装飾が現存で5個（欠損部があることから推定6個）を配す。下2段には波状文を施す。胴部上面を中心に濃緑色の自然釉がかかる。胴部中央よりやや上に突帯を巡らせ、ここから頸部に向かって5本の縦方向の突帯を貼り付ける。胴部下部には叩き目痕を残す。脚部は短くラッパ状に開き、2条1組の稜2組と1条の稜により外面を4段に分ける。各稜間には波状文を施す。上から2段目には長方形透孔を3方に穿つ。

脚付有蓋壺（第57図73、74）

73は、受け部が大きく張り出し、その下には波状文を施す。胴部は大きく内湾し、2条1組の稜が3組巡り外面を4段に分ける。上から3段の稜間には波状文を施す。胴部下半は叩き目痕が残る。緑色自然釉がかかる胴部は全体的に焼成時に受けたと思われる歪みを生じている。脚部はラッパ状に開き2条1組の稜が3組巡り、各稜間には波状文を施す。2、3段目には長方形透孔を穿ち交互に配している。

74は、蓋は1条の稜下に列点文を施す。受け部が大きく張り出し、その下には波状文を施す。胴部は4条の沈線が巡り2、3段目には波状文を施す。下部はカキ目文スリ消し。脚部は2条1組の沈線を2組巡らせ、各段に波状文を施し、最上段には台形透孔を、2段目には三角形透孔を穿つ。

無蓋高坏（第58図75、76、77、78）

75は、坏部が緩やかに内湾し、2条の稜を有する部分から外反して立ち上がり口縁部に至る。稜下には波状文を施す。脚部は全体にカキ目痕を施し、端部の段上まで台形透孔を3方に穿つ。

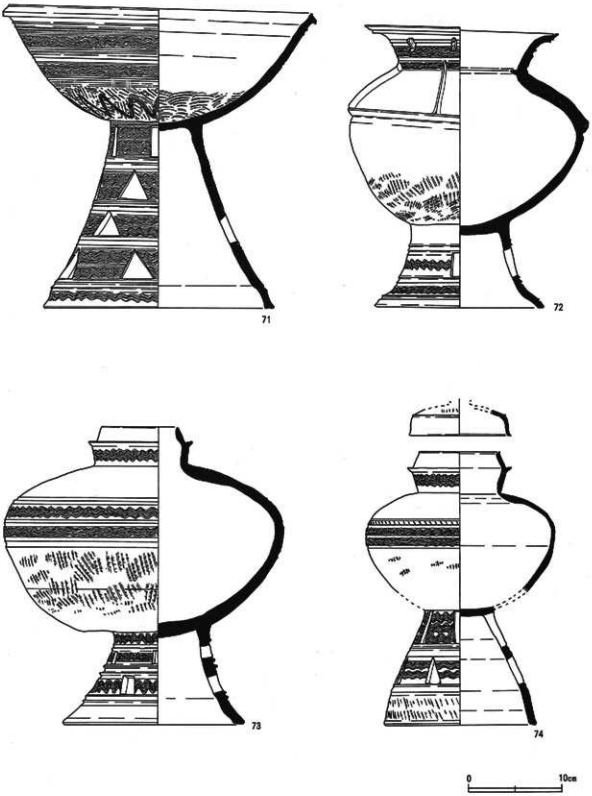
76は、坏部が緩やかに内湾、2条の稜を有する部分から外傾して立ち上がり口縁部に至る。2条の稜を有し稜下には波状文を施す。脚部は台形透孔を4方に穿つ。

77は、坏部がナデ・回転ヘラケズリが施され、1条の稜を境に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。脚部はハの字形に開き、全体にナデ・カキ目痕が施され、台形透孔を3方に穿つ。

78は坏部が緩やかに内湾し、1条の稜を境に外反して立ち上がり口縁部に至る。脚部はハの字形に開き中間部に直径1.1cmの円形透孔を3方に穿つ。無蓋高坏は白色粒を多く含む胎土。灰黄褐色の色調をなし、他の須恵器とは特徴を異にする。

坏身（第58図79）

79は、底部は丸みをもって受け部に至り、この受け部からの立ち上がりは内傾し、その端面にはわずかな段を持つ。底部の約3分の1の狭い範囲にヘラケズリを施す。



第57図　塚山南古墳出土須恵器実測図(2)（S＝1／4）

第58図　塚山南古墳出土須恵器実測図(3)（S＝1／3）

二重廻（第58図80、81）

80は、口縁部に１条の稜が巡り稜上には列点文、稜下には波状文を施す。胴部は湾曲し、胴部最大径10.6㎝である。胴部を２本の沈線により区画し、中位に直径1.1㎝の円形透孔と列点文を施す。その上下にタテ約2.9㎝×ヨコ0.3～0.9㎝の長方形透孔を穿つ。色調は灰色である。胎土は白色粒を多く含む。

81は、80よりやや大きく、胴部は緩やかに湾曲し、最大胴径11.6㎝である。胴部の上下２段にタテ約2.8㎝×ヨコ約0.5㎝長方形透孔を、さらに上段には直径1.1㎝の円形透孔を１ヵ所穿いている。円形透孔の下には×印のヘラ記号が見られる。色調は赤褐色。（山中恵美）

第13表　塚山南古墳出土須恵器観察表

No.	器種	寸法(cm)	器形の特徴	調整	胎面色調	焼成	胎土	残存量	出土位置	備考
68	中型甕	口径: 20.8 底径: － 器高: (40.8)	口縁部は外反し、1条の稜を有す。胴部は張り出し、底部は丸みを帯びる。	内: ナデ 外: ナデ、ケズリ調整。平行叩目文	暗灰	良好	白色粒少量	1/2	T-1	
69	中型甕	口径: 20.3 底径: － 器高: (42.3)	口縁部は外反し、1条の稜を有す。胴部は張り出し、底部は丸みを帯びる。	内: ナデ、タタキ 外: ナデ、ケズリ調整。平行叩目文	暗灰	良好	白色粒少量	3/4	T-6	
70	大型甕	口径: 44.8 底径: － 器高: (101.4)	口縁部は外反する。胴部は緩やかに膨らみ底部はやや平。	内: ナデ 外: ヨコナデ、平行叩目文	暗灰	良好	白色粒少量	4/5	T-6	
71	大型高坏（器台）	口径: 31.4 底径: 22.9 器高: (31.5)	坏部は緩やかに内湾。長方形、三角形の透孔・稜を有す。	内: ナデ、タタキ 外: ナデ、ケズリ後波状文、櫛描文	暗灰	良好	白色粒少量	4/5	T-6	
72	鐙飾付脚付壺	口径: (19.7) 底径: 16.9 器高: 29.4	口縁部外反。胴部は湾曲し、突帯を持つ。透孔、稜を有す。勾玉状鐙飾計５個。	内: ナデ 外: ナデ、ケズリ。胴部下部にタタキ、脚部に波状文あり	暗赤灰	良好	白色粒少量	3/4	T-6	鐙綾色の自然釉、褐色小灰焼付着
73	脚付有蓋壺	口径: 7.7 底径: 18.0 器高: 31.3	受け部に鋭い稜を持ち、胴部は大きく内湾。長方形透孔、稜を有す。	内: ナデ、ケズリ 外: ナデ、ケズリ後タタキ、波状文	暗灰	良好	白色粒多量	3/4	T-6	上面に緑色自然釉、灰褐多数付着
74	脚付有蓋壺	口径: 8.3 底径: 15.1 器高: (28.6)	口縁部内湾。胴部は湾曲する。台形・三角形透孔、稜、沈線を有す。	内: ナデ、ケズリ 外: ナデ、ケズリ後タタキ、波状文	赤灰	良好	白色粒微量	3/5	T-6	胴部上面を中心に黒色の自然釉
75	無蓋高坏	口径: (16.2) 底径: 10.0 器高: 12.0	坏部は内湾し、立ち上がりは外方に延びる。脚部は透孔、端面に稜を有す。	内: ナデ、ヘラケズリ 外: ナデ、ケズリ後、カキ目、波状文	暗灰	良好	白色粒少量	2/5	T-6	明暗色の自然釉、透孔周辺焼あり
76	無蓋高坏	口径: (16.9) 底径: 10.9 器高: 12.0	坏部は内湾して端部に至る。脚部は端部で稜を持つ。稜、透孔あり。	内: ナデ、ケズリ 外: ナデ、ヘラケズリ後、波状文	赤灰 外面暗灰	良好	白色粒少量	2/3	T-6	脚部を中心に自然釉、小灰焼付着。
77	無蓋高坏	口径: (14.3) 底径: 9.0 器高: 9.4	坏部は内湾し、稜やかに立ち上がる。脚部は八の字形に開き、透孔を有す。	内: ナデ 外: 坏部ナデ、回転ヘラケズリ 脚部ナデ、カキ目	暗灰	良好	白色粒微量	1/2	T-6	

No.	器種	寸法 (cm)	器形の特徴	調整	断面色調	焼成	胎土	残存量	出土位置	備考
78	無蓋高坏	口径: (12.1) 底径: (8.2) 器高: 7.9	坏部は緩やかに外反し、稜を有す。脚部はハの字形に開き、円孔を有す。	内: ナデ、ケズリ 外: ナデ、ケズリ	灰黄褐	良好	白色粒少量	1/2	T-6	土師質須恵器
79	坏身	口径: 11.0 底径: – 器高: 5.3	立ち上がりは内反し、坏部は浅い。	内: ナデ、ケズリ 外: ナデ、ケズリ	暗灰 一部赤灰	良好	白色粒少量	2/5	T-6	
80	二重口	口径: 8.9 底径: 5.3 器高: 9.0	胴部は湾曲し、上下2段にわたり透孔を押つ。口縁部に歪あり。	内: ナデ 外: ナデ、後に列点文、波状文	灰	良好	白色粒多量	3/5	T-6	口縁部・胴部を中心に自然釉
81	二重口	口径: – 底径: 5.1 器高: –	胴部は緩やかに湾曲し、上下2段にわたり透孔を押つ。	内: ナデ 外: ナデ、ケズリ後、透孔切抜	赤褐	良好	白色粒少量	1/2	T-6	円孔下に×印の刻みあり、自然釉

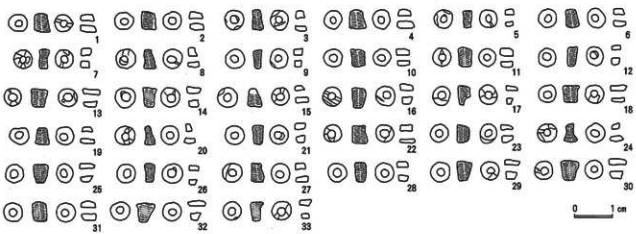
(4) 臼玉（第59図）

塚山南古墳ではT－1から33顆の臼玉が出土した。

最大径は4.5～5.0㎜、孔径は1.5～2.0㎜である。厚さは2.0～5.0㎜とややばらつきが見られる。色調は灰色・オリーブ灰・暗オリーブ灰色など褐色系の色合いをなしている。

側面の形状は胴の中央部が外湾し太鼓胴をなすいわゆる棗玉状をしている。側面擦痕は、一部ヨコ方向も見られるが、上下2段にナナメ方向の擦痕をもつものが多い。孔面の擦痕は見られない。穿孔方法は、一部片面穿孔押圧穿孔法を用いているものもあるが、ほとんどが片面穿孔直接貫通法を用いている。

（阿部智之）



第59図　塚山南古墳出土臼玉実測図

第14表　塚山南古墳出土臼玉観察表

No.	最大径	孔径	最大厚	擦痕方向	色調	No.	最大径	孔径	最大厚	擦痕方向	色調
1	5.0	1.5	4.0	2段ナナメ	オリーブ灰	18	5.0	2.0	3.5	2段ナナメ	オリーブ灰
2	5.0	1.5	4.0	2段ナナメ	暗オリーブ灰	19	5.0	2.0	4.0	2段ナナメ	オリーブ灰
3	5.0	2.0	3.0	2段ナナメ	オリーブ灰	20	5.0	2.0	3.0	2段ナナメ	暗オリーブ灰
4	4.5	1.5	4.5	1段ナナメ	暗オリーブ灰	21	5.0	2.0	3.0	2段ナナメ	暗オリーブ灰
5	5.0	1.5	2.0	2段ナナメ	暗オリーブ灰	22	4.5	2.0	4.0	2段ナナメ	オリーブ黒
6	5.0	2.0	3.0	1段ナナメ	灰	23	5.0	1.5	3.0	2段ナナメ	暗オリーブ灰
7	5.0	1.5	2.5	2段ナナメ	暗オリーブ灰	24	5.0	2.0	3.5	2段ナナメ	オリーブ灰
8	5.0	2.0	3.0	1段ナナメ	暗オリーブ灰	25	4.5	2.0	4.0	2段ナナメ	オリーブ黒
9	5.0	2.0	2.0	2段ナナメ	暗オリーブ灰	26	5.0	2.0	3.5	2段ナナメ	暗オリーブ灰
10	5.0	2.0	4.0	2段ナナメ	オリーブ黒	27	5.0	2.0	3.0	2段ナナメ	灰
11	4.5	2.0	3.5	2段ナナメ	暗オリーブ灰	28	5.0	2.0	3.0	2段ナナメ	オリーブ灰
12	4.5	2.0	4.5	1段ヨコ	灰	29	5.0	1.5	4.0	2段ナナメヨコ	オリーブ灰
13	4.5	2.0	2.5	2段ヨコタチ	暗オリーブ灰	30	5.0	2.0	4.5	2段ナナメ	オリーブ灰
14	5.0	2.0	4.0	2段ヨコタチ	暗オリーブ灰	31	5.0	2.0	3.5	2段ナナメヨコ	灰
15	5.0	2.0	3.5	2段ナナメ	暗オリーブ灰	32	5.0	1.5	5.0	1段ナナメ	暗オリーブ灰
16	5.0	2.0	4.0	2段ナナメ	灰	33	4.5	2.0	3.0	1段ナナメ	灰
17	5.0	2.0	3.0	1段ヨコ	オリーブ灰						

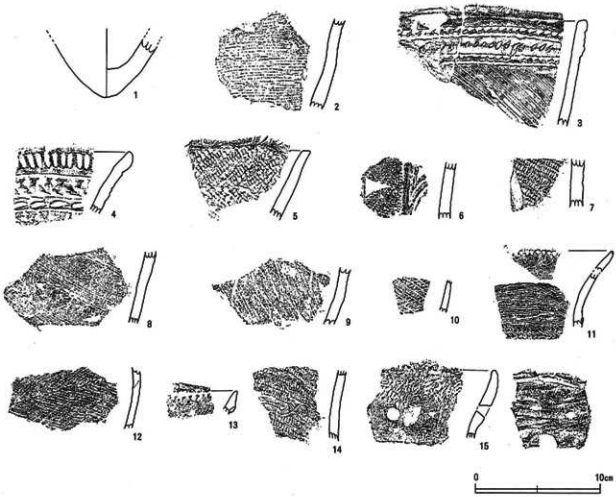
2　塚山南古墳外出土遺物

縄文土器・弥生土器（第60図）

縄文土器・弥生土器がT－1～7において出土している。主な遺物として以下の15点を掲載する。1～9が縄文土器、10～15が弥生土器である。　（仲沢　隼）

第15表　塚山南古墳外出土遺物観察表

番号	時期	型式	文様	部位	備考	番号	時期	型式	文様	部位	備考
1	縄文早期	不明		底部	尖底土器	10	弥生後期	十王台式		胴部	
2	縄文早期	不明	早期条痕文系	胴部		11	弥生後期	十王台式		口縁部	
3	縄文前期	浮島式	半截竹管文	口縁部		12	弥生後期	二枡屋式		胴部	
4	縄文前期	浮島式		口縁部		13	弥生後期	二枡屋式		口縁部	
5	縄文前期	黒浜式	羽状縄文	口縁部	羽状口縁	14	不明	不明	付加条？	胴部	付加条何種かは不明
6	縄文中期	五領ヶ台式	三角形くり込み文	胴部		15	弥生中期	不明		口縁部	
7	縄文中期	加曽利E式	磨消縄文	胴部							
8	縄文後期	福之内式？	条線文	胴部							
9	縄文後期	加曽利B式	条線文	胴部							



第60図　塚山南古墳外出土遺物実測図（S＝1／3）

第4節　まとめ

1　遺　構

発掘調査の結果、塚山南古墳は舌状台地の南縁に位置し、前方部が南面する二段築成の帆立貝形古墳であり、馬蹄形の周堀が古墳の周りを一周していることを確認した。また、本墳の東と西の周堀の外側に1～4号溝を確認した。このうち、3、4号溝は古墳に伴うものと考えられる。

規模は、1976年の調査結果をふまえると、周堀を含めた総長70.6m、墳丘長58.0m、後円部径42.1m・同高6.8m、前方部長13.5m・同高4.1mであった。但し、後円部高は主軸線上の墳丘裾部から計測した値である。主軸線の方向はN－170°－Wであった。

墳丘第一平坦面は、後円部では旧表土を0.6mほど掘り込み、ローム層を整形して造られているが、くびれ部東側（T－6）は盛土によって造られている。くびれ部東側の後円部はローム層を削り盛土が施されている。これは造出の可能性がある。T－6の後円部の平坦面より1m程下で、段違いに前方部の平坦面が確認できた。しかし前方部南側（T－1）、前方部西側（T－2）では削平が著しいため平坦面は確認できなかった。前方部では旧表土、ローム層、K.P.層を1.2m掘り込み、K.P.層の下のローム層を平坦面としている。前方部の南側にも平坦面が形成されていたと考えられる。また、後円部北側（T－4）とくびれ部東側（T－6）では、平坦面の標高が2.6m異なる（T－4：90.6m、T－6：88.0m）が、これは旧表土の標高が北から南にかけて徐々に下がっているためであると考えられる。平坦面は水平に造られたのではなく、旧表土に沿って造られたと考えられる。

墳丘第二平坦面は旧表土の上に盛土をすることで形成される。盛土の厚さは後円部で4.5～5.5m、前方部で1.0mである。しかし前方部は崩されている可能性が高いため、築造当時の盛土の高さは現在よりも高かったと思われる。

外表施設としては、円筒埴輪、形象埴輪（人物、馬、鹿、家）が確認できた。埴輪列及び掘り方については確認できなかった。墳丘第一平坦面より上からも埴輪片が若干出土したことと、出土数の多さから、埴輪は墳頂及び墳丘第一平坦面にあったと考えられる。葺石については、原位置・転落を含め確認できなかったため当初からなかったと考えられる。土師器は、前方部南側（T－1）の周堀底付近及び、くびれ部東側（T－6）周堀覆土中から出土した。須恵器はくびれ部東側（T－6）周堀覆土中から多く出土した。

内部主体は不明である。しかし、後円部墳頂が窪んでおり盗掘されている可能性が高く、その付近に赤彩が施された石などがあることから、竪穴系の埋葬施設であると考えられる。

周堀は、後円部北西側では狭くなる。これは塚山南古墳が塚山西古墳の後に築造されたため、制約を受けた結果と考えられる。周堀底面は後円部の北側から東側（T－4・T－5・T－9）にかけてはK.P.層上部であり、前方部の南側（T－1）はローム層であり、前方部東側（T－6・T－7）及び西側前方部から西側後円部にかけて（T－2・T－3）は白色粘土層であると考えられる。周堀底面の標高は旧表土と同様に後円部北側（88.7m）から前方部南側（85.7m）にかけて徐々に下がっている。周堀底面幅は後円部で5.2～6.1m、くびれ部東側は8.9m、前方部西側は10.0mであり、前方部南側では5.0mである。周堀底面は平坦であるが、T－2とT－3では外側寄りの一部が浅い舟底状に掘り込まれている。墳丘は約40度で立ち上がるのに対し、周堀外側は約30～85度で立ち上がる。くびれ部東側（T－6）と前方部東側コーナー（T－7）の周堀外側はローム土を主体とした盛土が施されている。これはくびれ部東側から前方部東側コーナーにかけた周堀外側ではローム層がなく、白色粘土層の上に直接旧表土があり、周堀外側の色調の統一を意図した

ものと思われる。

Ｔ－２、Ｔ－３、Ｔ－６及びＴ－７の周堀底面直上で６世紀初頭に降下したＨｒ－ＦＡと思われる火山灰層が確認され、周堀底面から20～25㎝上でＡｓ－Ｂ層と思われる火山灰層が見られる。

以上のことから築造年代は５世紀末～６世紀初頭と考えられる。　（坂本勝志）

２　遺　物

埴　輪

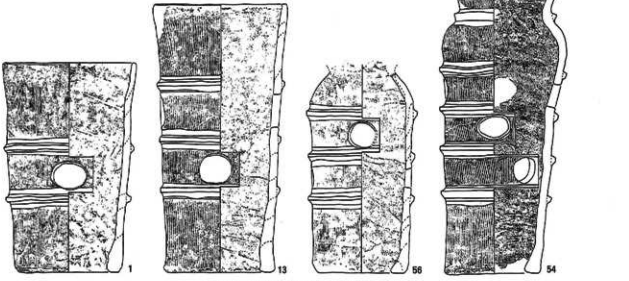
今回の調査では、原位置の分かるものは確認できず、周堀覆土中からの出土が多い。全体の器形が分かる個体も確認できた。塚山古墳群内では円筒埴輪は３種に大別できる（『峰考古』第９号1995）。透孔の位置を基にした分類によると、塚山南古墳の円筒埴輪は「Ⅰ型」（３条突帯で二・三段目に透孔）と「Ⅲ型」（２条突帯で下から二段目に透孔）の２種が確認できる。本報告書に掲載した中で３条突帯及び２条突帯と確認できるものの割合は３条：２条＝３：１であった。ただし、条数を確認できるものでの割合であり、全体を正確に表してはいない。各トレンチでこの２種の出土範囲は重複している。

朝顔形埴輪も頸部以下４条突帯の円筒部をもつものと頸部以下３条突帯の円筒部をもつ２種類が確認できた。円筒部で区別できるものは５体と少なく、その割合はほぼ同じである。

また、塚山古墳群を代表する要素の一つである線刻についても今回８点が確認できた（第50図）。塚山古墳群内の線刻は、これまでに全部で６種類が確認されている（『峰考古』第９号1995）（第62図）。それに照らし合わせると、８点中Ｂ類[▷]２点、Ｆ類[〕)]１点を確認した。また、線刻全体の形状を知ることはできないが、今回の調査では、1976年の調査で確認された１片（Ｆ類）以外にも線刻があることが確認できた。

なお、『峰考古』第９号では４段階に位置付けられていたが、今回Ｂ類が出土したことから、本墳は３段階に相当すると考えられる。

第62図　塚山古墳出土線刻埴輪



第61図　塚山南古墳出土円筒埴輪分類図

土師器

塚山南古墳からは土師器の坏・高坏・鬲・甕などが出土している。そのうちの坏・高坏を中心に塚山南古墳の土師器についてみてみる。

主軸線上のＴ－１の周堀内から出土した土師器群は、坏Ａ類・Ｄ類、高坏Ｂ類・Ｄ類である。他に鬲及び甕の出土が見られる。高坏は２形態が出土しているが、ほとんどがＢ類である。

坏Ａ類は内斜口縁・平底である。高坏Ｂ類はしっかりとした稜をもち、長い脚など和泉的な様相のものが多い。しかし、坏Ｄ類・高坏Ｄ類は模倣坏の典型的なものであり、他の土師器より年代が下る。このため、前方部の土師器群は１～２世代の時間幅がある。

くびれ部周辺（Ｔ－６）の周堀覆土中から出土した土師器群は、坏Ｂ１・Ｂ２類、高坏Ａ１・Ａ２・Ｃ類、蓋Ａ１・Ａ２類が見られる。蓋Ａ類は坏Ｂ類と同様のつくりで、いわゆる「模倣坏」の一系統ともいえるものである。高坏Ａ類は前方部周堀覆土中出土のものより小型で、坏Ｂ類、蓋Ａ類と同様につくりは粗雑である。高坏Ａ１とＡ２は脚部内部の違いのほかは外面上大きな違いは見られない。これら坏Ｂ類、蓋Ａ類、高坏Ａ類は外面に赤彩を施し、非日常的要素の強い祭祀性の土師器であると考えられる。一方高坏Ｃ類はしっかりしたつくりである。

くびれ部周辺の土師器は、多くが周堀内覆土中の崩落層（第29図第７層）から出土し、一部後円部上から蓋・坏・甕が出土している。このうちの蓋１点が周堀内から出土したものと接合できたことから、当初後円部上にあったものが周堀内に崩落したものと考えられる。

後円部西側のＴ－３の周堀覆土中（第53図第６層）から出土した坏Ｃ類は、いわゆる「模倣坏」である。底部に人為的に穿孔した痕があり、祭祀的要素が非常に強い。

塚山南古墳における土師器は、和泉～鬼高期にかけての２～３段階が考えられ、複数回にわたって祭祀が行われていた可能性が高い。

須恵器

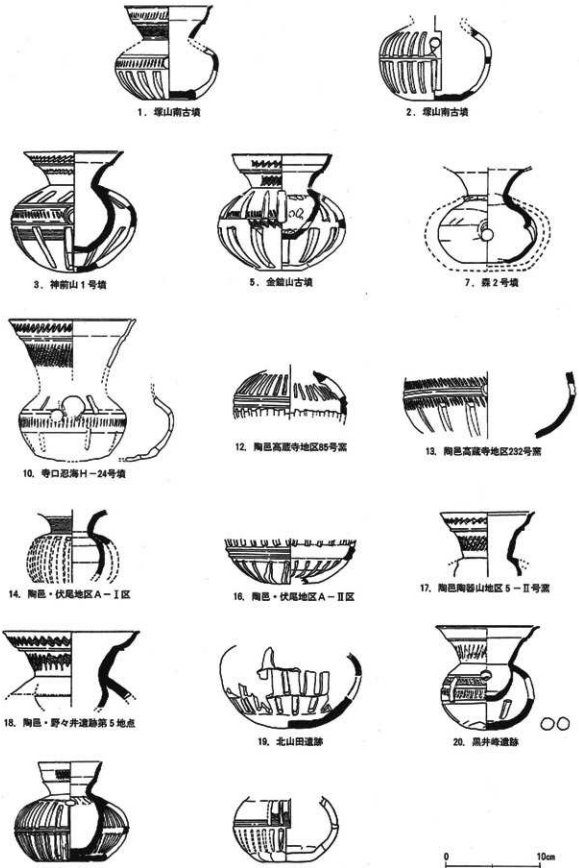
塚山南古墳からは、前方部において主軸線上のＴ－１の周堀内から中型甕、くびれ部一帯からは大型高坏（器台）、装飾付脚付壺、脚付有蓋壺、二重口縁などが出土している。

Ｔ－１の周堀内から出土した中型甕は、頸部に波状文を施さず内面は叩きを丁寧にスリ消している。

くびれ部一帯から出土した須恵器の内、坏は丸みをもった底部から受け部に至り、口縁部は内傾して立ち上がる。口唇部端面には僅かな段をもつ。底部の３分の１ほどの狭い範囲でヘラ削り調整を行っている。高坏はすべて無蓋高坏である。坏部は、①緩やかに内湾し２条の稜を有し口縁部が外反して立ち上がるもの。②２条の稜を有し外傾するもの。③１条の稜を有し緩やかに外傾するもの。④１条の稜を有し内湾して緩やかに立ち上がるものがある。脚部は、Ⅰ：台形透孔を３方に穿つもの。Ⅱ：台形透孔を４方に穿つもの。Ⅲ：円形透孔を３方に穿つものとがある。甕は、中型と大型の２種類が出土した。中型甕は、前方部出土の中型甕とほぼ同じ大きさの個体であるが、頸部に波状文を施す。大型甕は、器高が１ｍを超える破格の大きさである。頸部に波状文は施さない。

塚山南古墳出土の須恵器は田辺編年ＴＫ208～23型式・中村編年Ⅰ型式３～４段階に並行する時期に位置付けることができそうである。

二重口縁は全国で20数例（第16表）の出土が知られる珍しい器種である。塚山南古墳出土の二重口縁のうち、第58図80の二重口縁は三重県神前山１号墳、長野県金鐙山古墳出土のものに類似している。第58図81の二重口縁は長野県鳥羽山遺跡出土のものに類似している。



第63図　全国二重口縁集成図（S＝1／4）

第16表　全国二重隧葉成表

No.	出土地	種別	墳形・遺構	他の主な出土遺物	備考	所在地
1	塚山南古墳	古墳	帆立貝形	埴輪・土師器・須恵器・臼玉	本報告書	橿木県宇都宮市西川田町
2	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	神前山1号墳	〃	帆立貝形	圓文得神獣鏡3・埴輪・土師器・須恵器	造出付円墳	三重県多気郡明和町
4	〃	〃	〃	〃	破片	〃
5	金鶏山古墳	〃	円墳	鏡・玉類・貝輪・武器・工具・馬具・土師器・須恵器	横石塚古墳	長野県中野市日野新町
6	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7	森3号墳	〃	円墳	埴輪・土師器・須恵器・玉類	森将軍塚古墳陪塚	長野県更埴市森大穴山
8	榊山古墳	〃	円墳	埴輪・土師器・玉類	造山古墳陪塚	岡山県倉敷市新庄下
9	丸山塚古墳	〃	円墳？	圓文得神獣鏡・鹿角水刀・須恵器		堺市仁徳陵敷部中丸町
10	中口忍海E－24号墳	〃	円墳？	工具・鉄鏃・土師器・須恵器	動物形	奈良県新庄町
11	岩清水スダ谷古墳	〃	円墳	馬具・鉄鏃		奈良県大字阪町岩清水
12	陶邑高蔵寺地区	生産遺跡	85号窯			大阪府堺市
13	〃	〃	232号窯			〃
14	陶邑・伏尾地区	〃	A－I区		古墳時代須出土	〃
15	〃	〃	A－II区		包含層出土	〃
16	〃	〃	A－II区		包含層出土	〃
17	陶邑陶邑山地区	〃	S－II号窯			〃
18	陶邑・野々井遺跡	〃	第5地点			〃
19	北山田遺跡	住居	7号住居	土師器・石製品		福島県郡山市
20	黒井峰遺跡	〃	祭祀遺構	土師器・須恵器・臼玉	FAに覆われた道路跡に伴う祭祀遺構	群馬県北群馬郡子持村
21	三輪山山麓	祭祀	〃	須恵器・臼玉	三輪山信仰　祭祀信仰の地	奈良県桜井市
22	烏羽山裏穴遺跡	〃	〃	須恵器	古墳時代祭祀遺跡	長野県小県郡丸子町
23	山ノ花遺跡	他	包含層			静岡県浜松市
24	鹿島寺下層遺跡	〃				奈良県奈良市
25	平城京跡	〃				〃
26	太田黒田遺跡	祭祀				和歌山県和歌山市
27	西大門遺跡	〃				愛知県一宮市
28	出土地不明	－				

臼　玉

塚山南古墳出土の臼玉33顆のように、観察表に示した特徴（裏玉状・側面研磨斜・孔面研磨無・片面穿孔直接貫通法）をもつものは、篠原祐一氏による臼玉の編年（篠原1995）によれば5世紀前葉～中葉という年代を与えられる。この年代そのものは、他の遺物との比較でも少々遡る。ただし石製模造品は、氏の指摘するように製作地での出土をもって年代を与える。そのため消費地では、段階の異なる製品が出土していると考えるのが妥当であろう。

臼玉は、前方部主軸線上のT－1の周堀覆土中から土師器・須恵器中型甕とともに第6層で散在する形で出土した。土器類は比較的大きな破片がまとまって多く出土している点から、原位置は保っていないものの、ほぼその一帯で何らかの墓前祭祀が執り行われていたことを示唆するものである。

まとめ

塚山南古墳では以上のような遺物が出土した。

埴輪は3条と2条という条数の異なる2種の円筒埴輪が出土している。また、先学の研究（秋元1988・水沼1990・阿部1995）では塚山南古墳の時期になると線刻は消滅すると考えられていたものが多かったが、今回の調査で線刻をもつ埴輪を確認できた。

本墳と同様に条数の異なる3条と2条突帯の円筒埴輪及び線刻を持つ埴輪が出土している古墳としては上三川町八龍塚古墳が挙げられる。この古墳は5世紀後葉の時期に位置付けられている。

土器については、土師器が3カ所で出土している。前方部は、和泉期の土師器を中心にしながらも、鬼高期の土師器も出土しており、時間幅をもつ。須恵器は田辺編年TK208～23型式・中村編年I型式3～4段階が出土している。二重口縁や装飾付脚付壺など特殊なものが数多く出土している。

同じ一帯で出土した臼玉は、5世紀前葉～中葉の年代が与えられる。ただしこの年代は製作地における年代である。

しかし、塚山南古墳の築造年代を考えるとき、周堀内でHr－FAと推定される火山灰を確認したことから、本墳の築造は6世紀初頭をやや遡る時期であると考えられる。（阿部智之）

参考文献一覧

秋元陽光　1988『八龍塚古墳』上三川町教育委員会

宇都宮大学考古学研究会　1995「塚山古墳群出土遺物の検討」『峰考古』第９号

今平利幸　1994『雷電山遺跡』宇都宮市教育委員会

篠原祐一　1995「臼玉研究私論」『研究紀要』３号財埋蔵文化財センター

田辺昭三　1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

常川秀夫ほか　1979『塚山古墳群』栃木県教育委員会

中村　浩　1990『研究入門　須恵器』柏書房

藤田典夫　1999「栃木県における５世紀の土器編年」『東国土器研究』第５号東国土器研究会

水沼良浩　1990「塚山古墳群とその周辺」『古代』89号　早稲田大学考古学会

二重瑞実測図出典

中村　浩　1998『古墳出土須恵器集成Ⅰ』雄山閣（神前山１号墳）

更埴市教育委員会　1992『史跡　森将軍塚古墳』（金鐘山古墳、森２号墳、鳥羽山遺跡）

新庄町教育委員会　1988『寺口忍海古墳群』（寺口忍海H-24号墳）

中村　浩　1978『陶邑Ⅲ』（ＴＫ85・232号窯）

大阪府埋蔵文化協会　1990『陶邑・伏尾遺跡』－Ａ地区－（ＴＫ85号窯、ＴＫ232号窯）

大阪府埋蔵文化協会　1979『陶邑Ⅳ』（MT５－Ⅱ）

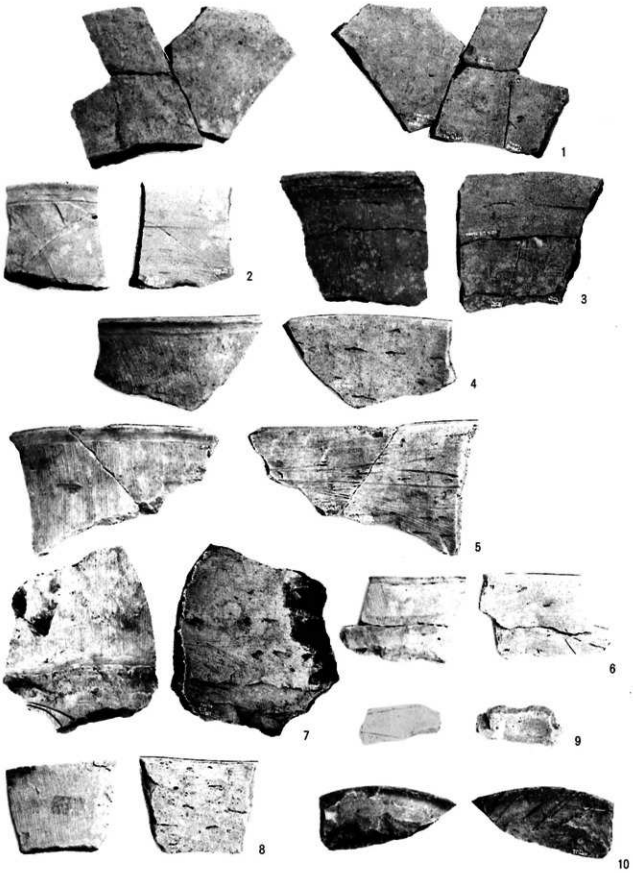
大阪府埋蔵文化協会　1979『陶邑Ⅳ』（野々井第５地点）

郡山市教育委員会　1988『郡山東部８』（北山田遺跡）

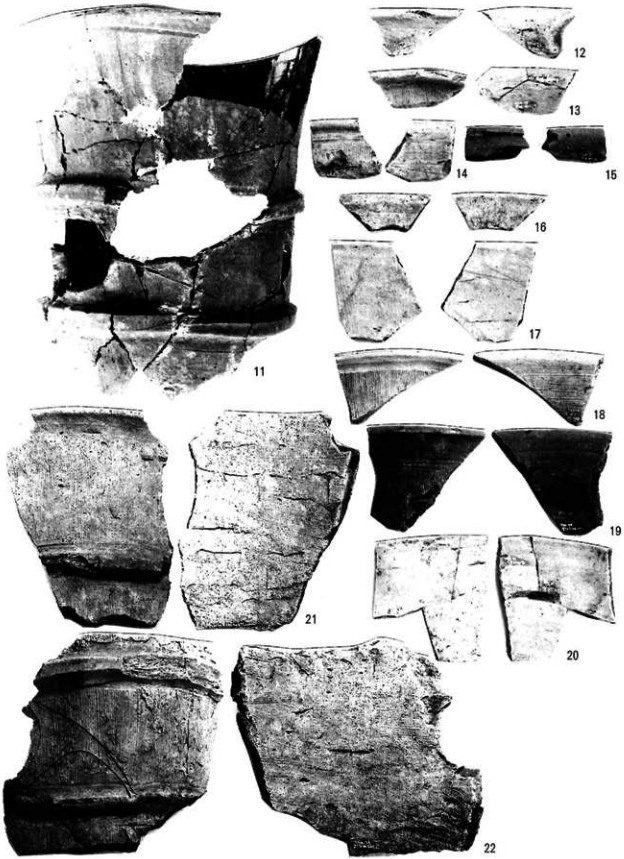
石井克巳　1987『東国における古式須恵器をめぐる諸問題』（黒井峰遺跡）

鈴木敏則　1999「遠江の古墳時代中期土器様式（山ノ花様式）」『東国土器研究』第５号東国土器研究会（山ノ花遺跡）

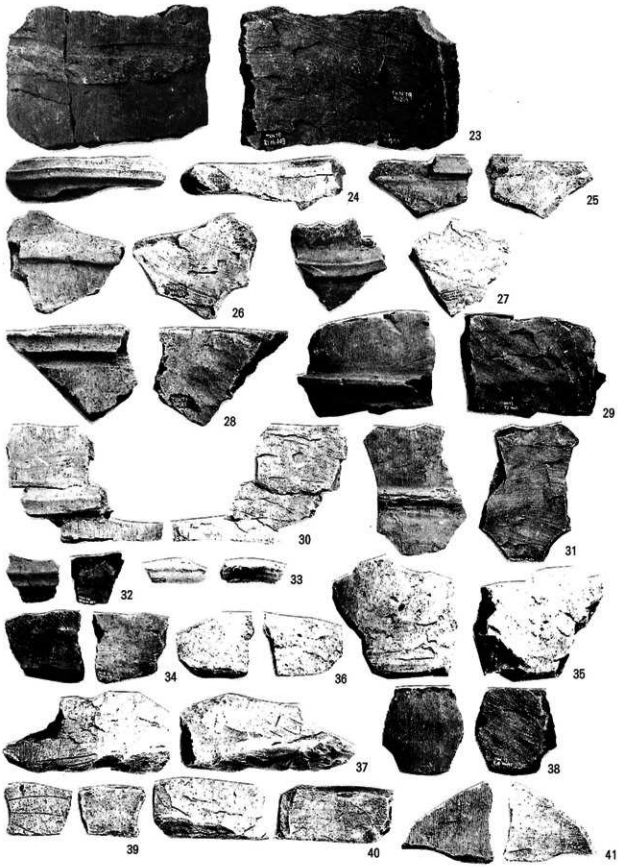
写 真 図 版



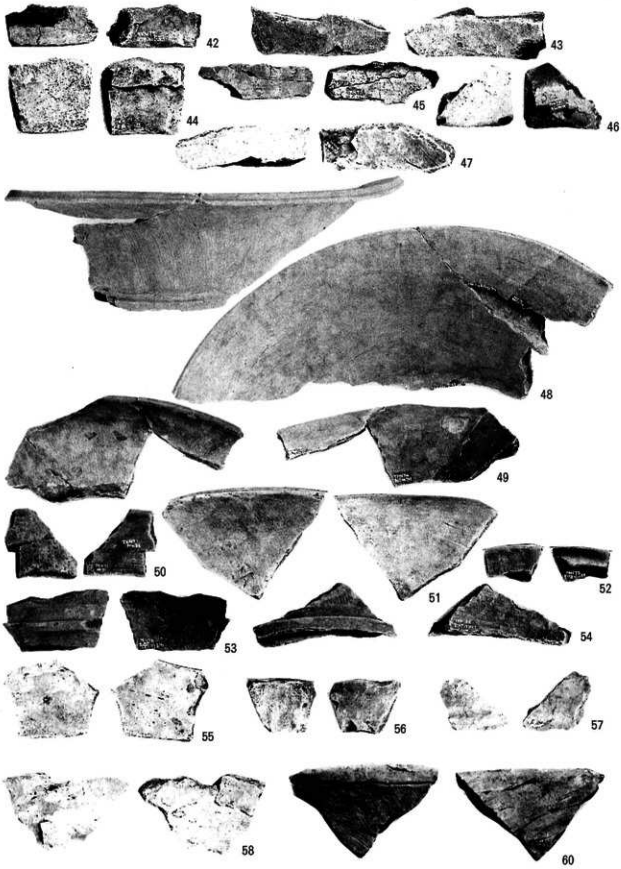
出土埴輪①



出土埴輪②



出土埴輪③



出土埴輪④

(1)全景（西から 1998年春）

(2)作業風景（西から 1996年夏）

(1)T－1：前方部前面完掘状態（南から）

(2)T－7：前方部東側コーナー完掘状態（南から）

(3)T－2：前方部西側面完掘状態（西から）

(4)T－2：前方部西側周堀内遺物出土状態（北から）

(5)T－6：東側くびれ部盛土状態（東から）

(6)T－6：東側くびれ部周堀外縁完掘状態（北から）

(7)T－6：東側くびれ部遺物出土状態（北西から）

(8)T－6：東側くびれ部作業風景（1998年）

1

4

5

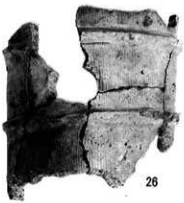
7

6

10

14

15


26

19

32

出土埴輪①

33

34

35

36

40

39

37

54

57

41

55

43

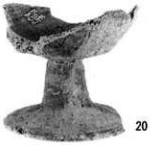
出土埴輪②

16

17

18

19


20

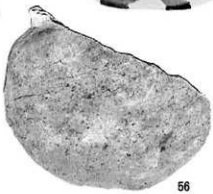
36

37

42

43

53


56

67

54

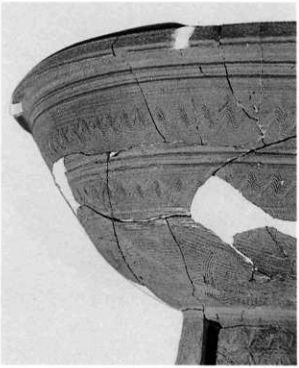
62

63

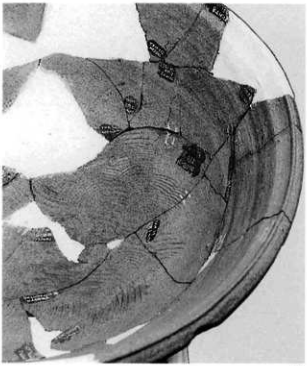
出土土師器②

出土須恵器①

71



71



71

71

出土須恵器②

72

72

72

出土須恵器③

73

73

出土須恵器④

73

74

74

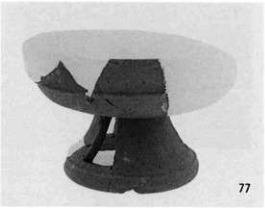
74

74

出土須恵器⑤

75

76


77

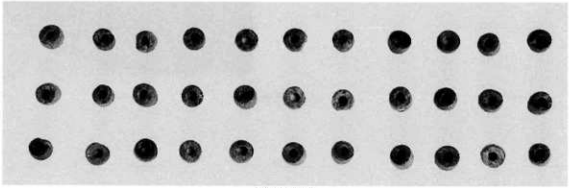
78

79

80

81

(1)出土須恵器⑥



(2)出土白玉

報告書抄録

ふりがな	つかやまにしこふん・つかやまみなみこふん
書名	塚山西古墳・塚山南古墳
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財報告書
シリーズ番号	第48集
編著者名	石部正志ほか
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	宇都宮市旭1丁目1番5号　TEL028－632－2764
発行年月日	西暦2003年（平成15年）3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つかやまにしこふん 塚山西古墳 つかやまみなみこふん 塚山南古墳	うつのみやし 宇都宮市 にしかわだまち 西川田町	09201	3222	36 度 30 分	139 度 51 分	19950723 ～ 19980403	1,170	史跡整備 に伴う確 認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塚山西古墳 塚山南古墳	古墳	古墳時代	古墳　2基	土師器 須恵器 円筒埴輪 朝顔形埴輪 形象埴輪 臼玉	帆立貝形前方後円墳 二重亀 装飾付脚付壺 線刻埴輪

宇都宮市埋蔵文化財調査報告第48集

塚山西古墳・塚山南古墳

平成15年3月発行

発　行　宇都宮市教育委員会文化課
（宇都宮市旭1－1－5）
TEL　（028）632－2764

印　刷　下野印刷株式会社
（宇都宮市宝木町1－28）
TEL　（028）622－6953